

人ハ乙地ノ三倍若クハ四倍ヲ負擔スルニ至ルヘシ此不平均ハ配賦法ニハ免ルヘカラサル所ノ者ニシテ通例中央政府地租ノ收入ヲシテ屈伸力ヲ失ハシム假令ヒ然ラサルモ只負擔最モ重キ地方ノ租稅ヲ輕減スルニ止リテ負擔最モ輕キ者ニ増課スルヲ得サルヲ尙佛國ノ景況ニ於ケルカ如クナラン

取分法ハ理論上ニ於テハ爭フヘカラサル便益ヲ有スル者ナリ先ツ第一地主ノ歲入若クハ財産價格ニ應シテ比例ヲ得ルヲ第二收入ヲ増加スルヲ得ヘキヲ如何トナレハ該法ニ據レハ政府ノ收入ハ不動産ノ發達ニ應シテ増加スルヲ得レハナリ然リト雖實際ニ是等ノ利益ヲ得ント欲セハ行政ノ組織取扱完全ナラサルヘカラス而シテ該法ニ據ル時ハ配賦法ニ比スレハ租稅ノ徵收費多カルヘシト雖收入ヲ増加スルニ從テ却テ徵收費ノ割合少ナキニ至ルヘシ如何トナレハ取分法ヲ以テ地租ヲ課スル時ハ農業ノ發達ニ從テ其收入高ヲ増加スルヲ遙カニ配賦法ノ地租ニ勝レルヲ以テナリ

之ヲ約言スレハ配賦ノ法ハ實驗說ニシテ公然正理ニ展ル者ナリ取分法ハ學

理ニ適ヒ平等ヲ失ハサル者ナリ

余輩ハ地租ヲシテ力メテ土地ノ歲入ニ比例セシメ農産ノ發達ニ從テ收入高ヲ増加セシメンコトヲ欲スル者ナリ世ノ實況ヲ見ルニ國費地方費常ニ増加シ交換ノ媒助タル金銀並ニ其代表ナル紙幣ハ年々其價格即チ購買力ヲ失フ然ルニ政府ハ人民ノ歲入ト精密ノ比例ヲ得ヌ且ツ之ヲ重課スレハ營業ヲ妨害スル所ノ消費稅ヲ賴ンテ專ラ其増加スル所ノ經費ヲ補ハント欲スルモ得ヘキニアラス之ヲ以テ幾許カ人民ノ歲入ニ直課セサルヘカラス然ルニ若シ或ハ一般ノ歲入稅ヲ課スルハ強奪ノ患アリトセハ數種ノ直稅ヲ用ヒ相待テ一般ノ歲入稅ニ代ラシメ能ク被稅者ノ財力ト比例ヲ失ハヌ國富ノ發達ニ從テ年々政府ノ歲入ヲ増加セシムルヲカムヘシ

右ノ目的ヲ達セント欲セハ古制ニシテ實驗說ナル配賦ノ法ヲ廢シ平等ニシテ學理ニ適セル所ノ取分法ヲ行ハサルヘカラス陳腐ニシテ不精密ナル算定價格ヲ捨テ新々ニ價格ヲ定メサルヘカラス佛國ノ制副稅ヲ以テ正稅ニ加ヘ地方經費ノ増加ヲ補フニアリト雖其正稅ハ已ニ往々不平均ヲ失フヲ以テ之



ニ比例シテ徴收スル所ノ副税ハ被税者ノ財力ト平均ヲ得サルコトニ甚タシ  
 故ニ方今ノ如ク副税地方税年ニ増加スルニ當リテハ舊時算定ノ價格ハ決シ  
 テ保持スヘカラス試ニ筋力共ニ均シキ甲乙ノ二人アリトセン甲乙共ニ同一  
 ノ重量ヲ負擔セシメント欲スルニ過ツテ甲ニ八十「キログラム」ヲ與ヘ乙ニハ  
 二十「キログラム」ヲ與ヘリ此時ニ當リテ人或ハ云ン現時ノ形狀ヲ改ムヘカラ  
 ス彼輩ハ因習ノ久シキ其負擔ニ慣レ又敢テ之ヲ意トセス今之ヲ改ムルハ不  
 可ナリト然ルニ一旦其負擔ヲ増加スルコトアリテ從來ノ割合ニ比例シテ各々  
 五割ヲ増加セハ甲ノ負擔ハ十五「キログラム」トナリ乙ハ三十「キログラム」トナ  
 ルヘシ斯ノ如クシテ漸々負擔ノ重量ヲ増加セハ乙ハ何ヲ以テカ能ク其重キ  
 ニ堪ンヤ然レトモ若シ當初ノ重量ヲ増加セス負擔ノ不平均ヲ甚シフセサレ  
 ハ舊習トシテ之ヲ固守スルモ稍々怨スヘキモノアラン  
 或ハ土地ノ價格ヲ改定シ地租ノ負擔ヲ動搖スルハ不可ナリトナス其説ニ曰  
 ク每期土地ノ價格ヲ改定スレハ非常ノ時日ト經費ヲ要シ歲入ヲ増加スルモ  
 以テ償フニ足ラサルヘク又改正セル價格ハ果シテ從前ノ價格ヨリ當ヲ得ル

ヤ否ヤヲ知ルヘカラス假令ヒ一時ハ宜キヲ得ルモ忽チ價格ヲ變シテ當ヲ失  
 ヒ勞シテ功ナクベテロープ婦ノ行爲ニ倣フ者ナルヘシト又曰ク斯ノ如ク常  
 ニ土地ノ價格ヲ動搖シテ止マサル時ハ農業ノ進歩ヲ妨害スヘシト

其時日ト費用ヲ要スト云ヒ改定價格ノ確實ナラサルヘシト云フニ至リテハ  
 余輩自ラ説アリ今暫ク之ヲ論辨スルヲ止メ先ツ最後ノ説即チ農業ヲ害スヘ  
 シト云フノ當ラサルヲ論セシ若シ年毎ニ價格ノ改定ヲ行ヒ毫モ被税者ヲ怨  
 セスシテ直ニ租税ヲ増加セハ農業ノ進歩ヲ妨クルコトナシト云フヘカラス元  
 來價格改定ノ事タル常ニ困難ニシテ往々誤謬ヲ免レサル者ナリ課税ノ嚴密  
 ニ過クルハ改進ノ氣ヲ挫折スル者ナリ然ルニ若シ譬ヘハ十年ヲ以テ一期ト  
 ナシテ改正ヲ行ヒ藁莽ヲ開キテ耕地トナシ森林沼澤ヲ變シテ田圃トナスカ  
 如キアラハ數年ノ間(五六年ノ間)租税ヲ免スノ制ヲ設ケハ至平至當ノ法タル  
 ヘシ何ヲ以テカ農業ヲ害センヤ只ニ之ヲ害セサルノミナラス毫モ其進歩ヲ  
 妨クルコトナカルヘシ佛國ノ營業税ニ於テ營業者ヲ處スルノ法ヲ見ハ益々此  
 言ノ虚ナラサルヲ證スヘシ佛國ニ於テ營業税ヲ課スル時ハ器械ノ多少地位



ノ良否等ヲ調査シテ之ヲ定ムルヲ以テ生産ヲ増加セシ者ハ直チニ租稅ヲ增課セラル然ルニ此制度アルカ爲メニ佛國工業ノ進歩ニ害アルヲ證スルニ足ルモノナシ余輩カ行ハント欲スル所ノ法ハ十年ニ一回改正ヲナシ農業ノ變化ニ據リテ土地ノ價格ヲ増加セハ數年ノ間猶豫ヲ與ヘテ租稅ヲ增課セサルニアリ然ラハ則チ何ヲ以テカ農業ノ進歩ヲ妨クルニ至ランヤ

此ニ租稅ノ要ヲ論究セシヲ以テ次テ佛國其他歐洲諸國ニ於ケル地租ハ何如シ又實驗ニ於テ之ヲ徵シ若クハ學理ニ於テ之ヲ行フヘシトナス所ノ徵收ノ如何ヲ講究スルハ當然ナルヲ覺ユ

已ニ云ヘルカ如ク佛國ニ於テハ二種ノ稅即チ農地ト家屋ニ課スル所ノ者ヲ以テ共ニ地租ト稱ス農地ニ課スル正稅即チ中央政府ニ收入スル所ノ者ハ千八百二十一年以來一定不動ナリト雖家屋ニ課スル所ノ者ハ變動スヘキ者ニシテ每年少シク收入ヲ増加ス千八百七十五年ノ豫算表ヲ見ルニ二稅ヲ合セタル地租正稅ノ收入高ハ一億七千五百五十萬フランクトス或ハ云フ其農地ヨリ收入セシ高ハ一億二千二百五十萬フランクニシテ餘ハ家屋ヨリ收入セル

者ナリト又右ノ豫算表ニ地租副稅ノ收入高一億六千五百五十萬フランクナリト云フヲ以テ之ヲ見レハ同年地租ノ總收入高ハ三億三千三百萬フランクナリ然ルニ副稅ノ一億六千五百五十萬フランクニ於テ家屋ヨリ收入セシ者凡ソ四千五百五十萬フランクナリシカ故ニ純然タル地租ニシテ農地ニ課セシ者ハ正稅一億二千二百五十萬フランク副稅一億千六百萬フランク合計僅カニ二億三千八百五十萬フランクニ過キス

右ノ收入額ハ甚々多シトセンカ佛國ノ地主ハ負擔ノ重キニ堪ヘスト云フヘキカ曰ク否ナ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ往時ニ對照スルモ又地代即チ地主ノ純歲入ニ比例スルモ敢テ重シト云フヘカラス

以太利ニ於テハ千八百七十三年ノ決算表ヲ見ルニ地租ノ收入高一億二千六百萬フランクニシテ其他家屋稅五千二百萬フランクアリ以太利ニ於テハ尙佛國ニ於ケルカ如ク右ノ二稅ニ副稅アリ故ニ以太利ノ中央政府ニ收入スル所ノ農地ニ課スル地租ノ總收入高ハ僅カニ佛國ヨリ多シト雖其農業ノ富ハ殆ト佛國農業ノ富ノ三分ノ二ニ及ハサルヲ以テ以太利中央政府ノ地租ハ佛



國中央政府ノ地租ニ比スレハ四割若クハ五割ヲ加フト云フヘキナリ  
 顧ミテ埃地利ノ形況ヲ見ルニ中央政府ノ地租ハ千八百七十三年特ニシスラ  
 イタニ一ニ於テ三千七百萬フラン即チ九千二百五十萬フランクヲ收入  
 シ外ニ家屋稅ノ收入高二千百萬フラン即チ九千二百五十萬フランクヲ收入  
 一ニ於ケル地租收入高ヲ詳ニスルコト能ハスト雖蓋シシスライタニ一ノ地租  
 收入高五分ノ二即チ凡ソ三千七百萬フランクヲ下ラサルヘシ然ラハ則チ埃  
地利帝國ニ於テ農地稅ノ中央政府收入高ハ一億二千九百萬フランクニ下ラ  
 サルヘシ是レ已ニ佛國ノ農地ニ課スル所ノ正稅收入高ヨリ多シ埃地利ニ於  
 テモ佛國ニ於ケルカ如ク其他ニ地方稅アリ而シテ埃地利帝國ノ農業ノ富ハ  
 佛國農業ノ富ノ五分ノ四ニ過キタリト云ヒ難シ故ニ中央政府ノ地租ハ農產  
 收入高ニ比例スレハ佛國中央政府ノ地租ニ過クルコト二割五分トナルヘシ加  
 之ス近年埃地利帝國ニ於テハ歲入稅ノ制ヲ設ケ土地ノ所有產ヨリ得ル所ノ  
 歲入モ亦他ノ歲入ト共ニ之ヲ課ス然ルニ其收入高ハ地租ノ收入高ニ算入セ  
 サル者トス右ノ歲入稅ヲ課スルニ農地ノ所有產ニハ地租ノ三分ノ一ヲ以テ

スルヲ法トス故ニ其歲入稅ヲ通算スル時ハ埃地利帝國中央政府ノ地租ハ土  
 地ノ純歲入ニ比スル時ハ佛國中央政府ノ地租ヨリ多キコト五割ニ過キ  
 我佛國ノ隣邦白耳義荷蘭普魯士ノ諸國ニ於テハ農地ノ地租ノ負擔ハ殆ト佛  
 國ト異ナルナキカ如シ白耳義ハ佛國ト均シク家屋ノ稅ヲ以テ地租ト相混ス  
 千八百七十三年中央政府ノ豫算表ニ載スル所ヲ見ルニ兩稅ノ收入高二千三  
 十六萬フランクトナス白耳義ノ幅員ハ僅カニ佛國ノ十七分ノ一ニ過キスト  
 雖地味ノ豐饒ナル耕耘ノ上達セルカ爲メニ農業ノ富ハ凡ソ佛國ノ七分ノ一  
 ニ達ス然ラハ則チ土地家屋ノ稅二千三十萬フランクハ佛國ニ於ケル一億四  
 千二百萬フランクニ當ルヘクシテ少シク佛國ノ土地家屋ノ稅ヨリ輕シ  
 荷蘭モ亦家屋稅ヲ以テ地租ト混ス千八百七十三年ノ豫算表ニ於テハ其收入  
 高千二十四萬六千フーリン即チ凡ソ二千三百萬フランクアリト稱ス該國  
 ノ幅員ハ佛國ノ十六分ノ一ニ過キスト雖農業大ニ進歩セルヲ以テ農業ノ富  
 ハ蓋シ佛國ノ九分ノ一ニ達セン故ニ土地家屋ノ稅二千三百萬フランクハ佛  
 國ニ於ケル一億八千四百萬フランクニシテ殆ト相ヒ同シト云フヘシ



普魯士ノ地租ハ判然家屋ノ税ト區別スル者ニシテ中央政府ノ地租收入高ハ千三百五萬五千「ターラ」即チ凡ソ四千九百萬「フランク」ナリ普魯士ハ人口二千五百萬ヲ有シ幅員ハ三十五萬二千方「キロメートル」佛國幅員ノ三分ノ二ニ過キス地味ノ豐饒ナルハ佛國ニ及ハサルヲ以テ農産ノ純收入ハ佛國農産ノ純收入ノ半ニ過クヘカラス是故ニ該國地租ノ收入四千九百萬「フランク」ハ佛國ニ於ケル九千八百萬乃至一億萬「フランク」ニ當ルト云フヘシ是ヲ以テ之ヲ見レハ普魯士ノ地租ハ土地ノ收入ニ比例シテ佛國ノ地租ニ及ハサルヲ凡ソ五分ノ一乃至六分ノ一ナルヘシ然リト雖普魯士ハ歳入税等級税ノ制アリテ一般ノ歳入ニ税シ土地ノ歳入モ亦均シク負擔スルヲ以テ遂ニ農地ノ負擔ハ佛國ニ過キン

本文ノ以太利、墺地利、白耳義、荷蘭、普魯士ノ收入表ハモーリス、ブロック氏ノ經濟統計年表(千八百七十四年分)ニ據ル

次テ英國ノ景況ヲ見ン余輩ハ佛國ノ地租ヲ以テ重カラスト稱シ右ニ歷舉スル諸國ノ例証ヲ見レハ頗ル其言ノ當レルカ如シ然ルニ今一步ヲ進ンテ英國

ノ形況ヲ見レハ佛國獨リ地租ノ輕キニアラサルヲ知ラン抑英國ノ中央政府ニ收入セル所ノ地租ハ常ニ一定シテ會計豫算表ニ揚クル所ハ百十萬四千「ポンド」即チ二千七百五十萬「フランク」ニシテ家屋税ヲ合算セス之ヲ以テ佛國ノ地租ニ比スレハ其相去ルヲ甚タ遠キヲ以テ農業ノ保庇者ハ此比較ヲ以テ無識ノ検査官ヲ迷ハシムルヲ得ヘシ然リト雖只專ラ中央政府ノ收入高ヲ比較シテ其他ヲ問ハサレハ恐クハ過チヲ免レサラン英國地租ノ制ハヒット氏ノ時ヨリグラッドストーン氏ニ至ル迄財政上ノ一奇法ヲ行ヒシ者ト云フヘシ其制タル被稅者ヲシテ望ニ從ヒ政府ニ資本ヲ拂ヒ毎年ノ租税ヲ免ルヲ得セシムル者ニシテ即チ租税ヲ買ハシムル者ナリ該法ヲ以テ悉ク全國ノ地租ヲ賣ルニ至ラサリト雖之ヲ買フ者モ亦少カラスシテ大ニ地租ノ收入ヲ減セリ若シ斯ノ如キヲナカラシメハ全英國地租ノ收入高ハ方今ノ收入高ニ倍スヘキヤ明カナリ千七百九十八年前即チ地租賣買ノ行ハレシ前ハ中央政府地租ノ收入高五千百萬「フランク」アリ(内地租税取調委員ノ報告第二卷百五十九葉ヲ見ルヘシ)加フルニ英國ニ於テハ歳入税ノ法アリテ土地ノ歳入モ亦



均シク他ノ歳入ト共ニ之ヲ負擔ス英國歳入税ノ二種即チ甲種乙種ハ土地ノ歳入ニ關ス乙種ハ農民ノ利益ニ課スル者ニシテ千八百七十二年度ノ歳入高ハ三十二萬九千「ポンド」即チ八百餘萬「フランク」アリ甲種ハ家主地主ノ歳入ニ課スル者ニシテ同年度ノ歳入高二百五十三萬九千「ポンド」即チ凡ソ六千四百萬「フランク」ナリ然ルニ英國ニ於テハ土地ノ歳入價格ハ家屋ノ歳入價格ニ及ハサルヲ以テ右歳入高七分ノ三即チ二千八百萬「フランク」ヲ以テ鄉村地主ニ課セシ者トナスヘシ「千八百七十三年統計年表」ニ於テ歳入税ヲ課シタル土地家屋ノ歳入表第十七葉ヲ見ルヘシ此ニ於テカ英國ノ中央政府ニ收入スル地租二千七百五十萬「フランク」歳入税ノ目ヲ以テ農民ノ利益ニ課スル者八百萬「フランク」鄉村ノ地主ニ課スル者二千八百萬「フランク」通計六千三百萬「フランク」ナルヲ知ルヘシ

ピット氏ノ時ヨリグラッドストーン氏ノ時ニ至ル迄地租ノ一部ヲ購買セシメタルカ爲メニ非常ニ收入ヲ減セリト云ヒ難シト雖亦願ルニ足ラスト云フヘカラス然リト雖此ニ最モ注意セサルヘカラスナル者ハ土地カ地方税ヲ負擔

スルコト是ナリ英國ニハ入市税ノ法ナク郡市邑宗邑皆其經費ヲ直税若クハ市場税等ノ如キ諸税若クハ瓦斯費用水費ノ如キ獨占事業ニ取ルト雖就中直税ヲ以テ最要ナル財源トス千八百七十三年調製ノ統計年表ヲ見ルニ千八百七十一年度ニ於テ地方直税ノ歳入高ハ全英國ニ於テ二千七百七十八萬六千四百八「ポンド」即チ凡ソ五億四千五百萬「フランク」ニシテ地方ノ諸間税并諸費ノ收入高ハ僅ニ四百六十五萬八千八百八十八「ポンド」即チ凡ソ一億千百萬「フランク」ナリ「千八百七十三年統計年表第六葉」ヲ見ヘシ右ノ直税五億四千五百萬「フランク」ハ農地ニ課スル者アリ家屋ニ課スル者アリ今前ニ舉クル所ニ從ヒ其七分ノ三八農地ニ課スル者トセハ二億三千三百五十萬「フランク」ハ農地ノ負擔ニシテ餘ハ悉ク家屋ノ負擔ナルヘシ

由是觀之ハ英國農地ノ負擔ハ國費六千三百萬「フランク」地方費二億三千三百萬「フランク」ニシテ合計二億九千六百萬「フランク」ナリ佛國農地ノ負擔ハ已ニ論述セシ如ク國費一億二千二百萬「フランク」副税一億千六百萬「フランク」合計二億三千八百萬「フランク」ナリ只其總額ヲ對比スル時ハ英國農地ノ負擔ハ佛國



ヨリ多キヲ凡ソ五分ノ一トナル蓋シ英佛兩國農業ノ富ハ相均シト云フモ妨  
 ケナカルヘシ如何トナレハエングランドノ耕耘ハ概シテ佛國ニ優ルト雖ア  
 イヤランドハ六ニ之ニ異ナリスコットランドノ一方ハ地味貧瘠ナリ全英國  
 ノ幅員ハ僅カニ佛國幅員ノ五分ノ三ニ過キヌ加フルニ佛國南部ノ農利ハ英  
 國ノ企及フ能ハサル所ノ者アレハナリ然ラハ則チ英佛兩國農業ノ富ハ敢テ  
 異同ナカルヘキヲ以テ英國農地ノ負擔ハ少シク佛國ヨリ重シト云ハサルヘ  
 カラス

右ニ歴舉比較スル所ヲ以テ之ヲ見レハ以太利墾地利農地ノ負擔ハ實ニ佛國  
 ヨリ重ク英國モ亦然ルヲ知ル荷蘭白耳義普魯士ノ地主ノ位置ハ佛國ノ地主  
 ト殆ト異ナルナシ佛國ノ地主獨リ不滿ヲ抱クノ理アラシヤ

今佛國ノ地租ヲ以テ諸國ノ地租ニ比較スルヲ止メ現今ノ地租ヲ以テ佛國ニ  
 於テ百年以來土地ニ課セシ所ノ直税及ヒ他ノ數稅ト相比較セハ亦地主カ不  
 滿ヲ抱クヘキノ理ナキヲ証セン  
 佛國現今ノ地租ハ實ニ委員總會ニ始マルト雖爾後數回ノ變遷ヲ經タリ委員

總會ハ千七百九十年十一月二十三日及ヒ十二月一日ノ法令ヲ以テ從來不動  
 産ニ課セシ所ノ租稅ヲ廢シテ現法ノ地租ヲ設ケ土地ノ歲入即チ農地ノ地代  
 并ニ家屋ノ貸賃六分ノ一ヲ徵收スヘキヲ定メタリ當時家主地主ノ純歲入ハ  
 十四億四千萬フランクアリ之ニ六分ノ一ヲ課スルヲ以テ二億四千萬フラン  
 クノ收入ヲ得ヘシト豫算セリ而シテ州ノ經費トシテ一フランク毎ニ副稅五  
 「ス」ヲ課セリ之ヲ以テ其全租稅ノ高ハ三億フランクトナリ千八百七十五年  
 ニ於ケル地租ノ正稅副稅ノ收入ニ及ハサルヲ僅カニ三千三百萬フランクノ  
 ミ此ニ注意スヘキ一點ハ革命ノ際ニ設置セシ所ノ地租ハ二種ノ租稅即チ農  
 地ニ課スル者家屋ニ課スル者ヲ混合セシニアリ而シテ此法タル今日ニ至ル  
 マテ尙其別ヲナサヘル所ニシテ余輩ハ殊更ニ意ヲ用ヒテ之カ別ヲナセシハ  
 讀者ノ記スル所ナラン

革命政府ハ不動産ノ純歲入十四億四千萬フランクト豫算セシヲ以テ其收入  
 ハ三億フランクヲ得ヘクシテ歲入ノ五分ノ一ニ過クル者ナリ豈ニ重シト云  
 ハサルヘケンヤ然ルニ茲ニ參考セサルヘカラサル事實アリ第一當時政府ノ



豫算セシ純歲入十四億四千萬フランクハ蓋シ未タ其實ヲ得サルヘシ之ヲ以テ農地所有產ノ歲入價格ノミトセハ當然ナルヘシト雖家屋ノ歲入ヲ合算スル時ハ必ス此額ニ止マラサルヘシ已ニ論述セシカ如ク方今英國ニ於テハ家屋ノ歲入即チ住處、荷庫、製造處等一切ノ建物ノ歲入ハ土地ノ歲入ニ過ク佛國ニ於テ革命ノ時ニ當テハ斯ノ如クナラスト雖家屋ノ純歲入ハ土地ノ純歲入ノ凡ソ三分ノ一ニアリシト云フモ敢テ大過ナカルヘシ然ラハ則チ土地ノ歲入ハ僅カニ十二億フランクナリト假想スルモ全不動產ノ歲入ハ十六億フランクトナル故ニ革命政府ノ不動產稅ハ副稅ヲ合セテ其實不動產歲入ノ五分ノ一ニ達セサルモノナリ

佛國ノ委員總會ニ於テ決定セシ地租實際ノ輕重ヲ見ルニ參考スヘキ一他ノ點アリ即チ舊制ナル複稅法ヲ廢止セシト并ニ從前租稅ヲ免レタル貴族寺院ニ租稅ヲ課セシト是ナリ舊制ニ於ケル土地ノ負擔ヲ精算スルニ由シナシト雖其總額ハ委員總會ニ於テ設置セシ所ノ地租并ニ其副稅ノ高ニ過クルヤ疑ヲ容レサルナリ千七百八十九年五月一日子ケル氏カ國會ニ出セシ歲入表ヲ

見ルニ總歲入高五億四千四百萬フランクニ於テ直稅一億九千百萬フランクトス其他多カラスト雖地方ノ地租アリ然ルニ其一億九千百萬フランクハ悉ク土地家屋ノ稅ニアラス其一部ハ動產ニ課セシ者ニシテ不動產ノ稅ハ實ニ一億五千萬フランクニ過キサレヘシ之ニ十一ノ稅一億三千三百萬フランクノ加フヘキアリ其他數種ノ租稅アレトモ一々枚舉精算スルニ由シナシ然レトモ右ノ二項ヲ以テ既ニ舊制ニ於テハ中央政府及ヒ寺院ノ收入高二億八千三百萬フランクニ達スルニアラスヤ而シテ當時是等ノ租稅ヲ負擔セシハ僅カニ全國三分ノ二ニシテ寺院貴族ノ如キハ往々毫モ之ヲ負ハス偶々之ヲ負フモ僅々タル稅額ニ過キサリシ者ナリ然ルニ委員總會ハ寺院貴族ニ特惠ヲ許サ、ルヘケレハ千七百九十年ニ於テハ舊稅法ニテモ土地ニ課スル租稅ノ收入高ハ三億千四百萬フランクヲ得タルヘシ由是觀之ハ委員總會カ全國ノ不動產ニ正稅副稅トシテ三億フランクヲ課セシハ却テ土地ノ負擔ヲ減セシ者ト云フヘキナリ然ルヲ舊租稅ノ煩雜苛刻ナリシハ人又之ヲ記セス現制ノ地租ハ却テ其薄償ナルヲ知ラサルヲ如何セン



革命政府ノ地租ハ斯ノ如クナリシヲ以テ若シ國家ニ騷亂ナク政府動搖セス  
 行政慎密ナラシメハ國民ハ敢テ其負擔ニ堪ヘ難キニアラスト雖戰亂相續キ  
 人馬ノ召募度ナク紙幣ノ増發アリ定價條例ノ令アリ社會一般秩序ヲ失ヒ人  
 民塗炭ニ苦ミ爲メニ地租ノ收入停滯セシ者少ナカラス又其地租ヲ以テ行政  
 區ニ配賦セシヤ當時未タ地租ノ原簿即チ人民所有地明細帳ナカリシヲ以テ  
 從前負擔ノ割合ニ應シテ之ヲ配賦シ大ニ不平均ヲ致セリ  
 其不平均ヲ改メ地租ノ負擔ヲシテ偏重ナカラシメ且ツ其收入ヲシテ大不同  
 ナカラシメンコトヲ欲シ負擔最モ重キ諸州ノ賦課ヲ輕減シ共和政府ノ末年ヨ  
 リ千八百二十一年ニ至ルマテ陸續地租正税ノ收入高ヲ減シ二十五年ノ間ニ  
 於テ殆ト四割ヲ減セリ千七百九十年ノ條例ヲ以テ地租正税ノ額ヲ定メ二億  
 四千萬フランクトナセシヨリ以來之ヲ減少セシ者左ノ如シ

千七百九十七年	二一八、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千七百九十八年	二〇七、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千七百九十九年	一八九、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ

千八百二年	一八三、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百四年	一七四、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百五年	一七二、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百十九年	一六八、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百二十一年	一五四、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ

爾後地租ノ正税ハ千八百三十五年ノ條例ヲ以テ家屋ノ税ハ動搖スル者トナ  
 シ家屋ヲ廢スル時ハ共ニ税ヲ廢シ新タニ家屋ヲ建ル時ハ税ヲ課スヘシトシ  
 少シク舊法ヲ加減セリ今日ニ至ルマテハ新築家屋ノ數及ヒ其歲入常ニ廢毀  
 家屋ノ數ニ超ヘ從ツテ地租正税ノ收入ハ年々増加シ千八百三十五年ノ條例  
 發行以前ハ一億五千四百萬フランクナリシニ千八百七十五年ニハ増シテ一  
 億七千百萬フランクトナレリ由是觀之ハ家屋税ヲ動搖スルカ爲メニ地租ノ  
 正税ハ每年平均凡ソ八十萬フランクヲ増加スト雖農地ニ課スル所ノ地租正  
 税ニ至リテハ千八百二十一年以來毫モ變動スル所ナシ  
 地方税ナル副税ニ至リテハ常ニ増加スルヲ以テ農地并ニ鄉村ノ財産ニ課ス



ル所ノ地租ハ千八百七十五年ニハ増シテ三億三千三百萬フランクトナリ爾後モ年ニ増加ノ勢アリ然ルニ副税ニ注意スヘキモノアリ第一副税ハ少ナクモ其一大部分ハ土地ノ價格ヲ増加スル所ノ道路建築若クハ他ノ起業費ニ供スル者ト云フヘク第二方今ノ地租ハ正副ヲ合セテ委員總會ニ於テ設置セル所ノ地租正副ノ額ニ超ユルコト僅カニ三千三百萬フランクニ過キス然ルニ當時ヲ以テ今日ニ比スレハ土地ノ價格歲入兩ナカラ大ニ増加セリ第三副税ノ一部分ハ永久ナル者ニアラス早晚廢業ニ屬スヘキ者ナリ如何トナレハ方今ハ公債ノ元利仕拂ノ爲メニ用ヒラル、所アルヲ以テナリ然ルニ或ハ云フ假令ヒ舊公債ヲ償却シ終ルト雖副税ヲ廢スルニ至ラサルヘシト蓋シ其レ或ハ然ラン然リト雖公債ヲ償還シ終ル時ハ之ヲ以テ公益事業ヲ起シ一層土地ノ歲入ヲ増加スルコトヲ得ン

千七百九十年佛國不動產ノ純歲入十四億四千萬フランクナリトセリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ村地ノ歲入ヲ以テ市地ノ歲入ニ合算スル時ハ僅ニ此額ニ止マラサルヘシ千八百二十一年ニ於テハ全不動產ノ歲入十五億八千萬

フランクトセリ是レ前計ニ比スレハ稍々精密ナルヘシト雖未タ遙カニ實額ニ及ハサルヘシ

千八百五十一年ニ於テ佛國政府カ調製セシ新表ハ前年ノ計算ニ比スレハ遙カニ精密ナルヘシ該表ニ據レハ佛國不動產ノ純歲入ハ二十六億四千五百萬フランクナリトス蓋シ其實ニ近ヤ者カ千八百六十二年ニ至リ政府ハ更ニ價格ヲ調査シ土地ノ歲入三十二億千六百萬フランクトセリ千八百七十四年大藏卿ノ計算ニ據レハ其歲入ハ方今三十九億五千九百萬フランクニ達セリト云フ右ノ計表ノ額ハ農地ノ歲入ハ勿論一切ノ建物ノ歲入ヲモ合算スル者ト知ルヘシ故ニ一切ノ不動產ニ課スル所ノ地租正副ヲ合セテ三億三千三百萬フランクハ純歲入ノ八分四ニ當ル者トス千八百五十一年ニハ地租正副ノ收入二億五千九百萬フランクニシテ歲入二十六億四千五百萬フランクナリシヲ以テ九分八ノ徵課トナル千八百二十一年ニハ地租正副ノ收入二億四千萬フランクニシテ歲入ノ算定高十五億八千萬フランクナリシヲ以テ一割五分ニ當ル尤モ千八百二十一年ノ歲入價格ハ遙カニ其實ニ及ハサリシヤ疑



ヲ容レサル所ナリト雖千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄ノ間佛國ノ地租ハ正稅副稅ヲ合セテ僅カニ九千二百萬フランク即チ四割ノ増加ニ過キスト雖鄉村市府不動產ノ歲入ノ増加ハ一倍ニ過キタリト云フモ敢テ大過ナカルヘシ

レオン、セー氏カ千八百七十六年三月二十三日下院ノ會議ニ於テ論議セシ地租ノ徵收法改正ニ關スル條例ノ議案ヲ見ルニ佛國土地ノ歲入額并ニ地租正稅ノ收入額ニ付五時代ノ形況ヲ載セリ則チ左ニ

價格定算時	土地ノ純歲入高	正稅徵課高	歲入ト徵收高ノ比例
千七百九十一年	一四四〇、〇〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇、〇〇〇	一割六分六六
千八百二十一年	一五八〇、五九七、〇〇〇	一五四、六七八、一三〇	九分七九
千八百五十一年	二、五四〇、〇四三、〇〇〇	一五五、〇六四、三六六	六分〇六
千八百六十二年	三、〇九六、一〇二、〇〇〇	一五九、四九二、六六三	五分一五
千八百七十四年	三、九五九、一六五、〇〇〇	一六七、九六九、〇二八	四分二四

表中前章ニ舉グル所ノ數ト異ナル者アルハセー氏ハ千八百五十一年千八百六十二年ノ配賦高ニ於テアルサースロレーン二州ノ配賦高ヲ除算セシヲ以テナリ

實ニ佛國政府ハ千七百九十七年ヨリ千八百二十一年迄ノ間大ニ地租正稅ノ額ヲ減シ千八百五十一年ニ至リ又中央政府ノ經費トシテ二千七百萬フランクヲ得シ所ノ十七、サンチームノ副稅ヲ廢セリ又右ノ表ヲモ合セ考フル時ハ其全体ニ於テハ歲入ニ比較シテ其負擔漸次輕減スルヲ見ル然ラハ則チ佛國ノ不動產所有主ハ國稅若クハ地方稅ヲ以テ重シトスルノ理ナカルヘシ然ルニ佛國ニ於テ地租ノ徵收割合ニ輕シト云フ者アラハ頗ル輿論ノ意ニ違フ者ニシテ不動產ノ所有主ハ皆自ラ以爲ラク方今ノ地租ハ重シト何ヲ以テカスノ如ク輿論ト學理ノ探究ト相背馳スルヤヲ考フルニ其理由ニアリ一ハ第十九紀ノ初凡ソ二十五年ノ間數々地租ノ改正ヲ計リシト雖方今尙未タ大ニ不平等ノ配賦ヲ免レサルニアリ(後章ニ於テ其不平等ヲ論明スヘシ)然ルニ其重ナル理由ハ地主等カ現今ノ地租ノ格段ナル起因ヲ問ハスシテ政府ノ公



債證書所有主若クハ他ノ動産所有主ノ負擔ヲ比較シ其負擔ノ均シカラサルヲノミ注目スルニアリ獨リ各種財産ノ負擔ヲ顧ル時ハ地主等ノ言亦理アルカ如シ如何トナレハ諸動産ノ税ハ僅カニ其歳入ノ三分ニ過キス政府公債證書ノ利子ハ租税ナク而シテ地主ハ平均八分五ヲ拂フヲ以テナリ然ルト雖其比較ハ未タ當レリト云ヒ難シ請フ之ヲ陳セン方今ノ地租正税ハ千七百八十九年前ニ於テ中央政府某公會及ヒ某一個人ノ經費トシテ地主ニ賦課セシ所ノ數多ノ租税ニ比スレハ遙カニ輕ク且ツ動産税ハ近年ノ設置ニヨル者ニシテ當時未タ一ノ負擔ナカリシニ地主ハ之ヲ顧ミスシテ只管ラ現況ニ注目シ又土地ハ一種ノ財産ニシテ社會ニ對シテ格段ナル義務ヲ有スル者ナルニ地主ハ之ヲ忘ルカ如シ何ヲ以テカ社會ニ義務ヲ負フト云フ曰ク永世ニ土地ヲ私有スルハ天理ニアラスシテ政治上ノ制度ナリ而シテ地主タル者ハ勞力ヲ費シタル報酬ヲ得ルニ止マラス天功ヲ合セテ其利ヲ得ルカ故ニ土地ノ所有者カ得ル所ノ純歳入ハ往々國內一般相當ノ勞力ノ報酬及ヒ實際耕耘ニ用ヒ或ハ土地ノ開墾改良等ニ用フル資本ノ利子ニ過ルヲ以テナリ加フルニ地主

等ハ動産ト云フ者ハ農業若クハ工業ニ使用スル所ノ資本ノ代表證書ニ過キス而シテ其動産トナリ三分ノ租税ヲ負擔スル以前已ニ地租若クハ營業税ヲ負擔セシヲ思ハサル者ニアラスヤ

地主等カ往々忽カセニスル所ノ者ハ只ニ此ニ止マラス抑地租副税ヲ以テ收入スル者ハ公益事業ノ經費ニ給シ又ハ直接ニ若クハ間接ニ地主ヲ利スル所ノ公益事業ノ爲メニ募集セシ公債ノ元利仕拂ニ供スル者ナリ故ニ地主等ハ宜シク地租副税ノ一部分ハ道路橋梁ノ建築修繕費ニシテ己レノ利益ノ爲メニ費ヤス所ノ者ト見做スヘク一概ニ租税ト思フヘカラス然ルニ動産税ニ至リテハ此ト異ナリ而シテ又副税ノ一部ハ公益事業ノ爲メニ募集セシ公債ノ償却ニ供スルヲ以テ十五年乃至三十年ヲ出スシテ右ノ副税ハ減セラルヲ得ヘク若シ之ヲ減セサレハ新事業ニ用フル公債ノ仕拂ニ充ルヲ得ヘキ者タルヲ考ヘサルヘカラヌ是等ノ事實ニ於テハ獨リ地主ニ云フヘクシテ動産ノ所有主ニ云フヘカラサル者ナリ

地主等或ハ云ン方今ノ勢地方副税年ニ増加スルモ毫モ之ヲ減スルノ色ナシ



ト曰ク既往ニ於テハ然リ然ルト雖將來ニ於テハ州邑ノ公債減少スルニ從ツ  
 テ副稅モ亦減スルヲ得ヘシ茲ニ又一言セサルヘカラサル者ハ地方濫費ノ弊  
 是ナリ某州某府ニ於テハ往々無用ノ修飾驕侈ヲ事トシ土木ヲ起ス者少ナカ  
 ラス然ルニ斯ノ如キコアラシムル者ハ地主等カ自ラナセル者ナリ何爲ソ地  
 方會議ニ於テ費目ノ節減ヲカメサルヤ  
 思フニ方今農地并ニ市地ニ課スル所ノ正稅副稅ハ平均八分四ナリト雖之ヲ  
 以テ一割トナスモ毫モ不便ナク殆ト七千萬フランクノ收入ヲ増加スルヲ得  
 ヘシ又増加シテ一割二分トナスモ強テ危險ナク不正ナク而シテ其收入ハ一  
 億五千萬フランクヲ増加スヘシ然ルニ被稅者ヲシテ其增稅ヲ甘受セシメン  
 ト欲セハ同時ニ大ニ間稅并ニ動產ノ讓與稅ヲ減セサルヘカラス余輩ハ後篇  
 ニ於テ不動產遺傳稅ヲ減シテ百フランクニ付五十サンチムトナスノ大便  
 益アルヲ論明セン之ヲ減スル時ハ政府ノ收入ヲ減スルカ故ニ其償補トシテ  
 地租ヲ増加スルヲ要ス加フルニ地租ノ配賦ヲシテ宜キヲ得セシメサルヘカ  
 ラス其徵收額ハ一定不動ニセスシテ不動產ノ富ノ發達ニ應シテ増加スルヲ

得セシメサルヘカラス請フ今ヨリ其方法ヲ講究セン  
 已ニ論セシ如ク佛國ニ於テ始テ地租ヲ設置セシニ當リテヤ實驗論ヲ以テ配  
 賦法ヲ施行セリ此制タル一時ノ便法トシテ之ヲ行フヲ得ヘシト雖政法漸ク  
 進ムニ至リテハ決シテ固守スヘキノ制ニアラサルナリ又其配賦ヲナセシヤ  
 既往ノ賦課ニ比例セシヲ以テ之ヲ永遠ニ行フヘカラサルハ自然ノ勢ナリ當  
 時委員惣會ハ國家ノ財政ヲ以テ正平ニシテ學理ニ適セシメ地租ノ賦課ヲシ  
 テ一層法式アラシメンコヲカメ遂ニハ取分稅法タラシメント欲スルノ意ア  
 リ故ニ令ヲ發シテ曰ク被稅者ニシテ地租正稅ノ負擔土地歲入ノ五分ノ一以  
 上ニ至ル者アリテ昭然事實ヲ明証セハ其負擔ヲ減シテ五分ノ一トナスヘシ  
 ト之ヲ以テ多少配賦法ノ弊ヲ矯メンコヲ計レリ  
 凡ソ地租ヲ課スルニハ其基礎トシテ據ルヘキ所ノ原簿ヲ製セサルヘカラス  
 地租原簿ニ二種アリ一ヲ略分原簿ト云ヒ一ヲ精分原簿ト稱ス精分原簿ヲ調  
 製スルニハ數多ノ歲月ヲ要スヘシ略分原簿ハ只ニ配賦ヲシテ稍々不平均ヲ  
 免レシムルニ過キス獨リ精分原簿ヲ以テ眞ニ分收稅法タルヲ得セシムル者



トス

略分原簿ハ土地ノ廣狹作物ノ品種ニ基キ各邑ノ土地歳入ノ惣高ヲ調査セシ者ニシテ各地主ノ歳入ニ及ハス故ニ政府カ行政區ニ配賦ヲ行フニ當リテ少シク不平均ナカラシムルニ過キサルノミ精分原簿ヲ製スル時ハ常ニ無用ノ者トナルナリ

佛國ニ於テ千七百九十一年ノ條例ヲ以テ初テ精分原簿ヲ製スルノ意ヲ示メシ千八百七年ノ條例ヲ以テ之ヲ實施スヘキヲ令シ千八百五十年ニ至リカンタル州ニ在テ成ルヲ告ケ初メテ其功ヲ終レリ其間實ニ四十三年ニシテ一億五千萬「フランク」ノ費用ヲ要セリト云フ何ヲ以テカスノ如ク數十歳月ヲ要スル者ナルヤ

精分原簿ハ初メテ以太利ニ於テ行ハレミラン府ヲ以テ其最トス後チ佛國ニ入リ王政ノ時初メテモンタウバンノ州ニ行ハレタリ精分原簿ノ義解ハ左ニ如クモノナカルヘシ

精分原簿ハ耕地ノ類別、性質、價格、ノ明細帳ニシテ各地主ノ反別、耕植ノ種別、

若クハ天爲人造ノ區畫ニ至ルマテ其著シキ者ハ悉ク之ヲ記載スル者ナリ右ノ義解ハ簡單ナリト雖説キ得テ盡セリト云フヘシ其帳簿ハ常ニ修正補綴シテ止ム時ナカルヘシ若シ之ヲ以テ地租ノ原簿トナシ地租ヲシテ常ニ歳入ニ比例セシメン「フ」ヲ欲セハ左ノ二事ヲ守ラサルヘカラス第一常ニ土地ノ賣買讓與并ニ分割合併ニ注意スル「フ」第二土地價格ノ變動若クハ歳入ノ増減ニ由リテ制定價格ヲ折衷スル「フ」是ナリ然ルニ方今ニ至ル迄第一條ノ點ニ於テ僅カニ注意セシノミ第二點ニ至リテハ毫モ顧ミル處ナシ

斯ノ如ク地租原簿ハ土地ノ類別、性質、價格、ノ明細帳ナルヲ以テ廣狹區畫ノ測量測量順序ト生産力負擔力ノ調査經濟財政ノ順序ヲ經テ始テ成ル測量順序ニ由テ各部ノ測量圖ヲ製ス各部トハ天然ノ地形人造ノ區畫所有主ノ類別耕植ノ性質ニ由リテ別ツ所ノ土地ノ區分ヲ云フ而シテ後各部ノ地圖ヲ縮小シ各邑ノ全圖ヲ製ス其方法左ノ如シ

先ツ各邑ノ境界ヲ定メ(此事ハ容易ニナシ得ヘキ者トス)之ヲ小部ニ分チ三角分形ノ法ヲ施コシ然ル後每部ノ測量ヲナシ地圖ヲ製ス其事務ヲ任スル者ハ



直税ノ官吏ト測量師ニアリ地主ハ其際ニ於テ事務ヲ討議斟酌スルヲ得ヘキ者トス右ノ測量地圖成ル時ハ一本ヲ製シテ各邑ニ備ヘ又各部ノ地圖ヲ縮小シテ一萬分一ノ全圖ヲ製シテ卷首ニ附シ其邑ノ疆界小部ノ區分道路山川森林ノ位置ヲ示メス然ル後其全圖ノ寫ヲ製シ州ノ知事及ヒ陸軍ノ編纂課ニ呈シ此ニ於テ測量順序全ク終ル

測量地圖成ルノ後ハ地租ヲ賦課スルカ爲メニ歳入ヲ算定セサルヘカラス之ヲ如何セハ則チ可ナランカ佛國ノ制ニ從ヘハ各部ノ歳入ハ精密ニ計算スルヲ要セス各邑共ニ算定ノ原則ヲ同フスレハ足ル者トセリ各部ノ歳入ヲ算定スルニ當リ二割乃至五割ヲ減視スルノ意ヲ以テ之ヲ行ヒ敢テ非常ノ不便ヲ見サリシ所以ノ者ハ佛國ノ地租ハ配賦法ニシテ取分法ニアラサルニ由ル故ニ各部歳入ノ價格算定ノ事務ハ專ラ其邑内ノ地主ヲシテ之ヲ司トラシメ或ル事務ニ於テ他邑ノ地主ヲシテ共ニ事ヲ執ラシメタリ其方法左ノ如シ歳入價格ヲ算定スルニ事務ヲ分ツテ三次トナシ次ヲ逐フテ之ヲ定ム即チ分級定級定格是ナリ

分級トハ不動産ノ良否ノ度ニ從ツテ數箇ノ種類ヲ分ツヲ云フ五名ノ地主ヲシテ其事ニ當ラシム其二名ハ他邑ノ地主ヲ以テ之ニ任スル者トシ邑會ノ議員之ヲ撰定ス階級ノ數ハ農地ハ五級ヨリ多カラス鄉村ノ邑ノ家屋ハ十級ヨリ多カラサル者トシ市府ノ邑ノ家屋ハ級ヲ分タスシテ各々別ニ價格ヲ定ム右ノ階級ヲ定ムルニハ先ツ最上等最下等ノ兩點ヲ定メ餘ハ之ニ準シテ級ヲ分ツ

第一次ニ於テ其大体ヲ立テ地主等ハ次テ各部ノ地ヲ以テ其階級ニ配賦ス之ヲ定級ト云フ右ノ順序ヲ經タル時價格ノ算定ヲナシテ土地ノ大小ニ從ヒ毎級其純歳入ノ額ヲ定ム之ヲ決定スル者ハ邑會議員ニシテ地租ノ最大額ヲ拂フ所ノ地主ト相議シテ之ヲ決ス其地主ノ人員ハ議員ノ數ト均シフス右ノ定格ニ於テハ農地ノ性質ニ由リ各級ノ歳入ヲ決スルヲ以テ各種各級ノ價格ヲ定ムル時ハ各部法律上ノ純歳入ヲ知ルヲ得ヘク從ツテ邑ニ於ケル各地主ノ法律上ノ純歳入及ヒ全邑ノ土地ノ歳入ヲ知ルハ容易ナリ地主ノ階級ヲ定ムルニ不當ナリト考フル時地主ハ法廷ニ訴ヘ改正ヲ請求スルヲ得ヘシト雖分



級ト定格ニ至リテハ其不當ヲ訟フル所ナシ只行政府ヲシテ其不當ヲ悟ラシムルニアルノミ

斯ノ如ク各部歳入ノ價格ヲ定メ邑中ニ於テ同地主ニ屬スル者ハ地租原簿ノ同項ノ下ニ記載スルヲ法トス而シテ右ノ原簿ハ直稅局ニ出シ一本ヲ邑廳ニ備フ

地租ヲ以テ邑ノ居民ニ配賦スルハ甚々容易ナルヘシ若シ其邑ニ於テ出スヘキ總高并ニ其土地ノ總歳入ヲ知レハ稅額ヲ以テ歳入ニ配賦スルヲ以テ足レリトス例ヘハ其邑ニ於テ拂フヘキ地租ノ額ハ總歳入ニ比較シテ一割〇分五ナル時ハ地主ヲシテ各々其土地ノ歳入ノ一割〇分五ヲ拂ハシムルカ如シ地租ノ原簿ハ地主ノ變更アル毎ニ之ヲ修正スヘキ者トシ直稅局ノ吏員コントローラルヲシテ之ヲ司トラシム右ノ吏員ハ財產受渡ノ約定書地主ノ申告收稅吏ノ扣帳ニ基キ之ヲ修正補綴ス又「コントローラル」ハ租稅ノ配賦ヲ司トル吏員ト共ニ各邑ニ於テ土地變更ノ事ヲ檢察シ或ハ新築ノ建物ヲ調査シテ建築後三年ニ至レハ租稅ヲ課スヘキカ故ニ其價格ヲ算定ス是等ノ事務取扱

ノ順序ヲ書シテ直稅局長ニ出シ直稅局長ノ認可ヲ經テ然ル後地租原簿ニ之ヲ記載ス然ルニ同時ニ測量地圖ヲ改ムルヲ要セス之ヲ以テ一旦土地ノ形勢ヲ變更スル時ハ其地圖ハ實勢ヲ表セサル者トナル

余輩カ此ニ右ノ方法ヲ細述スル者ハ其方法ノ頗ル奇巧ナルカ如シト雖欠點ノ甚シキ者アルヲ以テナリ請フ之ヲ陳セン

右ノ方法ニ由リテ地租ヲ課スル時ハ邑ノ賦額ヲ以テ地主ニ配賦スルニ原簿調製ノ初メハ其當ヲ得ヘク敢テ不可ナルヲナシト雖租稅ヲ以テ州ニ郡ニ邑ニ配賦スルニ至リテハ毫モ平均ヲ得ヘキ者ナシ如何トナレハ其價格ヲ定ムルヤ各地方ハ勿論隣地ト雖必スシモ同時ニ同吏員ノ算定セシ所ニアラサレハナリ只同吏員カ同一ノ思考ヲ以テ定メタル部分ノミ價格ノ比例ヲ同フセリト雖其他ハ各々相異ナリ甲地方ノ分級者定格者ハ乙地方ノ分級者定格者ト緩嚴其度ヲ均シフセス概シテ定級定格ノ際之ヲ緩ニシテ多クハ遙カニ眞實價格ノ下ニアラシムルノ傾向ヲ有セリ況ヤ原簿調製ハ實ニ千八百七年ニ始リ千八百五十年ニ至リテ漸ク成ルヲ告ケシ者ニシテ各地方同時ニ着手セ



サリシニ於テヲヤ

斯ノ如ク各區ノ地租原簿ハ互ニ其基礎ヲ同フセスシテ相比較スルヲ得ス  
 加之ス方今ニ至リテハ一邑ノ中ニ於テ原簿ニ載スル所ハ其實ニ當ラス如何  
 トナレハ土地ノ定級定格ヲナセシハ已ニ數十年ノ昔ニアリ而シテ爾來耕植  
 ノ變更價格ノ變動各部區畫ノ伸縮アリト雖毫モ改正補修セサルヲ以テナリ  
 然ラハ則チ地租ノ不平均ナル所以ノ者ニアリ第一初メ三次ノ配賦即チ州ニ  
 分チ郡ニ分チ邑ニ分ツハ臆算ニアルト是ナリ如何トナレハ原簿ノ用ハ獨リ  
 邑内ニ止マレハナリ第二邑内ニ於ケル各地主ノ配賦ハ原簿調製以來土地耕  
 植ノ變化歲入ノ變動アリテ已ニ其當ヲ失ナヘルト是ナリ  
 右ノ欠點ハ實ニ小少ナラス政府モ亦之ヲ知リ種々ノ法ヲ以テ之ヲ救治セン  
 トヲ力メ先ツ諸州ノ負擔最モ重キ者ハ其正稅ノ配賦高ヲ減セリ然ルニ政府  
 ハ此減少ヲ施コスニ至リテ何等ノ主義ヲ以テセシヤヲ見ルニ只ニ推量若ク  
 ハ諸地方ニ於ケル土地ノ貸借賣買ノ約束ヲ比較シテ重シト考ヘシマテノ  
 ニシテ千八百二十一年ニ當リ五十二州ノ租稅ヲ輕減セシハ實ニ之ニ由ル

右ノ法ニ由リテ多少大不平均ヲ減セシニアラスト雖只ニ諸州間ノ不平均ヲ  
 修正セシニ過キス故ニ諸郡邑ノ不平均ヲ改正セシムルカ爲メニ各州ノ議員  
 ニ委スルニ修正ノ權ヲ以テシ郡邑ノ配賦高ヲ折衷シテ既往ノ過チヲ補正ス  
 ルハ各州議員ノ權ニアリトセリ然ルニ議員ハ此權ヲ活用スルト甚々稀ナリ  
 千八百五十年ノ條例ヲ以テ邑ノ原簿三十年前以上ノ調製ニ屬スル者ハ邑會  
 議員ノ請求ト州會議員ノ承認ニ由リテ原簿改正ヲ行フヲ得ヘシ但シ其經費  
 ハ必ス邑ノ自辨タルヘキ者トセリ

由是觀之ハ地租ノ不平均ヲ憂ヒ之ヲシテ土地ノ歲入ト比例ヲ得セシメン  
 ト計リ三條ノ方法ヲ施コセシヲ知ル即チ負擔最モ重キ州ノ正稅ヲ減セシト  
 各州ニ於テ州會議員ト郡會議員ノ意ヲ以テ諸邑ノ配賦高ヲ折衷スルト原簿  
 調製ノ後三十年ヲ過クレハ分級定級定格ヲシテ現況ニ適セシムルカ爲メニ  
 各邑限り原簿改製ヲ行フヲ得ルト是ナリ

右ノ方法ハ以テ地租ノ不平均ヲ改正スルニ足ルカ或ハ之ヲ改正スルニ至ラ  
 サルモ將來ニ於テ其不平均ヲ大ニスルヲ防クニ足ルカ恐クハ未可ナリ先ツ



第一負擔最モ重キ州ノ正税ヲ減セシハ土地ノ歳入増加スルニ際シテ政府ノ財源ヲ削減スル者ナリ豈ニ大ニ誤ラスヤ誰カ今日ニ於テ政府ノ地租收入高ヲシテ革命政府ノ地租收入高ヨリ少ナカラシムヘシト云フ者アラン往年諸州ノ正税ヲ減セシニ當リテヤ宜シク同時ニ負擔ノ最輕ナル諸州ノ地租ヲ増課スヘキナリ然ルヲ政府ハ調査ノ精密ナルヲ得サルト人心ノ動搖セントヲ恐レテ遂ニ之ヲ舉行スル能ハサリシ州會議員ハ常ニ姑息ヲ事トシテ郡ノ配賦邑ノ配賦ヲ折衷セス邑會議員ハ因循ニシテ原簿ノ改正ヲ斷行セス是レ他ナシ之レヲ決行セント欲スレハ紛議激論必ス四方ニ起リ容易ニ舉行スヘカラサルヲ知り畏縮シテ徒ニ苟安ヲ偷ムノミ

斯ノ如キ形情ハ官民ノ爲メ兩ナカラ不幸ナリト云フヘシ中央政府ハ勿論諸邑モ亦巨額ノ地租ヲ收入スルヲ得ス而シテ某地方ニ於テハ地租ノ負擔非常ニ重ク不平均年ニ益甚タシ

中央政府ノ爲メニ巨額ノ收入ヲ得サルハ余輩略ホ已ニ之ヲ論セリ元來佛國ノ地租ハ不動産純歳入ノ五分ノ一ヲ徵收スル者ニシテ實際副税ヲ合セテ僅

カニ其百分ノ九ヲ課ス若シ委員總會ノ意ヲ承テ税率ヲ改メント欲セハ平均地租ヲ一倍セサルヘカラス然ル時ハ嚴急ナルヘシト雖別ニ他ノ一税即チ門窓税ヲ設クルニ比スレハ却テ害ナカルヘシ該税ハ委員總會カ計畫セシ法ニアラス後世ノ設置スル所ニシテ亦改正セサルヘカラサル者トス若シ今千八百二十一年ニ於ケル地租ト純歳入ノ比例ヲ回復セント欲セハ正税副税共ニ凡ソ四割五分ヲ増加セサルヘカラス如何トナレハ千八百二十一年ニ於テハ地租正税副税ノ收入高ハ二億四千百萬フランクニシテ純歳入僅カニ十五億八千萬フランクト算セシヲ以テナリ當年ニ於ケル價格ノ算定ハ家屋ヲ算入スル時ハ甚タ其實ニ及ハサルヘシト雖今暫ク之ニ據リ爾來土地ノ純歳入ハ凡ソ一倍ニ達セリトナスモ敢テ過チナカルヘシ殊ニ市地ノ發達ヲ考フル時ハ決シテ過算ニアラサルヘシ然ラハ則チ千八百二十一年ノ比例ニ從ヘハ方今ノ地租ハ正税副税ヲ合セテ四億八千二百萬フランクヲ得ヘシ今日ノ收入高三億三千三百萬フランクニ對シテハ一億五千萬フランクヲ増加スルモノナリ



佛國ノ地租ハ正稅副稅ヲ合セテ平均一割二分ヲ課シ四億八千萬フランクヲ徵收スル者トセハ純歲入ノ額ハ凡ソ四十億フランクトナルヘシ四億八千萬フランクヲ徵收ストナスモ尙千八百七十五年ノ地租收入高ニ比スレハ一億四千七百萬フランクヲ加フル者ナリ若シ其歲入四十億フランクニ課スルニ一割ヲ以テセハ四億フランクヲ得ヘクシテ三億三千三百萬フランクニ對シテハ六千七百萬フランクヲ増加スルモノナリ

現今地租ノ收入多カラサルヲ殊ニ配賦法ノ爲メニ其屈伸力ナキハ財政上大不便ヲ生ス如何トナレハ政府ハ之カ爲メニ間稅ニ由テ收入ヲ大ニセンコトヲ力ムレハナリ然ラハ則チ寧ロ少シク地租ヲ増加シ土地賣買ノ稅ハ百フランクニ付五フランク五十サンチムヲ止メテ百フランクニ五十サンチムトナサハ又善カラスマヤ況ヤ土地賣買ノ稅ハ戰時ニアリテハ更ニ五分乃至一割ヲ加フルニ於テヲヤ

佛國現今ノ地租ト歲入ノ比例ヲ失ナヘルハ已ニ非常ノ度ニ達シ衆皆刮目シテ其改正ヲ待ツ今ヲ去ルコト凡ソ二十五年前即チ千八百五十一年ニ於テ政府

カ調査セシ處ニ據レハ當年地租正稅ノ徵收高ハ平均純歲入ノ六分〇六ニ當ル然ルニ其配賦ノ不平均ナルヨリ諸州ノ間大ニ異同アリ其最モ重キ者ハ歲入ノ九分〇七ニシテ最モ輕キ者ハ三分〇七四ノ割合ナリ而シテ四十八州ハ正稅ノ負擔平均率即チ六分〇六以上ニアリテ三十七州ハ其以下ニアリ然ルニ右ノ比例ハ特ニ各州ノ平均率ニシテ全州ノ負擔ヲ以テ其歲入ニ比較セシ者ニ過キス州ヨリ郡邑人民ニ配賦スルニ至ルマテニハ地租ノ不平均次第ニ甚タシク遂ニ云フヘカラサルノ結果ヲ致スヘシ

請フ今地租正稅ノ負擔最モ重フシテ歲入ノ九分〇七ニ達スル所ノ一州ノ形況ヲ論究セン抑一州ノ負擔ヲ以テ諸邑ニ配賦スル時ハ又必ス其平均ヲ得ヌシテ某邑ノ負擔ハ其歲入惣額ノ一割二分若クハ一割三分ニ達シ或ハ之ニ超ユルコトアルヘク次テ邑ニ於テ其負擔ヲ人民ニ配賦スルニ又不平均アルヘク其不平均ハ原簿ノ新古ニ由リテ大小アリ原簿ノ古キ者ハ不平均益甚シトス是故ニ一割二分若クハ一割三分ノ地租正稅ヲ拂フ所ノ邑ニ於テ原簿調製以來歲入ヲ減セシ所ノ地主ハ一割八分乃至二割ヲ拂フ者アルヘシ之ニ副稅ヲ



加レハ或ル場合ニ於テハ其負擔ヲ倍シ歲入ノ三割五分若クハ四割ヲ拂フ者アルヘシ余輩カ此ニ擧クル所ハ其極度ヲ云フ者ニシテ斯ノ如キ場合ハ甚タ稀ナルヘシト雖地租ノ正稅副稅ヲ合セテ土地若クハ家屋ノ歲入ノ二割或ハ二割五分ヲ拂フ所ノ地主ハ敢テ少ナカラサルヘシ

顧ミテ地租正稅トシテ平均其土地家屋ノ歲入ノ三分〇七四ヲ負擔スル所ノ一州ヲ見レハ諸邑ノ間ニ不平均アリテ地租正稅ノ負擔其全歲入ノ僅カニ二分若クハ二分五ヲ拂フ者アルヘシ次テ人民ニ配賦スルニ至リテ又不平均アルカ爲メニ原簿調製ノ後土地ノ耕植ヲ變シ其歲入ヲ増加セシ者ハ一分若クハ一分五ヲ拂フ者アルヘシ然ラハ則チ副稅アルカ爲メニ負擔之ニ倍スト見做スモ正稅副稅ヲ合セテ地租ヲ負擔スルノ僅カニ歲入ノ二分若クハ三分ニ止マル者アルヘシ之ヲ他ノ三割五分乃至四割ヲ拂フ者ニ比スレハ其差モ亦甚シカラスヤ

斯ノ如キ場合ハ其極度ナルヲ以テ例外ト見做シ小事ハ措テ間ハサルノ格言ヲ守ルモ地主ノ負擔正稅副稅ヲ合セテ其歲入ノ四分若クハ五分ヲ超エサル

者ハ敢テ少ナカラサルヘシ然ルニ他ノ地方ニ於テハ已ニ論述セルカ如ク二割乃至三割ヲ拂フ者少ナカラス此大不平均アルヲ以テ事アルノ日ニ當リ政府ヲシテ全國ノ地租ヲ増加スルノ能ハサラシム如何トナレハ僅カニ四分若クハ五分ノ増課ト雖平素二割三割ヲ負擔スル者ニ至リテハ其重キニ堪エサルヘケレハナリ假令ヒ政府ハ慎ンテ地租ノ正稅ヲ増加セスト雖現今ノ不平均ハ日ニ益甚シキヲ致ス如何トナレハ地方政府ニ於テ副稅ヲ増課スル毎ニ某地主ノ負擔ハ常ニ隣人ニ加倍スル者アルヘケレハナリ

千八百七十六年三月二十六日下議院ノ會議ニ於テレオン、ゼー氏カ討論セシ地租原簿改正案ノ末ニ記載セル表ニ據リテ方今諸州ニ於ケル地租配賦ノ不平均ナルヲ見ルヘシ千八百七十四年地租正稅ノ平均率ハ純歲入ノ四分二四ニ當リ五十一州ノ配賦高ハ其平均率ニ超エ三十二州ハ其下ニアリ其中最モ重キ者ハ左ノ如シ

ターレン、エ、ガーロン  
ロゼール

純歲入ノ六分五一  
全 六分〇九



モールビアン	全	六分〇六
カンタル	全	五分九〇
ユール	全	五分八五
ゼール	全	五分七九
マンジ	全	五分六四
アウド	全	五分六二
アウト、アルプ	全	五分五四
ロツト	全	五分四七
オルン	全	五分四三
コートドル	全	五分四三
ドルドンギユ	全	五分三三
タールン	全	五分三二
セー、インフ、エリオル	全	五分二九
バス、アルプ	全	五分二七

カールヴ、ハードス 全 五分二六  
 コレーズ 全 五分二〇  
 セー、エ、マールン 全 五分一八  
 サールト 全 五分〇三

右ノ二十州ニ於テハ平均率四分二四ヲ超ルコト頗ル著ルシ之ニ加フルニ副税ヲ以スル時ハ殆ト之ヲ倍スヘキカ故ニ被税者ハ國費地方費ヲ合セテ實ニ一割二分若クハ一割三分ヲ拂フヘシ然ルニゼール、アウド、ロツト、コートドル、ドルドンギユ、タールンノ諸州ハ半ハ平原小丘ニシテ半ハ高山大嶽ナリ其山間地方ニ至リテハ地租原簿調製ノ後僅カニ少シク發達セシノミ之ニ反シテ平原小丘ハ變シテ富榮ナル葡萄園トナリ二三十年來大ニ其地方ノ富ヲ増加シ四倍若クハ五倍ニ達セシ者少ナカラス然ルニ州政府カ各邑ニ配賦スル所ノ租額ハ敢テ増減折衷セス之ヲ以テ例ヘハアウドノ如キ地租正税ノ負擔歲入ノ五分六二ニ達スル者ニ於テハ或ル山間地方ノ地主ハ正税一割一分若クハ一割二分ヲ拂ヒ副税ヲ加フレハ二割若クハ二割四分トナリナールボン、近方



ノ平原ヲ有スル者ハ正税ノ負擔僅カニ二三分ニシテ副税ヲ加フルモ漸ク四分若クハ六分ヲ拂フ者アルヘシ斯ノ如キ州ノ政府ニ於テ正税ノ高ニ應シテ地租副税ヲ徵課スル時ハ非常ノ不公平ヲ免レサル者ナリ如何トナレハ十「サ」ンチーム」ノ副税ハ山間地方ニ於テ歳入百分ノ一若クハ千分ノ五ニ當ル時平原地方ニ於テハ其千分ノ一若クハ一萬分ノ五ニ過キサル「アル」ヲ以テナリ然ル時ハ山間地方ノ地主ハ州費ヲ負擔スル「平原」地方ノ地主ニ十倍スル者ト云ハサルヲ得ス

地租正税配賦高ノ平均率ニ及ハサル諸州ハ左ノ如シ

アウト、ビレネー	純歳入ノ二分八二
バス、ビレネー	二分八三
セー	三分〇五
シエール	三分二〇
アン	三分二六
アールデシ	三分三〇

ヴォークルース	全	三分二五
ヴァール	全	三分三六
ブーシ、デユ、ローン	全	三分三六
ヴォーグ	全	三分三八
ニエーヴル	全	三分五〇
アールエー	全	三分五三
アールエーグ	全	三分五五
ノルド	全	三分五五
ハーデカレ	全	三分五六
ルワールインフェリオル	全	三分五九
マールン	全	三分六二
アールデン	全	三分七〇
ローン	全	三分七三
ゼーロンド	全	三分七四



右二十州ノ中ニ於テハ最モ富裕ナル諸州ヲ包有シ巴里マルセーユリルナン  
 トレームリオンホルドーノ諸大府皆其州中ニアルヲ見ルヘシ  
 方今諸國皆租稅ヲ以テ歲入及ヒ財産ニ比例シテ不平均ナキノ制度ヲ設ケ消  
 費品製造品ニ課スル所ノ租稅ノ負擔ヲ減セサルヘカラサルノ時ニアリテ斯  
 ノ如ク不平均ノ稅法ヲ存シテ可ナランヤ佛國ニ於テハ宜シク地租ノ配賦法  
 ヲ改メテ取分法トナシ不動產歲入ノ進歩ニ從テ收入ヲ増加スヘキノ制ヲ設  
 クヘシ其新法ノ大意ハ已ニ前章ニ論究セシカ如ク土地歲入價格ノ改定ハ年  
 毎ニ之ヲナサス凡ソ十年ニ一回之ヲ修正シ耕植ノ進歩土地ノ開墾等ヨリ土  
 地ノ歲入ヲ發達セシ者ハ直チニ租稅ヲ增課セヌ五六年ノ間ハ人民ヲシテ全  
 利ヲ專ラニスルヲ得セシムルニアリ然ルニ原簿改正ノ費用事業ノ困難ヲ訴  
 ル者アリ又定期ノ修正實功ナキヲ唱ル者アリ果シテ然ルヤ否ヤ請フ今ヨリ  
 之ヲ論究セン  
 原簿新製ノ困難歲月費用ニ至リテハ敢テ憂フルニ足ラス新々ニ地租原簿ヲ  
 製ストハ云ヘ舊原簿ヲ離レテ悉ク之ヲ改製セヌシテ可ナリ假令ヒ悉皆之ヲ

改製ストナスモ今回ノ原簿調製ハ往時ニ比スレハ頗ル容易ナルヘシ如何ト  
 ナレハ往年ノ經驗アリ測量家モ方今ハ其數餘リアリ且ツ技術ニ熟スルヲ往  
 年ノ比ニアラス又舊製ノ原簿ニ據リ改メヌシテ可ナル者頗ル多カルヘケレ  
 ハナリ加フルニ租稅ヲ賦課スルニ當リテ舊製原簿ハ大ニ補益スル所アラシ  
 如何トナレハ理事者ハ舊例アルヲ以テ自ラ信スルヲ厚ク土地歲入ノ價格ヲ  
 定ムルヲ亦速カナルヲ得ヘケレハナリ  
 抑地租原簿ハ國中土地ノ類別、性質、價格ノ明細帳ナリ之ヲ製スルニ測量順序  
 經濟財政ノ順序ヲ經サルヘカラストハ前章ニ説ク所ノ如シ  
 地租原簿ノ類別性質ノ部即チ測量順序ニ於テハ必スシモ悉ク改測ヲ要セス  
 新築道路各部區畫ノ變更ヲ見テ之ヲ修正増補セハ可ナラン  
 測量順序ヲ分ツテ五次トナスハ吾人ノ共ニ知ル所ニシテ各區ノ疆界ヲ定メ  
 之ヲ細分シ三角分形ヲ施コシ各部ノ測量ヲナシ各部ノ地圖ヲ製シ之ニ附ス  
 ルニ邑ノ全圖ヲ以テシ道路山川森林ノ位置ヲ示スヲ是ナリ  
 第一次第二次ノ手續キハ往年ノ測量家カ非常ノ誤測ヲナセリト考フルニア



四百八  
ラサレハ敢テ之ヲ再測セスシテ可ナリ三角分形ヲ施スニ至リテハ往年ノ遺跡又記録等ノ存スルアルヘシ故ニ重ニ手ヲ下スヘキ者ハ各邑ニ於ケル新道開墾地ノ測量并ニ製圖ニアリ  
各部ノ測量製圖ト雖悉ク之ヲ再爲セスシテ可ナラン只新道ヲ開キ若クハ讓與賣買又耕植ノ變化ニ據リテ土地ヲ分割シ若クハ從前分離セシ土地ヲ合一セシガ爲メニ多少舊形ヲ變セシ者ヲニ修正セハ可ナリスノ如キ場合ハ頗ル多シト雖各地方皆然リト云ヘカラス市府ノ近傍或ハ大路ニ沿フテハ區畫ノ舊形ヲ變セシ最モ著シト雖曠漠タル農地ニ於テハ其區畫ヲ變セシ者甚々稀ナリトス本書ノ論者モ亦相隔離セル諸州ニ土地ヲ有スルカ故ニ自ラ實驗スル所アリ敢テ疑フヘキ者ナシ其實讓與耕植ノ變化道路ノ開築等ノ爲メニ舊來區畫ヲ變動セサル者ハ從來ノ測量製圖ニ從ツテ敢テ改ムルヲ要セサルヘシ然トモ若シ往年ノ測量ヲ以テ誤テリト見做ス時ハ此限ニアラス例ヘハ地主自ラ其不當ヲ訴フルカ如キアラハ之ヲ改測スヘシ但シ斯ノ如キ場合ニ於テハ地主ヲシテ其經費ヲ自辨セシムルモ可ナリ

故ニ能ク之ヲ討究玩味セハ原簿改定ノ事業ハ世人カ考フルカ如ク難事ニアラサルヘシ決シテ之ヲ遂クルニ往時ノ如ク四十三年ノ長キ歲月ヲ要セス其經費モ亦一億五千萬乃至二億フランクノ多キヲ要セス其歲月ハ二三年經費ハ四千萬フランク平均一邑一千フランクニシテ足ラン然ルニ其四千萬フランクハ能ク用フル處ヲ得ル者ト云フヘシ且ツ賣買讓與ノ爲メニ區畫ヲ變セシ者ハ通例受取人ノ測量アリ彼レニ非常ノ嫌疑ナク舊原簿ニ照ラシテ大差ナキ時ハ其測量ニ據ルヲ得ヘシ故ニ區畫ノ變動近年ニアル者ハ經費ヲ減スルト益多カラシ  
次テ第二ノ順序ニ於テ各部ノ純歲入ヲ決定スルヲ論セン財政ノ點ニ於テハ之ヲ以テ最要ノ事業トス抑往年定格ノ法ハ甚々其當ヲ失フ者ナリ如何トナレハ之ヲ行フニ全國一致ノ法ヲ以テセス分級定格ノ事務ヲ以テ舉テ地主若クハ邑會ノ議員ニ委シ其定格ハ一般ニ實際ノ價格ニ及ハサルト遠ク加フルニ其差ノ大小各地方ニ由テ大ニ異同アリシヲ以テナリ  
是等ノ失錯ヲ修正スルハ却テ測量順序ニ於ケルヨリ簡易ナルヘシ政府ハ直



税局ノ「コントローラ」一人收税吏數人記録局ノ吏員一人ヲ以テ政府ノ委員トシ副フルニ地方ノ吏員一二名ヲ以テセハ速カニ之ヲ辨スルニ足ン方今吏員カ新築家屋ノ價格ヲ定ムルヲ見ルニ頗ル其容易ナルヲ知ル各部歳入ノ價格ヲ定ムルニ舊制ノ如ク之ヲ直接ニスルヲ止メ分級定級定格ノ三次序ヲ細分シ間接ニ同一ノ結果ヲ得ント欲セハ其容易ナル恐クハ之ニ過クル者ナカルヘシ例ヘハ「オーヂ」ノ地方ニ於テハ秣草地ノ最上等ナル者ハ一「エクタール」能ク二百八十乃至三百二十「フランク」ノ純歳入ヲ得ヘク上等ハ二百二十乃至二百八十「フランク」次ハ百八十乃至二百二十「フランク」中等ハ凡ソ百八十「フランク」下等ハ百二十「フランク」最下等ハ六十乃至八十「フランク」ヲ得ヘキハ衆皆之ヲ知ル何レノ地方ニ於テモ農地ノ貸借賣買等ノ事ハ世ノ明カニ知ル所ナリ故ニ分級ノ事ハ二三時間ニシテ成ヌヲ得ヘク定格ノ事ト雖敢テ日月ヲ要ヒサルヘシ獨リ定級ノ事ニ至リテハ各部ヲ諸級ニ配賦スルカ爲メニ少シク時日ヲ要スヘシト雖之カ爲メニ特ニ審査官ヲ置テ事ニ參セシメハ數月ニシテ功ヲ奏スルヲ得ン

由是觀之ハ原簿ノ改製ハ至難ノ事業ト云フヘカラス又今後ノ改正ハ五年若クハ十年ニ一回之ヲ行ナハ、遙カニ簡易ナルヘシ改正期限益短カケレハ其間土地ノ變更益少ナルヘシ又將來ニ於テハ政府ニ於テ大ニ測量ノ勞ヲ減却スルヲ得ルノ路アリ例ヘハ賣買讓與ノ際從來ノ區畫ヲ分割スル「ア」レハ其領收人ノ自費ヲ以テ其分割セル部分ヲ測量スヘキ者トナスカ如キ制ヲ設ケハ大ニ政府ノ勞ヲ省減スルヲ得ン又原簿ヲ用ヒサルモ能ク土地變換ノ景況ニ注目セハ地租ノ平均ヲ失ハサル「イ」ヲ得ヘシ元來土地ノ歳入若クハ價格ニ就テハ其實ヲ知ルニ足ル者アリ即チ土地ノ貸借賣買ノ約束遺傳分與ノ事是ナリ佛國ニ於テ土地貸借ノ約束ヲナス時ハ必ス之ヲ記録局ノ帳簿ニ記載スル者トナレリ勿論國中ニ貸借セサル所ノ地多カルヘシト雖數十年間ニ賣買讓與若クハ遺傳分與若クハ夫妻財產ノ持寄ノ爲メニ所有產ノ調算ヲナス等ノ事ナキ者ハ殆ト稀ナリ賣買地價若クハ遺傳分與又夫妻財產ノ持寄ノ際ニ定メタル地價ニ由リテ其歳入ヲ知ルハ難キニアラス然ルニ若シ其賣買分與若クハ夫妻財產ノ持寄等ノ「イ」數十



年ノ昔ニアリテ爾後景況ヲ變シ信ヲ置キ難キ者アラハ之ヲ調査シ其近傍ニ於ケル同格ナル不動産ノ歲入ニ比較シテ其平均歲入ヲ知ルハ容易ナルヘシ此ニ論究スル所ヲ以テ之ヲ見レハ地租原簿ノ改正即チ其實ヲ云ヘハ地租ノ配賦法ヲ改メテ取分法トナスハ決シテ無窮ノ業ニアラサルナリ方今ノ勢副稅ノ増加ニ從ツテ地租ノ不平均益甚タシ早ク之カ計ヲナサレハ其不幸云フヘカラサルニ至ラン今之ヲ改メテ取分法トナス時ハ中央政府地方政府ヲシテ漸次ニ地租ノ收入ヲ増加シ不動産賣與讓與ノ稅酒類稅ノ煩ハシキ者ノ如キ間稅ノ最害アル者ヲ減少シ若クハ廢棄スルヲ得セシムヘシ

英國中央政府ノ地租ハ一定ノ額ヲ定ムト雖一大部分ハ人民ノ買フ所トナリ收入高甚タ少ナク僅カニ二千七百五十萬フランクニ過キス然ルニ土地歲入ノ負擔ハ之ニ止マラス別ニ歲入稅アリ地方稅ノ土地ニ課スル者アリ地方ノ地租ハ頗ル多ク農地ノ負擔スル所ハ凡ソ二億三千三百五十萬フランクニ達ス然レトモ英國ニ於テハ佛國ニ於ケルカ如ク中央政府ノ地租ニ比例シテ之ヲ課セス全ク其制ヲ異ニシ美ニシテ且ツ平カナリ其賦課ヲ定ムルハ地方官

吏ニシテ定期ノ定格ニ基キテ之ヲ課ス故ニ取分ノ法ヲ行フ者ナリ然ルニ直稅ノ賦課ヲ以テ地方官吏ノ手ニ委スルニ至リテハ至良ノ法ト云ヒ難シ余輩ハ寧ロ中央政府ノ吏員ヲシテ之ヲ司トラシムルヲ良トス如何トナレハ中央政府ノ吏員ハ眼ヲ全体ニ注キ一方ニ偏スルノ患少ナク不公平ノ嫌多カラサルヲ以テナリ然レトモ是等ノ細目ハ今敢テ喋々之ヲ論スルニ足ラヌ余輩カ眼目トスル處ハ租稅ヲシテ取分法トスヘシ配賦法トナスヘカラスト云フニアリ

フヒスコーフハン、デル、ストレテン兩氏ノ卓絶ナル英國全島地方政治及ヒ租稅論六十八葉以下并ニ同書ノ二百六十七葉以下ニ於テ定期改正ニ次テスコットランドニ原簿ノ改製ヲ令セル千八百五十四年ノ條例ヲ見ルヘシ

財政ニ老練ナル政治家オーヂフレ侯ハ地租ノ配賦法ヲ改メテ取分法トナスニ簡單ナル法ヲ論シ記録局直稅局不動産書入質記錄ノ局ヲ合セテ一トナスヘント云ヘリ斯ノ如クスル時ハ土地ノ財產ニ屬スル一切ノ記錄ヲ各州ノ一局ニ聚集スヘキヲ以テ究問探求ヲ待タスシテ土地ノ價格并ニ歲入ヲ知ル



ヲ得ヘシ

佛國ニ於テ原簿改製地租平均ノ議數々起リ國會ニ於テ之ヲ議シ或ハ少シク議決セシ者アリト雖常ニ銳意斷行ノ精神ニ乏シク之ヲ舉行セズシテ止メリ千八百七十四年三月二十一日ノ條例ヲ以テ往年地租原簿調製ノ際荒蕪地ニシテ爾後耕地トナリシ者或ハ當時耕地ニシテ後其用ヲ轉セシ土地ノ價格ヲ再定スヘキヲ令セリ又千八百七十五年八月三日ノ條例ヲ以テ千八百七十六年ノ歲出入豫算ヲ發セシ第四條ヲ見ルニ云ヘルアリ千八百七十七年ノ會計豫算ニ際シテ中央政府ハ諸州ニ地租正稅ヲ配賦スルヲ付新法議案ヲ呈出スヘシト

大藏卿レオン、セー氏ハ其條例ヲ奉シテ地租原簿及ヒ土地所有產ノ一ニ付キ數條ノ計畫ヲナセリ然ルニ議論毫モ取分法ニ及ハス專ラ原簿改正ノ議ニ止マリ其眼目トスル處ハ建物ナキ土地ノ稅ト建物アル土地ノ稅ヲ分離セントスルニアリ(余輩ハ已ニ前章ニ於テ此二種ヲ分ツヘキヲ説ケリ尙詳ニ後篇ニ論スヘシ)之ニ從ツテ州會議員ニ委スルニ原簿改製ノ權ヲ以テシ其經費ヲ補

助センヲ欲セリ而シテ千八百七十四年ノ條例ヲ廢シテ原簿調製以後開墾セシ土地ノ價格再定ノ議ヲ止メンヲ請ヘリ

セー氏ノ計畫ハ以テ地租改正ヲ行フニ足ラス只各州ニ於テ邑若クハ人民ニ配賦スル者ヲ修正シ少シク不平均ヲ減スルヲ得ルノミ真ニ地租ノ不平均ヲ修正セント欲セハ全國同一ノ處分ヲ施コシ配賦法ヲ廢シテ取分法トナスニアリ且ツ其計畫ハ以テ國庫ノ財源ヲ增加スルニ足ラサルヘシ元來佛國ハ責任ヲ恐レ勤勞ヲ憚ルノ氣アリ故ニ斯ノ如キ大事ヲ企ツレハ則チ曰ク何ソ好ント被稅者ノ心ヲ動カスヲ要センヤト之ヲ以テ數百年ノ間財源ヲ消費物ニ取り其不便ヲシテ年ニ増加セシムルヲ致セリ

余輩ハ此篇ニ於テ終ニ默シテ過クル能ハサル者ハ某國ニ於テ人民ヲシテ地租ヲ買ハシムルト是ナリ或ハ云ハン地租ハ地主カ政府ニ拂フヘキ地代ナラハ何カ故ニ國計欠乏ノ際ニ當リ政府ハ之ヲ地主ニ賣ラサルノ理アラン之ヲ賣ルニ相當ノ價ヲ以テセハ賣手買手共ニ損失ナカルヘク地主ハ向後ノ負擔ヲ免レ政府ハ欠乏ヲ補フヲ得ヘシ然ラハ則チ是レ一種ノ國債ニシテ只政府



ハ現在ノ租税ヲ廢棄スルニ止レリ又利子ヲ拂フヲ要セサルナリ豈善カラスヤト是レ古今ノ奇巧ナル財政家カ諸國ニ於テ唱フル所ノ者ナリ其言タル理アルカ如シト雖余輩ヲ以テ之ヲ見レハ大ニ不可ナリ若シ論者ノ言ノ如クナラシメント欲セハ政府ハ人カノ及ハサル所ノ事ヲナシテ其誠實ナル確証ヲ示メシ人民ハ之ニ信依スルヲ赤子ノ父母ニ於ケルカ如クナラサルヘカラス政府ハ人民ニ地租ヲ賣リ日ナラスシテ復々他ノ名稱ヲ以テ租税ヲ課スルヲナキカ政府ハ果シテ能ク最モ昭明較著人ノ羨望スル所ノ富ノ一大部分ヲ措テ常ニ税セサルヘキカ政府ハ能ク他ノ被税者ノ要求ニ抗シテ常ニ地主ニ特權ヲ許スヲ得ヘキカ佛國ノ農民ハ恐クハ之ヲ知ラスシテ地租ヲ買フカ如キ者ニアラサルヘシ之ヲ買フモ決シテ其利ヲ期スヘカラス小心謹慎ナル者ハ必ス斷然之ヲ拒絕セン顧ミテ政府ヲ見ルニ之ニ由リテ巨額ノ收入ヲ得ルニ足ラス寧ロ國家ノ艱難ニ際シ非常ノ國費ヲ要スルニ當リテハ尋常ノ國債ヲ募集スルニ如クハナシ(國債ノ部ニ於テ詳論スルヲ見ルヘシ)之ヲ他ニ求ムルモ決シテ益ナキナリ

英國ニ於テ地租ノ拂下ヲ始メシハ實ニ第十八紀ノ終ニシテ延テ方今ニ及ヘリ該法タル千七百九十八年ビット氏ノ考案ニ出シ者ニシテ頗ル奇巧ナリト云フヘシ當時英國ノ永世據置公債証書大ニ其價ヲ失ヒ三分利ノ証書ハ額面ノ半價トナリ年利ノ十六七倍ノ價ヲ以テ賣價セラレビット氏以爲ラク方今土地賣買ノ價ハ其歲入ノ三十倍ニアリ地租ハ土地歲入ノ一小部分ニシテ且ツ先取ノ權ヲ有ス然ラハ則チ少ナクモ租額ノ二十倍若クハ二十五倍ヲ以テ賣買スルヲ得ヘシト然ルニビット氏ノ推理ハ未タ當然ナラサルナリ夫レ土地カスノ如ク良價ヲ有スル所以ノ者ハ只ニ十全ノ歲入ヲ得ルカ爲メニアラス將來其歲入ト價格ヲ増加スルノ期望ヲ有スルニアリ地租ハ其安全ナルハ土地ヲ所有スルト異ナラスト雖價格ヲ増加スルノ期望ヲ持スルニ足ラサルヲ如何セン土地ノ歲入ト地租ノ別アルヲ斯ノ如シト雖ビット氏ノ計畫ハ理ナキニアラス其方法ヲ見ルニ氏ノ意ハ地租ヲ賣リテ三分利公債証書ノ年利高ノ差ヲ政府ニ利シ政府ノ歲出ヲ減セント欲スルニアリ故ニ人民ニ永世地租ヲ賣渡シ之ヲ拂フニ三分利ノ公債証書ヲ以テセシメ其比例ハ地租額十二



付証書ノ年利高十一トセリ是レ地租ノ賣價ヲ以テ租額ノ十九倍乃至二十倍トナス者ナリ之ニ由テ若シ果シテ十分ノ功ヲ奏スルヲ得ハ英國政府ノ利ヲタルヤ敢テ疑ヲ容レサルヘシ如何トナレハ英國地租ノ額ハ五千萬フランクナリシヲ以テ人民カ拂フ處ノ公債証書ノ年利高ハ五千五百萬フランクニ當ル是レ政府ハ五千萬フランクノ財源ヲ捨テ永世据置公債証書ノ利子五千五百萬フランクヲ減スル者ナレハナリ加フルニ政府ハ此方法ヲ以テ一方ニハ三分利公債証書ノ需要ヲ起シ其價ヲ恢復センコト計リシ者ナリ右ノ計畫ヲ以テ政府ノ目的ヲ達セシハ特ニ公債証書ノ騰貴ニアリ然リト雖是レ亦敢テ專ラ地租拂下ケノ效驗ト云フヲ得サルヘシ地租拂下ケノ法ハ七十餘年ノ間依然トシテ存セリト雖方今ニ至リテ拂下ケノ高ハ未タ地租ノ半額ニ達セス其間屢地租拂下ケノ細則ヲ變セリト雖常ニ之ヲ拂フニ三分利ノ公債証書ヲ以テシ其年利高ハ少シク租額ヨリ多カラシメタリ初メ其法ヲ設クルニ當リテヤ地租ヲ負擔スル所ノ地主ニアラサレハ之ヲ買フ能ハサル者トセリ然ルニ千八百三年以來ハ衆人皆之ヲ買フヲ許セシヲ以テ地租ノ買手

ハ永世先取ノ權ヲ有シタル地代ノ所有主トナレリ

該法新布ノ初年(千七百九十九年)人民カ地租ヲ買ヒシハ凡ソ其五分ノ一即チ地租ノ歲入高四十三萬五千八百八十八ポンド(凡ソ千百萬フランク)ニ達セリ然ルニ翌年即チ千八百年ニ於テハ僅ニ四萬四百十八ポンド(百一萬五百フランク)ニ過キス爾後英國政府ハ能ク信義ヲ守リ敢テ間接ニモ又一小部分ナリトモ既ニ賣拂ヒタル租稅ヲ再置セサルヲ示セリト雖之ヲ買フ者年ニ減少シ千八百六十八年度ノ終リニ於テハ千七百九十八年以後ノ拂下ケ高ヲ通計シテ僅カニ八十萬二千四百四十八ポンド(二千六萬フランク)ニシテ其代價トシテ納メタル公債証書ノ年利高ハ八十六萬七千六百六十七ポンド(凡ソ二千七百七十萬フランク)ナリ

歲入報告第二卷二百九十六葉二百九十七葉ヲ見ルヘシ

由是觀之ハ七十年間此法ヲ施コセシト雖尙地租總額二百三萬七千六百二十七ポンドノ半額餘(百二十三萬五千七百七十九ポンド)ヲ餘セリト云フヘシ英國政府カ之ニ由リテ利セシ所ノ者ハ地租ノ拂下ケ高ト其代價トシテ得タル所



ノ公債証書ノ年利高ノ差ニアリ地租ノ賣高二千六萬フランク公債証書ノ年利高二千七百七十萬フランクナルヲ以テ之ヲ見レハ政府ハ毎年凡ソ百六十萬フランクノ歲出ヲ減セシ者ナリ

然ルニ一方ニ於テハ英國政府ハ之ヲ課スルニ至當ナル地租ヲ捨テ、被課物ノ發達ニ從ヒ收入ヲ増加スヘキ一略ヲ失ナヘリト云フヘシ英國ノ例豈ニ倣フニ足ランヤ

埃及ニ於テハ「ムーカバラ」ト稱シテ之ニ均シキ法ヲ設ケリ埃及王ハ大ニ國庫ノ欠乏ヲ憂ヒテ地租ノ半ヲ賣リ之ニ拂ハシムルニ租額ノ十二倍ヲ以テシ地主ノ富ヲ奪フニ如カストナセリ若シ埃及政府ヲシテ誠實ニ之ヲ行ハシメ地租ヲ賣リテ一割二分ノ公債償却ニ用フルニ止マラシメハ敢テ尤ムヘキニアラス然ルニ埃及政府ハ内心他意ヲ包藏シ虛名ヲ以テ民財ヲ收斂シ「ムーカバラ」ノ期限終ル時ハ再ヒ異名同實ノ稅ヲ課セント欲セシヤ疑ヲ容レサルナリ故ニ千八百七十五年及ヒ千八百七十六年ニ於テ財政改革ヲ行ハントセルヤ第一着手ハ地租拂下ケノ法ヲ停止スルニアリシ

政府ハ決シテ現存ノ地租ヲ廢スヘカラス又之ヲシテ土地ノ歲入ニ比例セシムルヲ怠ルヘカラス然ラサレハ只ニ國庫ノ利ヲ失フノミナラス國家ノ一大財源ヲ棄ルヲ以テ人心ヲシテ安ンセサラシムルモノアラシ



租稅論

第七篇

家屋稅、門窓稅、烟筒稅等 動產稅即チ家賃稅

前篇ニ於テ余輩ハ殊更ニ意ヲ用ヒテ家屋ニ課スル所ノ租稅ト純然タル地租ノ別ヲナセシ所以ノ者ハ二稅ノ性質タル其負擔ノ歸スル所大ニ相異ナレハナリ佛國ニ於テハ行政上ノ便易ヲ計リ方今ニ至ル迄此二稅ヲ合セテ概シテ地租ト稱スト雖毫モ相類スル所ナシ故ニ諸國ハ殆ト皆之ヲ分テ二項トナス佛國地租正稅ノ收入高ハ一億七千五百萬フランクニシテ農地ニ課スル所ノ者ハ一億二千二百五十萬フランク一切ノ建物ニ課スル所ノ者ハ四千九百萬フランクトス故ニ其四千九百萬フランクハ常ニ之ヲ別視セサルヘカラス世人或ハ云ン土地ニ課スル所ノ稅ト建物ニ課スル所ノ稅ヲ別視スルハ少ク故造ニ似タリ家主カ拂フ所ノ地租ト雖純ラ建物ノ負擔スル所トナラス其一部分ハ土地ノ負擔スル所トナルヘシ如何トナレハ土地ハ家屋アルカ爲メニ敢テ其價格ヲ失フニアラス大府ノ如キハ却テ巨大ノ價格ヲ有スル者ナレハナリト



其言ヤ理アリ決シテ輕視スヘキニアラス然リト雖經濟上財政上ヨリシテ之ヲ見ル時ハ家屋ノ稅ト農地ノ稅トハ之ヲ別タサルヘカラス如何トナレハ二稅負擔ノ歸スル處ト其效驗トハ毫モ相同シカラサルヲ以テナリ

農地ニ課スル所ノ地租ハ全ク地主ノ負擔トナルヘク之ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルヲ得ス又農民ニ負擔セシムルヲ得ス若シ之ヲ以テ農民ニ負擔セシメ耕植ノ利減シテ國內普通ノ利益ニ及ハサルニ至レハ農業ニ從事スル者忽チ減スヘシ故ニ地主カ地租ヲ以テ農民ニ負擔セシムルヲ得ルモ只ニ一時ニ過キサルナリ消費者ニ至リテハ地租ノ増減甚タ大ニシテ耕地ヲ減スルカ若クハ農業資本ヲ増加シテ新地ノ開墾ヲ盛ニセシカ爲メニ農産品ノ供給ヲ變動スルニアラサレハ地租ノ増減敢テ其休戚ニ關セサルハ已ニ前篇ニ論究セシ所ナリ然ルニ地租増減ノ爲メニ斯ノ如キ效驗ヲ生スルハ特ニ開明國ニアルマシキ暴變急革ヲ行フ時ニアリ例ヘハ一朝地租ヲ増課シテ三倍四倍若クハ五倍トナリ多數ノ地主其地ノ耕植ヲ廢棄スルカ如キ是ナリ然ルニ斯ノ如キ際ト雖國ヲ開キテ外國農産品ノ輸入ヲ自由ニセハ農産品ノ價ハ蓋シ敢テ變

動セサルヘシ如何トナレハ内地ノ耕植ヲ減スト雖外品ヲ以テ國民ノ需要ニ供スルヲ得ヘケレハナリ地租ヲ減スルカ爲メニ農業ノ資本増加シテ新地ヲ開墾スルカ如キニ至リテハ只ニ假想ノ說ニ過キス假令ヒ地租ヲ全廢スルモ決シテ斯ノ如キ景況ヲ生セサルヘシ方今佛國ノ地租ハ配賦法ニシテ原簿調製以來土地ノ改良開墾等ニ用ヒラレタル資本ハ毫モ租稅ヲ負擔セサル者ナリ如何トナレハ地租ヲ以テ農地ニ配賦スルヤ原簿調製以來土地ノ價格ヲ増加セシ者アリト雖敢テ之ヲ問ハサレハナリ故ニ是等ノ土地ハ租稅ヲ全廢セシ者ト見做スモ敢テ不可ナル所ナカラシ

由是觀之ハ非常ノ場合ニシテ租稅ノ増加甚シク地主ノ地代ヲ全沒スルカ若クハ農業ノ發達ヲ退步セシムルカ如キニアラサレハ農地ニ課スル所ノ租稅ハ地主ノ負擔ニ歸スヘクシテ之ヲ以テ消費者ニ負ハシムルヲ能ハス又農民ニ擔ハシムルヲ能ハサルナリ

家屋稅ハ大ニ此ニ異ナリ其負擔ノ理モ亦斯ノ如ク簡單ナラス之ヲ負擔スル者ハ家主ナルヲアリ家屋ノ借主ナルヲアリ場合ニ由リテ之ヲ異ニスヘシ國



歩日ニ發達シテ人口増加シ營業繁榮シ人民ノ幸福増進シ新家屋ノ需要盛ナル時ハ家屋ノ稅ヲ負擔スル者ハ借主ニアルヘシ實ニ資本家カ家屋ノ建築ニ資本ヲ投スルハ諸營業ニ比較シ其安危及ヒ價格ノ増減ヲ考ヘテ少クモ此ト同一ノ利益ヲ得ルニアラサレハ新々ニ家屋建物ニ資本ヲ入ル、ヲ欲セス故ニ家屋稅アレハ之ヲ以テ悉ク借主ニ負擔セシムルカ假令ヒ悉ク借主ニ負擔セシメサルモ他ノ營業ニ用フル所ノ資本カ負擔セサル者ハ以テ悉ク借主ニ負擔セシムルニアラサレハ決シテ家屋ヲ建築セサルヘシ

是故ニ世運隆盛ノ國營業繁榮人口増殖ノ市府ニ於テ家屋ニ課スル所ノ租稅ハ假令ヒ直ニ借主ノ負擔トナラサルモ歲月ヲ出スシテ遂ニハ借主ノ負擔スル所トナルヘシ借主カ實際家屋稅ヲ負擔スルハ租稅設置ノ後ニ建築スル所ノ家屋ニ係ル者ノミニアラス從前建築セシ家屋ニ係ル租稅モ亦均ク借主ノ負擔スル所トナルヘシ假令ヒ從前建築セシ家屋ト雖其便否美惡新築ノ家屋ニ異ナラサレハ敢テ家賃ヲ異ニスル者ニアラス夫レ家賃ハ家屋ノ長否ニ據リテ之ヲ決シ其品位價格相同ケレハ家賃ノ多少モ亦異同ナカルヘシ故ニ租

稅設置後ニ建築セシ家屋ノ稅ハ借主ノ負擔トナリ其以前ニ建築セシ家屋ノ稅ハ家主自ラ之ヲ負擔スルカ如キ者ニアラサルナリ

國家ノ富人口營業依然トシテ増進セサルカ若クハ退歩スル者ハ新家屋ノ需要盛ナラスシテ家屋稅ヲ以テ借主ニ負擔セシムル、前章ニ説ク所ノ如クナラス假令ヒ家主ハ之ヲ以テ借主ニ負擔セシメント欲スルモ如何トモスル、能ハスシテ自ラ之ヲ負擔セサルヘカラス然レトモ數歲月ヲ經テ舊屋破壊シ家屋ノ供給需要ニ應スルニ足ラスシテ新々ニ家屋ノ建築ヲ要スル、アレハ漸次該稅ヲ以テ借主ニ負擔セシムルヲ得ヘシ

由是觀之ハ家屋稅負擔ノ歸スル處ハ家屋ノ需要ト供給ノ形況ニ據リテ變スル者ナリ而シテ其需要ト供給ノ形況ハ全國一般ノ需要供給ニアラス各地方ノ需要供給ニアリ只ニ各地方ノ需要供給ニアラス一府一村内ノ需要供給ニアリ

是故ニ一定ノ規則ヲ定ムル、能ハスト雖概シテ家屋稅ハ借主ノ負擔ニ歸スルノ傾向アリト云フ、ヲ得ヘシ實ニ國家ノ富人口營業依然トシテ進歩セサル



者ト雖舊家屋破壊シテ家屋ノ供給減スル時ハ往々新家屋ノ需要起ル然ルニ  
 家屋ニ資本ヲ費ス者ハ相當ノ利益報酬ヲ得ルニアラサレハ新々ニ家屋ヲ建  
 築セサルヘシ故ニ曰ク家屋稅ハ概シテ借主ノ負擔トナルノ傾向アリト  
 或ハ家屋稅ヲ以テ家主若クハ地主ノ負擔スル所トナル者ナリトシ余輩ノ言  
 ヲ駁スル者アラシ其說ニ以爲ク若シ家屋稅ヲ課スルニ當リテ家屋建築地ノ  
 價格ヲ減セサレハ其租稅ヲ以テ家屋ノ借主ニ負擔セシムルヲアラシ然トモ  
 凡ソ家屋ニ租稅ヲ課スル時ハ常ニ其地ノ價格ヲ低減シ新々ニ家屋ヲ建築ス  
 ル者ヲシテ從前ト均ク利益ヲ得セシムルニ足ラント曰ク然リ一朝家屋稅ノ  
 増加甚シケレハ一時家屋建築地ノ價格ヲ減スヘク又多少家屋ノ新築ヲ減縮  
 スルヲアルヘシ故ニ暫時ノ間ハ論者ノ云ルカ如キ效驗ナシト云ヒ難シ然ル  
 ニ繁榮ニシテ富人口營業日ニ發達増進スル所ノ地方ニ於テハ斯ノ如キ效驗  
 ハ只ニ少時間ニ過キサルヘシ如何トナレハ家屋并ニ土地ノ需要ハ其供給ニ  
 超越シ到底借主カ其稅ヲ負擔セサルヘカラサルニ至ルヘケレハナリ  
 余輩ヲ以テ之ヲ見レハ家屋稅ハ一種ノ良稅ト稱スヘシ佛國ノ如キハ一層該

稅ヲ擴張スルモ可ナリ元來家賃ハ最モ能ク人民ノ財產若クハ歲入ノ多少ヲ  
 表スル者ナルカ故ニ家屋稅ハ間接ニ被稅者ノ財力ニ應シテ租稅ヲ課スルノ  
 一法ト云ヘシ是故ニ大ニ消費稅ヲ減シテ之ニ代ルニ家屋稅ヲ以テセハ輕易  
 ニシテ宜キヲ得シ英國及ヒ合衆國ノ如キ入市稅ヲ施サ、ル國ニ於テハ家屋  
 稅并動產稅ノ徵賦頗ル重シ然リト雖消費稅ノ煩多ニシテ營業ヲ束縛シ交換  
 ヲ牽制シ商賈ニ食品ノ偽造ヲ獎誘スルニ比スレハ遙ニ勝レリト云ヘシ  
 佛國家屋稅ノ賦課ハ區々ニシテ甚タ平均ナラス千八百三十五年ノ條例ヲ以  
 テ州郡邑ノ配賦高ハ家屋ノ増減ニ從ツテ毎年増減スヘキ者トナセリト雖該  
 條例以前ノ建築ニ屬スル所ノ家屋ハ千八百二十一年ニ決定セシ正稅ノ配賦  
 高ニ結算シ總テ一億五千四百萬フランクトナシ是等ノ舊家屋ハ其價格若ク  
 ハ歲入ノ變動アルモ斷シテ價格ヲ改定セス故ニ嘗テ算定セシ原簿ノ歲入ハ  
 中央政府州郡邑皆常ニ増減セサル者トス  
 千八百三十五年以後ノ新築ニ屬スル所ノ家屋ハ其建築成ルヤ否ヤ將來ニ得  
 ヘキ歲入ノ價格ヲ算定シ建築後第三年ヨリ租稅ヲ課ス



革命政府ハ其第七年三月ノ條例ヲ以テ十年毎ニ建物アル土地ノ歳入價格ノ改定ヲナスヘシトセリ然ルニ政府ハ其事務ヲ舉テ地方ノ議員ニ委托セシヲ以テ實際之ヲ行ナヘル者甚々稀ニシテ法律ハ遂ニ畫餅ニ歸セリ然リト雖建物アル土地ノ所有主ハ其不動産ヲ破壊セシカ若クハ其歳入ヲ減スル時ハ勿論其所有不動産ノ負擔重キニ堪ヘサルヲ明証スレハ常ニ政府ニ請求シテ租額ヲ減スルヲ得タリ

斯ノ如ク法律上ニテハ建物アル土地ノ價格ハ建物ナキ土地ノ如ク邑ノ地租原簿ノ改製ヲ待テ始テ變更スルカ如ク一定セル者ニアラサルナリ

然ルニ右ノ法律ハ甚々不完全ニシテ之ヲ適用セシヤ益不完全ヲ極メリ地方ノ議員ハ法律ニ從ツテ十年一回ノ歳入調査ヲ行ハス是カ爲メニ甚シキ不均ヲ生スルニ至レリ例ヘハ千八百七十年ヨリ千八百七十五年ノ間ニ於テ人口繁殖營業發達シ繁榮ナル市街ニ建築セシ家屋ノ如キハ現今實際ノ歳入ニ從ツテ租稅ヲ課シ之ニ反シテ四五十年前ニ建築セシ家屋ハ四五十年前ニ算定セシ歳入ニ由テ之ヲ課ス然ルニ實地ノ景況ヲ見ルニ舊屋ハ重ニ市街ノ中

央或ハ市街ノ最モ繁盛ナル部分ニアルヲ以テ概シテ其價格ヲ増加セルヲ最モ大ナリト雖新家ハ多ク場末外郭ニアリ是ヲ以テ市府ノ家屋ニシテ最大ノ價格ヲ有スル者ハ新築ニシテ位置モ亦最上ナラス通例價格ノ及ハサル家屋ニ比スレハ却テ租稅ノ負擔割合ニ輕シ只ニ割合ニ輕キノミナラス其稅額實ニ此ヨリ少ナシ故ニ佛國ニ於テハ建物アル土地ニ課スル所ノ地租ノ不平均ハ建物ナキ土地ニ課スル者ヨリ甚シ

又一方ニ於テ收入ノ如何ヲ顧レハ佛國ノ家屋稅ハ定期ノ改正ナキカ爲メニ其收入甚々少ナシ千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄五十餘年ノ間建物ノ増加ニヨリテ地租ノ正稅ヲ増加セシ者僅カニ千七百萬フランクニ過キス若シ佛國ニ於テ五年ニ一回若クハ十年ニ一回家屋ノ歳入ノ價格ヲ改正シ舊家屋ノ歳入ノ發達ニ應シテ正稅ヲ増加セシメハ其増加ハ必ス此小額ニ止マラサルヘシ

今此不幸ヲ治セント欲セハ家屋ノ稅ト農地ノ稅ヲ分離スルニ如クハナシ方今ハ建物アル土地ノ價格ヲ定メテ地租ヲ課スルニ分テ二部トナス一ハ一等



耕地ニ準シテ土地ノ價格ヲ定メ地面ニ課スル者一ハ其家賃ヨリ土地ノ價格ヲ減シタル者ヲ以テ建物ノ價格トナシ之ニ課スル者はナリ而シテ建物ノ保存修繕費トシテ居住家屋ハ其家賃ノ四分ノ一ヲ減シ製造處ハ三分ノ一ヲ減ス

佛國政府ハ宜ク建物ナキ土地ニ課スル所ノ租稅ヲ以テ專ラ地租ト稱シ建物アル土地ニ課スル所ノ租稅ハ別ニ之ヲ家屋稅ト稱スヘシ而シテ配賦法ヲ改メテ取分法トシ土地貸借ノ記錄ニ據リテ五年ニ一回價格ノ改正ヲ行ハ、事業ハ輕易ニシテ國家ノ收入ハ年ニ増加スルヲ得ヘク又之ヲ以テ消費稅ヲ減スルヲ得ヘキナリ

近年レオン、セー氏ハ議院ノ法案ニ於テ家屋稅ト地租ヲ分離センコトヲ論セリト雖言建物アル土地ノ價格ノ改定ニ及ハス尙配賦ノ法ニ由テ新築家屋ノ歲入ニ正稅トシテ五分ヲ課スルヲ以テ足レリトセリ氏ノ計畫ハ未タ完全ナリト云ヘカラス

佛國ノ地租正稅ノ收入高ハ一億七千百萬フランクニシテ農地ノ徵收ニ屬ス

ル者ハ凡ソ一億二千二百萬フランクナルヲ以テ建物アル土地ニ課スル者ハ四千九百萬フランクナリトハ已ニ陳述セシ所ニシテ吾人ノ知ル所ナリ千八百二十一年ニ於テハ建物ニ課スル租稅ノ收入高三千二百萬フランクアリ故ニ五十四年ノ間ニ於テ増加セシ者僅ニ千七百萬フランク即チ五割ノ増加ニシテ毎年一分ノ増加ニ至ラサル者ト云ヘシ然ルニ實際此年間ニ於テ建物アル土地ノ歲入ヲ増加セシハ決シテ斯ノ如ク微少ナル者ニアラサルヤ明カナリ余輩ハ前篇ニ於テ英國ノ例ヲ舉ケ十一年間ニ歲入稅ノ徵課原額ニ於テ家屋ヨリ得ル歲入ノ増加四割一分ニ達セリト云ヘリ其額ヲ見ルニ千八百六十二年ニ於テハ六千九百九十二萬四千七百七十八ポンド即チ十五億五千萬フランクニシテ千八百七十二二年ニハ八千七百七十二萬千ポンド即チ二十一億九千三百萬フランクニ至レリ(千八百七十三年ノ統計年表十八葉ヲ見ルヘシ)由是觀之ハ佛國ニ於テハ千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄家屋ノ價格三倍若クハ四倍ニ達セリト云フモ妨ケナカルヘシ然ラハ則チ家屋稅ノ收入千八百二十一年ニ於テ三千二百萬フランクナリシ者ハ今日一億乃至一億



二千萬フランクヲ收入セサルヘカラサルナリ  
佛國ニ於テハ國稅地方稅トシテ家屋ニ課スルニ其純歲入ノ一割五分ヲ以テ  
シ七分ヲ國庫ニ收入シ八分ヲ諸邑ニ收入スルモ敢テ堪ヘ難キノ負擔ニアラ  
サルヘシ佛國家屋ノ歲入ハ居住家屋製造處等一切ノ建物ヲ合シテ二十億フ  
ランクニ下ラサルヘシ

本文ノ算定價格ハ遙カニ實際ノ高ニ及ハサルハ明カナリ千八百六十年巴  
里府ノ商法會議所ノ調査ニ據レハ巴里府ノ居住家屋ノ家賃ハ一ヶ年三億  
フランクヨリ少カラス商業工業ニ用フル家屋ノ家賃ハ一億七百萬フラン  
クナリト云フ千八百七十五年十月三十日刊行ノ「レゼコノミスト」フランセ  
「ニ於ケルデフォウイル氏ノ稿ニ由ル」是ヲ以テ之ヲ見レハ巴里一府ノ家  
賃ニテ四億フランク以上ニ達スル者ナリ蓋シ殆ト五億フランクニ達スト  
云フモ大過ナカルヘシ

千八百七十二年英國全島ニ於テ歲入稅ヲ課セシ所ノ家屋ノ歲入ハ凡ソ二十  
二億フランクナリトス然ルニ右ノ額ニ漏ル、者甚々多カルヘシ殊ニ小家屋  
ヲ有シテ其歲入二千五百フランクニ足ラサル者ハ歲入稅ヲ課セサルヲ以テ  
皆此ニ算入セス然リト雖小財產家ニシテ其歲入二千五百フランクノ家賃ナ  
ル借家ヲ有スル者巨大ノ數ニアルハ昭明較著又爭フ能ハサルヘシ現ニアイ  
ヤランドノ如キハ千八百七十二年ニ於テ歲入稅ヲ拂ヒシ所ノ家賃ノ價格ハ  
實ニ一億フランクニ達セサリシ(三百七十一萬五千六百九十一ポンド)  
佛國家屋ノ家賃價格ヲ以テ二十億フランクト推算スルモ少シク英國本部(ス  
コットランド及アイヤランドヲ除キ)ノ歲入稅ヲ課セシ家屋ノ歲入(七千六百  
四十七萬五千九百九十四ポンド)即チ十九億千二百萬フランクニ過ルノミ  
若シ二十億フランクノ家賃價格ニ課スルニ國稅トシテ七分地方稅トシテ八  
分ヲ以テセハ中央政府ハ一億四千萬フランク地方政府ハ一億六千萬フラン  
クヲ得ヘシ方今ニ於テハ建物アル土地ノ地租正稅ノ收入高ハ四千九百萬フ  
ランク門窓稅(後篇ニ詳論スヘシ)四千萬フランク通計八千九百萬フランクナ  
ルヲ以テ中央政府家屋稅ノ收入一億四千萬フランクヲ得ル時ハ五千百萬フ  
ランクヲ増加スル者ナリ地方政府ノ收入ハ八分ナルヲ以テ其得ル所益大ニ



少ナクモ八千萬「フランク」ノ増加ニ至ラン然ラハ則チ之ヲ以テ入市税ノ殆ト五分ノ二ヲ減スルヲ得ヘシ

門窓副税ノ地方税收入高ハ千八百七十六年ニ於テ僅カニ二千三百萬「フランク」ナリ建物アル土地ノ副税收入高ハ推算シ難シト雖多キモ五千五百萬「フランク」ニ達セサルヘシ

家賃價格ニ一割五分ノ税ヲ課スルハ重キニ過クト云ヘカラス如何トナレハ營業繁榮ナル國ニ於テハ家屋ノ財産ノ價格歲入共ニ増加シテ常ニ止マス加フルニ家屋税ヲ負擔スル者ハ通例早晚家屋ノ借主ニアリテ家主ハ只ニ收税委員ノ職ヲナスニ過キサレハナリ況ヤ之ヲ以テ入市税ヲ廢シ消費税ヲ輕減スルヲ得ヘキニ於テヲヤ

斯ノ如ク家屋税ヲ以テ取分法トナス時ハ政府ハ巨額ノ收入ヲ得ヘキノミナラス年ニ其收入ヲ増加スルヲ得ヘキノ利アリ如何トナレハ繁榮ノ國ニ於テハ家屋ノ數常ニ増加シ價格ノ増加ハ其數ヲ増加スルヨリ盛ナレハナリ千八百六十二年ヨリ千八百七十二年ニ至ル迄十一年間ニ英國ニ於テハ家屋ノ歲

入四割一分ヲ増加セリ試ニ平均五年間ニ一割五分ヲ増加スル者トセハ佛國ハ五年一期ノ改正毎ニ家屋税ノ收入中央政府ニ二千百萬「フランク」地方政府ニ二千四百萬「フランク」ヲ増加スルヲ得ヘシ

以太利ハ地租家屋税ヲ別テ二項トナス千八百七十三年ノ會計豫算表ニ據レハ家屋税ノ收入高凡ソ五千三百萬「フランク」ナリト云フ該國ノ人口ハ凡ソ佛國ノ七分ノ五ニアリト雖其富ハ遙カニ佛國人民ノ下ニアリ工業ノ盛ナル亦佛國ノ比ニアラス故ニ以太利ノ家屋ノ歲入價格ハ佛國ノ家屋ノ歲入價格ノ五分ノ二ニ過キスト云フヲ得ヘシ由是觀之ハ佛國ニ於テ家屋税一億四千萬ヲ課スルモ敢テ重シト云ヘカラス

澳地利「シスライタニー」ヲ云フノ家屋税ハ千八百七十五年刊行ノモーリスブロック氏ノ統計年表ヲ見ルニ千八百七十四年ノ收入豫算高ハ二千百萬「フロリン」即チ五千二百五十萬「フランク」トストランスライタニーノ豫算高ハ七百五十六萬八千「フロリン」即チ殆ト千九百萬「フランク」アリト云フ故ニ澳地利全帝國ノ家屋税收入高ハ七千百萬「フランク」ナリト云ヘシ之ニ反シテ佛國



ニ於テハ建物アル土地ノ地租正税門窓ニ課スル正税ヲ合セテ僅カニ八千九百萬フランクニ過キス然ルニ澳地利ノ富ハ決シテ佛國ノ五分ノ三ニ過キサ  
 ルヘシ然ラハ則チ佛國家屋税ノ負擔ノ割合ヲ以テ澳地利ニ均シカラシメン  
 ト欲セハ凡ソ一億千八百萬フランクヲ課セサルヘカラス是レ尙今日ノ家屋  
 税門窓税ノ收入高ヨリ多キヲ二千九百萬フランクニ當ル  
 顧ミテ亞米利加合衆國ノ景況ヲ見レハ家屋税ノ收入ヲ得ヘキヲ知ルヘシ該  
 國ニ於テハ直税ヲ以テ上下一般ノ人民ニ課シ佛國ニ於テ間税ヲ以テ得ル所  
 ノ者ハ多ク直税ヲ以テス故ニ其效驗ハ家賃ノ騰貴トナレリ然ルニ家賃騰貴  
 スト雖日用必需品ヲ低價ニ購ヒ得ハ却テ可ナルヘシ況ヤ純粹ノ食品ヲ得ル  
 ニ於テヲヤ

英國ノ外國駐劄公使領事カ各國勞力社會ノ形況并ニ各國貨幣ノ購買力ヲ探  
 究セシ報告ヲ見ルニ大ニ余輩ヲシテ覺ル所アラシム請フ諸國ノ家屋税ニ關  
 スル珍報ヲ擧ン其家屋税ハ佛國ニ於ル建物アル土地ノ地租ト同一ナル者ニ  
 止ラス動産税ヲモ合ヌ者ニシテ市府ニ於テハ家賃ノ三割若クハ四割家屋賣  
 買價格ノ三分若クハ四分ヲ徵收スル者少カラスバフハロー府ニ於テハ賣價  
 六千フランクノ家屋ノ家賃ハ凡ソ六七百フランクニシテ毎年直税二百フラ  
 ンクヲ拂フ加之ズ嘗テ府會ニ於テ市街ノ下水道ヲ建築セシニ當リ右ノ家屋  
 カ分擔セシ費用ハ三百十フランクニ至レリト云フ

斯ノ如ク重課セル租税ヲ負擔シ其價補ヲ得ルヲ甚タ難カラス英國領事ノ  
 報告(フハルザリポルト、フロム、ホル、マヂエスチー、ヂプロマチツク、アンド、  
 コンシユラル、エーヂエント、レスベクチンク、ゼ、コンヂシヨン、オブ、ゼ、インダ  
 ストリアル、クラセス、アンド、ゼ、ポルチエー、ス、パワル、オブ、モネー、イン、フオー  
 レン、カントリース)千八百七十一年ロンドン刊行ヲ見ルニ合衆國工夫ノ住  
 家ノ形況ヲ擧ケ羨望ニ堪ヘサルモノアリ該國ノ市街ハ多クハ周圍甚タ廣  
 ク家屋多クハ小ニシテ二三階ニ過キサル者諸方ニ散在シバフハロー府ノ  
 如キハ十二萬ノ人口ヲ以テ殆ト四十方英里ヲ擁ス即チ一方英里ニ三千人  
 ニ過キスニエーオリエンヌノ人口ハ二十五萬ニシテ三十六英方里ヲ擁シ  
 ミスシスシツピー河岸ニ沿フテ十二英里ニ連ナルフヒラデルフヒヤ及ヒ



其他ノ市府皆其大小ヲ論セス市畫廣フシテ居民散在スルヲ以テ工夫ノ爲メニ賣家借屋ヲ建ルニ甚々便ナリ又地價ハ決シテ歐洲市街ノ如ク巨大ナラサルナリ之ヲ以テ勞力者ノカアル者ハ一舍ヲ私有シテ獨リ家族ト共ニ住スル者少カラヌ是等ノ住家ハ皆客室アリ庖厨アリ其他二三ノ寢室アリ時トシテハ聊カ庭園ヲ有スル者アリ然ルニ是等ノ家賃ハ又決シテ小少ニアラスバフハロー府ニ於テハ是等ノ家賃ハ一ヶ月十弗乃至十二弗即チ一ケ年六百フランク乃至七百二十フランクナリガルヴェストンニ於テハ寢室二箇庖厨一ヶ所付ニテ一ヶ月二十弗即チ一ケ年千二百フランク寢室四箇ニ庖厨付ナレハ殆ト之ニ倍スメーン州ニ於テハ家賃少シク低ク一ケ年三百五十フランクヨリ七百五十フランクノ間ニアリ七百五十フランクニ近キ者多シフヒラデルフヒヤニ於テハ最下ノ借家賃ニテモ一ケ年七百五十フランクニシテ少シク緩カナル工夫ノ家賃ハ千フランク時トシテハ千フランク以上ニ達ス泥工ノ下働キ人足ニテ僅カニ一室ヲ借ル者ト雖其拂フ處ハ一ケ年五百フランクヲ下ラス斯ノ如ク家賃ハ甚々貴ク通例資本ノ

一割二分ニ當ルヲ以テ少シク貯財ヲ有スル者ハ一舍ヲ私有セハ甚々利アリ合衆國ノ諸府ニテハ工夫ノ住居ニ適シタル家ハ通例賣價四千フランク乃至一萬フランクノ間ニアリテ勞力者ノ有餘アル者ハ自己ノ家屋ヲ所有スル者少カラス(ポール、レルワ、ポリュー氏ノ千八百七十一年十二月一日刊行「レウイユ、デ、ヂェーモンド」ヲ見ルヘシ)由是觀之ハ合衆國ニ於テ家賃ノ貴キハ特ニ直税ノ重キニ由ルニアラス一ハ金利ノ高キト勞銀ノ高キニアルヲ知ルヘシ尙茲ニ注意スヘキ者アリ合衆國ハ當時不交換紙幣ヲ發行シ千八百七十年千八百七十一年ノ際ニ於テハ二割乃至二割三分ノ下落アリ今茲ニ舉クル所ノ貨幣ノ數ハ皆其紙幣ノ價格トス假令ヒ是等ノコアルニモセヨ家屋稅家賃稅ノ重キハ食品稅ノ重キニ比スレハ勞力社會ノ利タルハ斷シテ疑ハサル所ナリ

由是觀之ハ佛國ニ於テ國費地方費ヲ合セテ家屋稅トシテ家賃價格ノ一割五分ヲ徵收スルモ之ヲ以テ極度トセハ決シテ非理ノ收歛ト云ヘカラス加之ス余輩ハ又動產稅ヲ存シ大府ニ於テハ家屋稅ト同格ノ稅率ヲ課セント欲ス而



シテ後門窓稅廢スヘク入市稅止ムヘシ酒類ノ稅ハ悉ク廢棄スル能ハサルモ  
 葡萄酒林檎酒ノ稅ハ廢スルヲ得ヘキナリ  
 租稅ヲ課スルニ當リテハ諸國皆深ク慮ハカル所ナク徵課ノ勞ヲ省クヲ主ト  
 スルカ爲メニ家屋稅ノ如キモ家屋ノ價格若クハ歲入ニ課セスシテ門戶窓牖  
 若クハ烟筒ニ課スル者アリ時トシテハ是等ノ稅ヲ行ヒ家屋稅ヲ課セサルモ  
 ノアリ時トシテハ兩ナカラ之ヲ行フ者アリ佛國ノ如キ即チ是ナリ  
 或ハ云ン家屋ノ家賃價格ヲ知ルニ容易ナラサル時ハ政府ハ其實ニ近キ者ヲ  
 取リテ斯ノ如キ方法ニ據ルモ敢テ不可ナルヲナカルヘシト元來門窓烟筒多  
 キ家屋ハ價格貴重ニシテ家主ノ爲メニハ收入多ク又之ニ住スル人民ノ歲入  
 多キヲ表スル者ナリト考フルノ理ナキニアラス然ルニ門窓烟筒ノ數ハ或ハ  
 其實ヲ表スヘシト雖其實ニ適セサルヲ少カラス第一市外ニアル所ノ家屋ハ  
 門窓烟筒ノ數ハ甚々多カルヘシト雖市府ノ中央繁華ノ地ニアリテ門窓烟筒  
 少キ者ノ價格ニ及ハサルヲアルヘク次テ卑賤ナル住居ト雖只ニ便利ノ爲メ  
 ノミナラス衛生ノ爲メニ殆ト欠クヘカラサル所ノ門窓烟筒アルヘシ加之ヌ

一家屋ヲ分畫シテ室ヲ小ニシ其數ヲ多クスル時ハ價格ハ大ナラサルモ門窓  
 烟筒ノ數ヲ要スルヲ却テ多カルヘシ  
 然ラハ則チ門窓烟筒ノ數ハ以テ家屋ノ實格ヲ表スルニ足ラサルナリ又門窓  
 烟筒ノ稅ハ一他ノ不便アリ即チ世上ノ節儉家ヲシテ或ハ家屋ノ門窓烟筒ノ  
 數ヲ減セシムルヲアルヘシ斯ノ如キヲハ勿論少カルヘシト雖必ス免レサル  
 所ニシテ租稅法ノ不當ナルカ爲メニ公衆ノ衛生ニ害ヲ生スル者ト云フヘキ  
 ナリ加ルニ一方ヨリ之ヲ見レハ門窓稅ハ空氣及ヒ光明ニ課スル者ト云フヘ  
 ク烟筒稅ハ火ニ課スル者トナスヘク頗ル人心ニ適セサル者ナリ若シ之ヲ以  
 テ政府ヲ攻撃スル者アラハ大事トナラン此不便豈ニ小少ナランヤ  
 門窓稅烟筒稅ノ厭フヘキヤ如此シ我佛國ノ如キハ何ヲ以テカ門窓稅ヲ行フ  
 ヤ實ニ解スルヲ得ス之ヲ廢シテ家屋稅ニ合シ其家賃若クハ賣價ニ應シテ專  
 ラ家屋稅ヲ行フハ敢テ難キニアラサルヘシ其家賃價格ニ從ンカ將々賣買價  
 格ニ從ンカニ至リテハ之ヲ斷スルヲ容易ナラス  
 英國ニ於テハウイリアム第三世ノ時ヨリ千八百五十一年ニ至ル迄門窓稅ヲ



行ヒ賤舍農小屋ヲ除クノ外一切ノ家屋ニ各々ニシルリンクヲ課セリ後増加  
シテ九窓以上ノ家屋ハ六「シルリンク」十九窓以上ハ八「シルリンク」トセリ而シ  
テ窓ヲ數フルハ戶外ヨリシ官吏ハ敢テ屋内ニ入ラス英國ノ門窓稅ハ斯ノ如  
キ方法ヲ以テ課セシ者ニシテ毫モ平等ナリト云ヘカラス  
英國政府ハ數々之ヲ改正シ第十八紀ノ終リニ於テ二級ヲ改メ窓數ニ應シ分  
ツテ十四級トセリ

英國ノ門窓稅ハ各家屋ニ二「シルリンク」ヲ課シ窓數九箇ヨリ十九箇ヲ有ス  
ル所ノ者ハ六「シルリンク」十九窓以上ハ八「シルリンク」ヲ課セシヲ以テ實際  
三級トス然ルニ窓數ヲ算フルハ只二級ナリシヲ以テ英國人民ハ常ニ稱シ  
テ二級ト云フ

右ノ改革ヲ論シテ國會議員ノ一人グレンヴィル氏ハ左ノ言ヲ發セリ  
方今家屋ノ階級ハ只ニ二級ニ止ラス分テ十四級トセリ家屋ヲ所有スル者  
多クハ窓ヲ塞キテ下級ニ列センヲ欲ス如何トナレハ之ヲナス時ハ窓ニ  
屬スル費用ヲ減スルノミナラス他ニ得ル所甚々大ナレハナリ

右ノ改革ニ據レハ二窓ヲ有セル家屋ニ二「ペンヌ」二十「サンチー」ヲ課シ漸々  
増加シテ二十五窓ヲ有スル者ニ至リ二「シルリンク」ヲ課セリ英國政府ハ此累  
進法ヲ以テ該稅ヲ平等ニスルヲ得ヘシト信セリト雖大ニ誤レリト云ヘシ如  
何トナレハ二十五窓ヲ有スル所ノ家屋ニシテ數多ノ賤民ノ借屋タル者アル  
ヘク必スシモ富民ノ住家タラサルヘケレハナリ

千八百五十一年ニ至リ英國ハ英明ノ見ヲ以テ斷然窓稅ヲ廢シ之ニ更フルニ  
家屋稅ヲ以テセリ

佛國ノ門窓稅ハ革命ノ餘殃ナリ革命ノ時ニ當リ財政困難ヲ極メ國會議員ハ  
委員總會ニ於テ決定シタル合理ノ計畫ヲ遵守スルヲ能ハス第七年三月ノ條  
例ヲ以テ始メテ該稅ヲ置テヨリ爾後數々徵課ノ方法ヲ改正セリ

佛國門窓稅ハ凡テ住家製造所ノ道路庭園ニ臨ム所ノ入口窓口ニ課スヘキ者  
トシ内庭ヨリ内庭ニ通シ若クハ内庭ヨリ園圃ニ達スル所ノ内部ノ入口并ニ  
内部ニアル樓梯各室ノ入口ニハ之ヲ課セス公務ニ使用スル所ノ家屋ハ之ニ  
住スル吏員カ私用スル部分ノ外ハ租稅ヲ課セス又農業ノ負擔ヲ重フセサル



カ爲メニ物置羊舎牛馬舎穴藏等居室ニアラサル者并ニ屋上ノ窓ニハ一切租稅ヲ課セス然ルニ千八百三十二年四月二十一日ノ條例ヲ以テ屋上ノ窓ト雖居室ノ明リ取リトナル時ハ免稅ノ限リニアラストナセリ  
議院ハ尙モ農工二業ノ利ヲ計リ一切農地ノ車門ハ其數ニ拘ハラズ地所一箇毎ニ一門ト見做シ人口五千以下ノ市邑ニ於テ商店ニ用ヒサル家屋ノ窓數五箇ニ過キサル者ノ車馬ノ入口ハ皆通常ノ入口トシテ之ヲ算シ製造處ニ於テハ製造家ノ居室及ヒ番人手代等ノ居室ノ窓ニアラサレハ租稅ヲ課セサルヘシトセリ

由是觀之ハ佛國ニ於テ門窓稅ヲ免ル者ハ甚々少ナキヲ知ルヘシ元來佛國門窓稅ノ徵課法交取分法トナリ配賦法トナリ一定セス方今ニ於テハ頗ル配賦法ノ性質ヲ負フト雖取分配賦混合ノ法ト云フヘキナリ  
初メ門窓稅ヲ置クヤ取分法ヲ以テ之ヲ徵セリ然ルニ該稅ノ賦課ヲ以テ地方ニ委テ地方政府ハ大ニ其任ヲ怠リ徵收ノ事ヲカメスシテ收入年ニ減セリ之ヲ以テ遂ニ中央政府ハ一定ノ稅額ヲ收入セント欲シ革命ノ第十年八月十三

日ノ條例ヲ以テ改メテ配賦法トナシ是ヨリ該稅ノ收入高ヲ一定シテ千八百三十一年ニ至レリ同年三月二十六日ノ條例ヲ以テ佛國政府ハ門窓稅ヲ以テ取分法ニ復セリ

抑租稅ノ配賦法ハ決シテ平等ナルヲ得ス又政府收入ノ増加ヲ妨クル者ニシテ良法タルヲ得ス故ニ千八百三十一年ノ條例ハ過ヲ改ムル者ト云フヘシ當年ノ改正ハ頗ル美果ヲ得テ急ニ政府ノ收入ヲ倍スルニ至レリ革命ノ第十年初メテ配賦法ヲ行フテヨリ中央政府門窓稅ノ收入高ハ僅ニ千二百八十一萬二千八百四「フランク」ニ止レリト雖千八百三十一年ニハ急ニ増加シテ二千五百六十六萬七千三百三十六「フランク」トナレリ然ルニ稅率ニ至リテハ敢テ増加セシニアラス舊ニ依リテ之ヲ課セリト雖只州邑ノ惣額ヲ以テ之ヲ見ル時ハ某州ハ従前ノ三倍ヲ出シ某邑ハ従前ノ六倍ヲ拂ヒシヲ見ル之ヲ以テ苦情百方ニ起レリ當時政府新タニ定マリ根據未タ固カラズ頗ル難ヲ忍フノ氣ニ乏シク遂ニ千八百三十二年四月二十一日ノ條例ヲ以テ門窓稅ノ法ヲ改メ尙分頭稅ニ於ケルカ如ク配賦法トナシ正稅ノ徵收高ヲ定メテ二千二百萬「フラン



ンクトセリ千八百三十七年ニ至ル迄右ノ徵收高ハ依然トシテ増減ナク此年ニ至リテ初メテ千八百三十五年八月十七日ノ條例ヲ實施シ爾後毎年ノ徵收高ヲ増加スルヲ得タリ該條例ニ據ル時ハ門窓稅ノ徵收高ハ毎年新築家屋ノ門窓ノ數ニ由テ増加スヘク又廢毀家屋ノ門窓ノ數ニ由テ減少スヘシ又千八百三十八年七月十四日ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ門窓稅ノ配賦法ヲ再議シ爾後十年毎ニ國會ニ於テ其新策ヲ討議スヘシトセリ千八百四十四年ニ於テハ右ノ條例ヲ實踐セリト雖同年八月四日ノ條例ヲ以テ毎年ノ改正ヲ止メ門窓稅ノ各州ニ配課スヘキ高ハ官ノ人口調査ニ由リ各邑ノ負擔スヘキ稅額増減ニ從テ常ニ増減スヘシトセリ(本文條例ノ詳カナルハヴイギユ氏トレーテ、デザムポー、アンフランス第一卷四十七八葉ヲ見ルヘシ)元來該稅ノ徵收ハ種々ノ事情ヲ斟酌シテ稅率ヲ定ムル者ニシテ就中各邑人口ノ多少ニ從フ者ナリ

斯ノ如ク各州ノ配課高ハ家屋ノ増減各邑人口ノ變動ニ由テ左右スル所ノ稅率ノ増減ニ由リ毎年多少アルヲ以テ門窓正稅ノ收入ハ地租ニ比スレハ屈伸

カヲ有シ年々増加スルヲ得ル者トス

千八百三十二年門窓正稅ノ收入高ハ二千二百萬フランクナリシト雖千八百四十二年ニハ増シテ二千三百二十五萬千十二フランクトナリ千八百五十二年ニハ二千五百五十五萬九千四百八十一フランク千八百五十六年ニハ二千六百七十四萬九千五百十四フランク千八百六十年ニハ二千八百四十五萬千三百十三フランク千八百六十九年ニハ三千三百三十七萬八千八百七十二フランクトナレリ而シテ千八百七十五年ニハ二州ヲ失ナヘリト雖尙三千四百十五萬六千二十九フランクニ達シ副稅ノ中央政府ニ收入セシ者ヲ合ス時ハ三千九百八十四萬二千フランクニ上レリ千八百七十五年門窓副稅ノ總收入高ハ實ニ二千六百六十五萬五千五百四十八フランクナリ千八百七十六年ニ於テ正副稅ヲ合セテ中央政府ノ收入高四千三十萬フランク地方ノ收入凡ソ二千三百萬フランクナルヲ以テ門窓稅收入高ハ國稅地方稅ヲ合セテ六千三萬フランクナリト云フヘシ

佛國ノ門窓稅ハ配賦法ナリト雖之ヲ徵收スルニ稅率アリ千八百三十二年ノ



條例ヲ以テ稅率ヲ分テ二部トセリ第一ハ門窓一箇ヨリ五箇ニ至ル迄ノ家屋

ニ關スル者ニシテ該部ノ租稅徵課法ハ左ノ如シ

邑ノ人口五千以下ニアル者ハ門窓一箇ニ付三十「サンチム」ヲ課シ二箇ニ付  
四十五「サンチム」三箇ニ付九十「サンチム」四箇ニ一「フランク」六十「サンチム」  
五箇ニ二「フランク」五十「サンチム」ヲ課ス人口五千ヨリ一萬ニ至ル迄ノ邑  
ハ同數ノ門窓ニシテ課稅少シク多ク一萬ヨリ二萬五千二萬五千ヨリ五萬五  
萬ヨリ十萬ニ至ル迄ヲ分テ各々一級トシ一級ヲ上ル毎ニ次第二稅額ヲ増シ  
最後ニ十萬以上ノ人口ヲ有スル邑ヲ一級トシ稅額最モ重ク門窓一箇ニ付一  
「フランク」二箇ニ一「フランク」五十「サンチム」三箇ニ四「フランク」五十「サンチム」  
四箇ニ六「フランク」四十「サンチム」五箇ニ八「フランク」五十「サンチム」ヲ課  
ス

小家屋ニ課スル所ノ門窓稅ハ常ニ重カラスト雖副稅ヲ以テ之ヲ増加ス各邑  
人口ノ多寡ニ應シテ階級ヲ定ムルハ家屋ノ價格ハ人口ノ多少ニ由リテ異ナ  
レハナリ而シテ其形ハ累進タリト雖實際累進稅ニアラサルナリ如何トナレ

ハ五箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ一箇ノ門窓ヲ有スル所ノ者ニ比スレハ其價格  
五倍ニ過クレハナリ夫レ小家屋ノ列ニアリテ三四箇若クハ五箇ノ門窓ヲ有  
スル者ハ只ニ一箇ノ門窓ヲ有スル小舎ノ三四倍若クハ五倍ノ品位價格ヲ有  
スルハ衆ノ知ル處ナリ然ラハ則チ該稅ニ累進ノ形アル者ハ豈ニ當然ナラス  
ヤ

第二部ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋トス右兩部ノ稅率ニ異ナル所ノ  
要領ハ第一部ハ累進ノ形ヲ有シ第二部ニ於テハ累進ノ形ナキト是ナリ五箇  
以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ門窓ノ種類ヲ同フスル時ハ同一ノ稅額ヲ課  
シ門窓ノ數ヲ以テ家屋ノ階級ヲ分タス例ヘハ茲ニ門窓二十箇ヲ有スル家屋  
アリ其每箇ニ負擔スル所ノ額ハ門窓十箇ノ家屋カ每箇ニ負擔スル處ト毫釐  
ノ差ナシ然ルニ第一部ニ屬スル所ノ家屋ハ門窓五箇ヲ有スレハ殆ト門窓一  
箇ノ家屋ノ負擔ニ九倍セリ

門窓ノ數五箇以上ノ家屋ニ於テハ門窓ノ階級ヲ分テ三トナス第一ヲ馬車荷  
車ノ入口及ヒ商店ノ入口トシ第二ヲ通常ノ入口并ニ「レデシヨウゼー」土地ニ



密接スル所ノ間「アントルソル」重ニ初階ト「レデシヨウゼー」ノ間ニアル所ノ間  
ヲ云フ及ヒ初階二階ノ窓口トシ第三ヲ三階以上ノ窓口トナス  
右各級ノ税額ハ其家屋ノアル邑ノ人口ニ應シテ之ヲ異ニシ邑ハ又其人口ニ  
從ヒ分テ六級トス初級ヲ五千以下ノ人口ヲ有スル邑トナシ最後ノ級即チ税  
額最モ重キ者ヲ十萬以上ノ人口ヲ有スル市府トナス  
馬車荷車ノ入口及ヒ商店ノ入口ニハ

- 初級 一フランク六〇サンチーム
  - 二級 三フランク五〇サンチーム
  - 三級 七フランク四〇サンチーム
  - 四級 一一フランク二〇サンチーム
  - 五級 一五フランク
  - 六級 一八フランク八〇サンチーム
- 通常ノ入口并ニ「レデシヨウゼー」「アントルソル」初階二階ノ窓ニハ  
初級 六十サンチーム

二級 七五サンチーム  
三級 九〇サンチーム  
四級 一フランク二〇サンチーム  
五級 一フランク五〇サンチーム  
六級 一フランク八〇サンチーム

而シテ三階以上ノ窓口ニハ人口五千以下ノ邑ハ六十「サンチーム」五千以上ハ  
悉ク皆七十五「サンチーム」ヲ課ス然ルニ此ニ舉ル所ノ者ハ皆正税ノ額ニシテ  
副税ヲ加レハ殆ト之ニ倍スル者ト知ルヘシ  
斯ノ如ク門窓税ハ邑ノ人口窓口ノ高低若クハ入口ノ種類ニ由リテ之ヲ賦課  
セシ者ニシテ不完全ノ甚キヲ見ルヘシ例ヘハ窓口大ニシテ其數少ナキ家屋  
ノ價格ハ窓口小ニ數多キ家屋ノ價格ヨリ大ナルヲ得ヘシ方今建築家カ巨館  
美屋ヲ建ルニ窓數ヲ減シテ之ヲ大ニセンヲカムルヲハ著キ者ナリ  
大府ニ於テハ斯ノ如キヲ爲メニ不平均ノ甚キヲ以テ中央政府ハ之ヲ避ン  
ト欲シ巴里リオンボルドーノ三府ニハ特別ノ法ヲ設ケ門窓税配賦高ヲ分課



スルニ當リ家賃價格ト窓數ヲ相照シテ之ヲ定ムル者トセリ此ニ於テカ門窓  
税ハ動産税ノ附屬タル者ノ如シ  
余輩ハ佛國ノ門窓税ハ税率ニ由テ之ヲ課シ而シテ配賦ノ法ヲ行フ者ナリト  
云ヘリ此二ノ者ハ其性質相容レサルカ如キヲ以テ解シ難キ者アラシク請フ之  
ヲ説ク

州ニ配賦スル所ノ額ハ毎年家屋ノ増減及ヒ諸邑ノ人口ノ變動ニ由テ左右ス  
ル所ノ税率ノ變化ニ從テ増減セラル州會郡會ハ増減折衷ノ權ヲ有スル者ニ  
シテ其郡ニ配賦シ邑ニ配賦スルニ各々又家屋ノ増減人口ノ變動ヲ斟酌スル  
者トス最後ニ人民ニ配賦スルハ配賦吏員ノ任ニシテ該吏員ハ「コントローラ  
ル」ト協議シテ毎年被課物ノ變動ヲ調査ス各人一個ノ配賦高ヲ算定スルハ前  
記ノ税率ニ從ヒ其邑ノ人口ノ割合ニヨルト雖之ヲ算集シテ其總額其邑ニ配  
賦セラレタル高ニ過不及アル時ハ各民ノ負擔スヘキ高ニ比例シテ徵收高ヲ  
増減スル者トス

已ニ前章ニ舉ケタル如ク佛國門窓税ノ總收入高ハ千八百七十六年ニ於テ六

千三百萬「フランク」ニシテ中央政府ニ收入セシヲ四千二十九萬八千「フランク」  
〔正税三千四百五十萬「フランク」副税凡ソ六百萬「フランク」〕トシ州邑ノ副税ヲ以  
テ地方ニ收入セシヲ二千二百八十萬四千「フランク」トス千八百三十二年以後  
正税ハ二千二百萬「フランク」ヨリ三千四百萬「フランク」トナリシ者ニシテ五割  
四分ノ増加ヲ致セシ者ナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ門窓税收入ノ増加ハ地租ニ  
比スレハ速カナリト云ヘシ

官ノ文書ニ據リテ被税家屋門窓ノ數ヲ示ス「左ノ如シ

家屋

門窓

千八百二十二年	六、三、四一、三七三	三四、一九一、八二一
千八百三十一年	六、六七七、一一一	三六、三四三、六二五
千八百三十六年	六、八〇五、四〇二	三七、二五三、八五九
千八百六十六年	七、八一七、七四九	
千八百七十二年	七、七〇四、九一三	
千八百六十六年并ニ千八百七十二年ニ於ル家屋ノ數ハ居住家屋ノミニ		



シテ農工ノ業ニ用フル建物馬車置場商店工場ヲ除ク  
 表中千八百六十六年千八百七十二年ニ於テ門窓ノ數ヲ欠ク又千八百六十六  
 年千八百七十二年ノ間ニ於テアルサースロレーン二州ヲ失ヒ佛國ノ人口ハ  
 四分ヲ減セリト雖該表ニ由ル時ハ家屋ノ減少ハ十萬七千即チ一分三ニ過キ  
 ス以テ開明社會ニ於テ居住ノ安寧康福日ニ上進發達シ家屋ノ數年ニ増加ス  
 ルヲ見ルヘシ

近年ノ景況ヲ知ルニ由ナシト雖左ノ表ニ據リテ各級ノ家屋増減ノ景況ヲ見  
 レハ一二箇ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ年ニ減シ三箇以上五箇ノ門窓ヲ有ス  
 ル者ハ少シク増減シ上級ニ屬スル家屋ハ最モ増加ノ大ナルヲ証スルニ足ラ  
 ン由是觀之ハ民富日ニ増加シ該稅ノ負擔重キニ過サレハ被稅者ヲシテ窓數  
 ヲ減シテ清氣光明ヲ拒絕セシムルニ足ラサルヲ知ルヘシ

門窓一箇ノ家屋	千八百三十七年	千八百四十六年	増減
門窓二箇ノ家屋	一、八〇五、四二二	一、八一七、三二八	減
門窓三箇ノ家屋	一、四三三、六四二	一、三二二、六九一	減
門窓四箇ノ家屋	九九六、三四八	三三三、六九一	減
門窓五箇ノ家屋	六九二、六八五	一、八〇五、四二二	減
門窓六箇以上	二二二〇、七五七	一、四三三、六四二	減
總計	七、四六二、五四五	六、七九八、一五一	減

門窓三箇ノ家屋	一、三二〇、九三七	一、四三三、六四二	増
門窓四箇ノ家屋	八八四、〇六一	九九六、三四八	増
門窓五箇ノ家屋	五八三、〇二六	六九二、六八五	増
門窓六箇以上	一、八四六、三九八	二二二〇、七五七	増
總計	六、七九八、一五一	七、四六二、五四五	増

表中門窓一箇二箇ノ家屋ハ數ヲ減シ三箇四箇ノ家屋ハ増減セシト雖大ナラ  
 ス最モ増加セシハ五箇以上ノ家屋ニアリ千八百四十七年以後佛國家屋ノ景  
 況ハ駭々トシテ上進セシ者ノ如シ蓋シ當時佛國人民ノ居住セシ家屋ハ頗ル  
 鄙賤ナル者ニシテ國中家屋ノ半ハ多キモ門窓三箇ニ過キス即チ一家二室ニ  
 過キサリシ者ナリ然ルニ國民ノ半數ハ斯ノ如キ小舎茅屋ニ住セリト云フニ  
 アラス如何トナレハ高樓巨室ハ自ラ之ニ任スル者多ケレハナリ

千八百三十七年ノ調査ニ據レハ門窓ノ數三千六百九十八萬二百七十八箇ナ  
 リ之ヲ以テ家屋ノ數六百七十九萬八千五百一十一ニ平均スレハ一家ニ門窓五  
 箇半ノ割合トナル千八百四十六年ニハ門窓ノ數四千四百二十八萬三千三百



六十三箇ニシテ家屋ノ數七百四十六萬二千五百四十五ナリシヲ以テ平均一家ニ六箇ノ門窓ヲ有スル者トナル千八百六十年ニ於テ佛國門窓ノ數ヲ概算シテ五千萬ト稱セリ然レトモ其精確ナルヤ否ヤハ知ルニ由ナシ方今ニ於テハ門窓ノ數ハ凡ソ五千二三百萬箇ナリト云フモ決シテ過言ニアラサルヘシ然ラハ則チ千八百三十七年以後四割五分ノ増加ヲ致セシ者ナリ顧ミテ人口ノ増加ヲ見レハ同年間ニ僅カニ九分ノ増加ニ過キス

佛國ノ門窓稅ハ正稅副稅共ニ年ニ増加スルヲ以テ上下議院ニ於テハ數々該稅ノ負擔鄉村ニ重ク市府ニ輕キナカラシヤヲ論セリト雖此論題タル遂ニ無益ナルカ如シ顧ミテ其稅率ヲ見レハ邑ノ人口ニ應シテ稅額ニ多少アリ家屋ノ大小ハ門窓ノ數ニ應シテ之カ階級ヲ定ムル者ニシテ二箇乃至四箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ鄉村ニ多ク市街ニ少ナシ然ラハ則チ鄉村ノ負擔ハ割合ニ輕シト云ヘシ又何ノ論カ之レアララン

其統計ハ舊シト雖千八百三十八年ノ財政要覽ヲ見ルニ門窓稅ノ配賦ニ關シテ精確ナル形況ヲ示ス

此緊要ナル問題ニ付テハ千八百三十八年以後ノ財政報告中ニ見ル所ナシ斯ノ如キ統計ハ少ナクモ十年毎ニハ之ヲ公發スルヲ要ス

千八百三十七年門窓稅ノ收入高ハ二千二百二十一萬五千三百三十二フランクニシテ其家屋ノ數ハ六百八十三萬二千四百九十七箇被稅者ノ數六百九十五萬三千四百十六人ナリ左ノ表ニ據リテ諸邑各級ノ負擔各家族ノ平均負擔ヲ見ルヘシ

合計并ニ平均數	二三一五二三三
人口五千以下ノ郡區	一三五五〇二三三
人口一萬以下ノ市府	一六三三六〇
人口一萬至五萬ノ市府	一七八四八〇五
人口五萬至十萬ノ市府	一四三〇一八〇
人口十萬至十五萬ノ市府	一〇七六九四〇
人口十五萬以上ノ市府	二五三六〇九四
正稅ノ配賦高	フランクス



家屋ノ數	家族ノ數	平均	
		一家屋ニ付	一家族ニ付
六八三三九七	六三三九七一	六〇四三六〇	六九五三四一六
三三二九二四	三三二九二四	三三二九二四	三三二九二四
一七二七六一	一七二七六一	一七二七六一	一七二七六一
七五三六二	七五三六二	七五三六二	七五三六二
四九九八五	四九九八五	四九九八五	四九九八五
四五五五三	四五五五三	四五五五三	四五五五三
八二八三五	八二八三五	八二八三五	八二八三五
一四〇七九〇	一四〇七九〇	一四〇七九〇	一四〇七九〇
一一〇四三七五	一一〇四三七五	一一〇四三七五	一一〇四三七五
一〇	一〇	一〇	一〇
一三	一三	一三	一三
一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一	三一
三二	三二	三二	三二
三三	三三	三三	三三
三四	三四	三四	三四
三五	三五	三五	三五
三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ鄉村ニ於テハ門窓税ノ負擔甚々輕ク居民一口ニ付正税ノ負擔六十五サンチム副税ハ國税地方税ヲ合セテ凡ソ一フランクニ過キサルナリ

然ルニ該税ノ賦課ハ甚々宜キヲ得サル者ト云ヘシ已ニ論セシカ如ク家賃價格ハ決シテ門窓ノ多少ニ應スル者ニアラス却テ室ノ大小美惡精粗位置ノ良否ニ由リテ家賃價格ヲ異ニスヘシ又佛國ノ制人口五千以下ノ邑ハ其税率ヲ同フスルヲ以テ鄉村ニ於ケル人口二三千ノ邑モ四千若クハ四千九百ノ人口ヲ有スル市街モ其窓數ヲ同フスル時ハ租税ノ負擔ヲ異ニセス然ルニ四千若クハ四千九百ノ人口ナル市街ニ於テ門窓八九箇ヲ有スル所ノ家屋ハ其價格ノ大ナル鄉村ニ於テ同數ノ門窓ヲ有スル家屋ニ勝ルヤ明カナリ況ヤ其家屋市街ノ中央ニ位スル時ニ於テヲヤ然ラハ則チ假令ヒ負擔ニ大不平均ナケレハ足ルトナスモ二千乃至五千ノ人口ヲ以テ密接ニ建築セル所ノ家屋ハ別ニ分テ一級トナサハルヘカラス

又門窓五箇ヨリ十箇ニ至ルマテノ家屋ヲ以テ別ニ一級トナスヘシ方今ノ法



律ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル者ハ概シテ一樣ニ見做スト雖門窓ノ數五箇ヨリ十箇ニ至ル迄ノ家屋ハ價格ノ大ナル者ニアラス門窓十八箇ヲ有スル家屋ノ家賃ハ其數六箇ヲ有スル家屋ノ家賃ノ三倍ニ超ユルカ如シ故ニ該稅累進ノ階級ヲ増加スルヲ良シトス然リト雖直チニ家賃ノ價格ニ應シテ租稅ヲ課セハ容易ナルヘキニ何ヲ苦ンテカ漠然タル家賃ノ標示ニ據ルヲ要センヤ元來政府ノ意ハ家屋ノ借主ヲシテ門窓稅ヲ負擔セシメント欲スルモノニシテ家主ヲシテ該稅ヲ納メシムルハ徵收ノ便ヲ計ルニ出ル者ナリ家主若クハ上借人等ハ家賃ヲ増シテ償ヲ家屋ノ借用者ニ取ル者トス家主カ少シク自ラ負擔スル所ノ門窓稅ハ只特ニ共用ノ門窓ニアリ門窓稅ノ實際負擔ノ歸スル處ハ尙家屋稅ニ於ケルカ如ク場合ニ應シテ之ヲ異ニスヘシ其負擔ハ通例家屋ノ借主ニ歸スヘシ即チ富人口營業日ニ發達進歩スル所ノ地方ニ於テ新家屋ノ需要盛ナレハ該稅ヲ負擔スル者ハ家屋ノ借主ニアリ家主カ該稅ノ全額若クハ其一部ヲ負擔セサルヘカラサルハ特ニ其地方ノ富衰ヘ人口減少スル時ニアリスノ如キ場合ニ於テハ貸家ノ數需要ニ

超ユルヲ以テ時トシテハ政府カ租稅ヲ増加スルニ當リテ家主ハ家賃ヲ減セサルヘカラサルヲアリ然リト雖斯ノ如キハ稀有ノ形情ニシテ且ツ暫時ノ間ニ過キサルモノナリ凡ソ門窓稅ハ決シテ平均ヲ得ルモノニアラス而シテ家屋稅若クハ動產稅ヲ復課スル者ト云フヘキナリ然ルニ家屋若クハ居住ニ租稅ヲ課セント欲セハ家賃ニ基クニ如クハナシ家賃ハ之ヲ知ルニ易シ又曖昧タル標示ニ取ルヲ待タサルナリ是故ニ門窓稅ヲ廢シテ家屋稅若クハ動產稅ニ加ヘテ其不足ヲ償ハ、稅法ノ一改良ト云ヘシ彼ノシヤルワヤ氏カ以太利ノ大藏卿タルニ當リ國會ヲシテ門窓稅ヲ廢セシメシハ實ニ卓見ト云ヘシ烟筒稅ニ於ケルモ門窓稅ヲ以テ此ニ論スル所ニ異ナルモノナシ次テ余輩ハ直稅ノ中ニ於テ最モ取ルヘキ一稅ナル居住ノ家賃ニ課スル所ノ者即チ家賃稅ヲ論セン佛國ニ於テ之ニ附スルニ動產稅ノ名ヲ以テスルハ不當モ亦甚シト云ヘシ政府ハ一舉シテ平等ニ被稅者ノ歲入ニ租稅ヲ課スルヲ能ハサルニ當リ臆測ヲ以テ之ヲ賦課スルヲ欲セス去リトテ人民ノ申告ニ信



ヲ置ク能ハサレハ居住ノ家賃ニ應シテ租税ヲ課スレハ最モ能ク其財力ニ比  
 例スルヲ得ヘキモノトス如何トナレハ家賃ノ多少ハ最モ能ク財産若クハ歳  
 入ノ多少ヲ表スル者ナレハナリ方今佛國ノ社會ハ居住ノ安息外見ノ驕侈ヲ  
 節ルヲ好ムノ風アリ故ニ財力アル者ハ必ス先ツ家屋ヲ壯大ニシ居室ヲ修飾  
 スルヲ以テ常トナス  
 該税ニ抗スル者ハ通例資本若クハ歳入ノ單稅論者ニシテ此輩ト雖一説ナキ  
 ニアラス其言ニ曰ク衆人ノ中或ハ其嗜好若クハ家族ノ都合若クハ職業ノ性  
 質ニヨリテ家賃ニ費ヤス所割合ニ多キ者アリ或ハ居住ノ卑陋ナルヲ厭ハサ  
 ルカ若クハ節儉ヲ力ムルヨリ歳入ノ一小部分ヲ以テ家賃ニ供スル者アリ然  
 ラハ某甲ノ負擔ハ重キニ過キ乙某ハ殆ト租税ヲ免ルノ效驗アラント  
 右ノ説ハ家賃稅ト雖到底平均ヲ得ヘカラサルモノニシテ財政ノ完全無缺ヲ  
 望ム者ハ只ニ想像ニ過キサル者トナシ該稅ヲ擯斥シ得ルヲ説キ一見頗ル理  
 アルカ如シト雖適切ナリト云ヒ難シ若シ家賃ニ由テ歳入ヲ推定スルニ實際  
 被稅者ノ歳入ハ之ニ及ハサルヲアレハ彼ヲシテ其不當ヲ証明スルヲ得セシ

ムヘシ何ノ不可ナルヲカ之レアララン醫師代言人ノ如キ職業ノ爲メニ割合ニ  
 家賃ニ費ス所多キ者ハ幾許カ稅率ヲ減シテ之ヲ課スルヲ得ヘシ然ルニ一般  
 ノ稅率ヲ輕フセハ斯ノ如キ輕減法ヲ行ハサルモ可ナルヘシ  
 月行キ星移ルニ從テ被稅者皆租稅ヲ顧ミテ各々居住ヲ定メ自カラ其費ス所  
 ノ家賃ト得ル所ノ歳入ノ割合ハ政府カ定ムル所ノ割合ト均シキニ歸スヘシ  
 只外飾ヲ事トスル者若クハ不注意ナル者ハ財力不相應ノ租稅ヲ拂フヲアル  
 ヘシ又吝嗇家アリテ非常ニ家賃ヲ節減シ租稅ノ一部分ヲ避ケンヲカメハ  
 政府ハ此輩ヲ如何トモスルヲ能ハサルヘシ然リト雖此事タル非常ノ場合ニ  
 シテ歳入稅ノ法ニ於テハ被稅者ノ申告ニ由ルモ政府ノ鑒定ニ由ルモ皆免レ  
 サル所ノ者ナリ如何トナレハ世ニハ數個ノ吝嗇家アリテ常ニ租稅ヲ避ン  
 ヲ計ルヲ以テナリ又如此ク居住ヲ節減シテ家賃稅ノ一部ヲ免ルモ早晚政府  
 ノ徵收ヲ免レサルヘク又其家賃ニ於テ節減スル所ハ之ヲ貯蓄スヘキカ故ニ  
 政府カ之ニ稅セサルハ貯蓄ヲ愛護獎勵スル者トモ云ヘシ加フルニ又遺傳稅  
 ノ法アルヲ以テ是等ノ吝嗇家ノ歳入ハ年毎ニ一小部ヲ徵收セスト雖之ヲ貯



蓄シタル後其死スルノ日ニ於テ一時ニ之ヲ徵收スルノ實アリ然レトモ其割合ハ少ク輕カルヘシ假令ヒ是等ノ事アルモ實際ニ於テ政府ノ失フ所ハ甚タ小ナルヘシ

家賃稅ハ多數ノ家族ヲ有スル者ニ重ク少數ノ家族ヲ有スル者ニ輕シト云フニ至リテハ稍々力アルカ如シ然ルニ家族多キ者ハ政府ノ恩惠保護ヲ被ルコトハ自ラ多カルヘシ家族多キカ爲メニ租稅ノ負擔重キハ何ソ獨リ家賃稅ニ於ケルノミナラン百般ノ消費稅ニ於ケルモ亦均ク然リ只ニ一般ノ歲入稅若クハ資本稅ニ於テ云ヘカラサル者ト知ルヘシ或ハ云ン假令ヒ一市街中ニ於テモ只ニ居住ノ形狀ヲ節減スルノミナラス位置ヲ變ヘ若クハ層ヲ更メハ敢テ衛生上ニ妨クルコトナクシテ數々家賃ヲ減シ從テ家賃稅ヲ減スルコトヲ得ヘシト曰ク然リ此コトタル或ル場合ニ於テハ行フヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ適用スヘカラス例ヘハ夥多ノ家族ヲ有スル者已ニ市街ノ最モ隔リタル場處ニ住シ最上階ノ室ニ居ル時ハ同地同層ニ住シテ家族ノ少ナキカ爲メニ多數ノ居室ヲ要セサル者ニ比スレハ此輩ノ負擔ハ重カルヘシ然ラハ則テ之ヲ避ク

ルノ法如何曰ク何ソ家族ノ數ヲ計リテ稅率ヲ定メサルヤ凡ソ獨身妻ナキ者ノ家賃稅ハ家族ヲ有スル者ヨリ少ク重キモ可ナリ故ニ稅率ヲ定ムルニ幼兒ノ數ニ應シテ之ヲ減スヘシ例ヘハ妻ナキ者ニ家賃稅トシテ家賃ノ一割二分ヲ課セハ家族ヲ有スル者ニハ一割ヲ課シ而シテ幼兒ノ兩親ト住スル者アレハ一人毎ニ一分ヲ減シ幼兒四人アリトスレハ四分ヲ減シテ家賃ノ六分ヲ課スルトセハ可ナラン之ヲ實行スルコト敢テ難キニアラス又此輕減法ハ富民ニ施コサ、ルモ可ナリ例ヘハ其土地ノ人口ニ應シテ千五百「フランク」若クハ三千「フランク」以上ノ家賃ハ更ニ輕減法ヲ行ハサル者トナスカ如シ

家賃稅ニ於ケル一他ノ利ハ該稅ハ概シテ自ラ永世ノ歲入ト一時ノ歲入ノ負擔ヲ區別スルニアリ元來租稅ハ國民ノ歲入ニ比例セサルヘカラスト雖一生ノ歲入若クハ一時ノ歲入ハ永世ノ歲入ニ比スレハ輕課セサルヘカラサル者ナリ然ルニ之ヲ實施スルニ至リテハ尙租稅ヲシテ偏重ナカラシメント欲スト一班ニシテ頗ル難シ家賃稅ニ至リテハ力メスシテ自ラ輕重宜キヲ得ルノ大利アリ實ニ職業勞力ヲ以テ一生若クハ一時ノ歲入ヲ有スル者ハ其家賃ニ



費ヤス所ノ歳入ノ部分ハ土地或ハ公債証書ノ如キ者ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル者カ家賃ニ費ス所ノ部分ヨリ小ナルヲ常トス例ヘハ某甲某ハ毫モ資本ヲ有セス或ハ之レアルモ僅小ノ資本ニシテ勞働ヲ以テ毎年四萬フランクヲ得乙某ハ財産家ニシテ坐ナカラ年ニ四萬フランクヲ得ハ某甲某カ居住ノ形狀ハ必ス乙某ニ及ハサルヘシ如何トナレハ某甲某ハ貯蓄ヲカメサルヘカラサルト乙某ヨリ大ナルヲ以テ歳入ノ一部ヲ貯蓄ニ宛ツレハナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ甲乙共ニ四萬フランクノ歳入ヲ有スト雖其歳入ノ性質ニヨリ家賃税ノ負擔ヲ異ニスヘシ若シ一生若クハ一時ノ歳入ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル所ノ隣人ト居住ノ形狀ヲ同フシ家賃ニ費スト異ナルナケレハ是レ輕浮ナリ淺慮ナリ何ノ功カ之レ有ラン負擔ノ重キヲ訴フヘキニアラサルナリ斯ノ如キ場合ニ於テ租税ノ重キハ一種ノ罰金ト稱スルモ可ナルヘシ

千七百九十一年ニ於テ委員惣會ノ行ヘルカ如ク家賃税ニ加フルニ馬車奴婢ノ如キ簡易ナル驕奢物ニ課スル所ノ租税ヲ以テスルモ可ナルヘシ(該税ノ得失ハ別ニ後篇ニ於テ論スル所アラントス)該税ヲ以テ家賃税ニ附屬セシムル

ニ當リテハ奴婢ノ數車馬ノ數ニ應シテ家賃税率ヲ増加セハ可ナラン例ヘハ被稅者カ車馬ヲ有スル時ハ家賃税率一割ヲ増シ奴婢一人毎ニ五分ヲ加フルカ如キ是ナリ然ルニ此法タル繁雜繞密ヲ免レサル者ニシテ余輩ハ進テ主張スル者ニアラス然ルト雖歳入税甚タ重フシテ被稅者ノ申告若クハ政府ノ鑒定ヲ以テスレハ臆測ノ弊アリ蔽匿ノ恐レアルニ當リ間税ヲ減セント欲セハ方今佛國社會ノ形况ニ於テハ是等ノ如キハ最モ能ク人民ノ歳入若クハ財産ヲ表スル者ナルカ故ニ驕奢物ノ税ヲ以テ家賃税ニ加フルモ敢テ不可ナルトナカルヘシ

抑家賃税ハ上下ノ別ナク一般ニ之ヲ課シ税率ヲ平等ニスヘキヤ否ヤニ於テ世ノ論題ヲ免レス元來佛國ノ大府ニ於テハ小歳入ハ動産税ヲ免除スルノ習慣ニシテ巴里府ノ如キハ四百フランク以下ノ歳入ハ該税ヲ除ク者トス其說ニ曰ク小歳入ヲ有スル者ハ間税ノ負擔重シ故ニ之ヲ償補スル者ナリト其實ニ理アリ然ルニ余以爲ラク家賃ニ課スル所ノ直税ハ之ヲ課スル簡ニシテ之ヲ徵收スルニ易シ故ニ舉テ之ヲ免除スルハ敢テ好ム所ニアラス寧ロ動産



税即チ家賃税ヲ課シテ間税ノ最モ害多ク最モ重キ者即チ葡萄酒税林檎酒税  
麥酒税ノ如キヲ廢スルニ如カス

家賃税ヲ課スルハ必スシモ上下ノ税率ヲ一ニセスシテ可ナリ家賃ノ等級ニ  
應シテ之ヲ課スルハ却テ當然ナルヘシ該税ヲ課スルニ家屬ノ數ニ應シテ加  
減ヲ行フノ要用ナルハ既ニ前章ニ示スカ如シ或ハ云フ小歳入ヲ有スル者ハ  
家賃ノ爲メニ費ス所ノ者巨額ノ歳入ヲ有スル者ヨリ大ナルモノトス例ヘハ  
勞力者ノ家族アル者ハ一ヶ年僅ニ千八百フランクノ歳入ヲ有シテ三百フラ  
ンクヲ以テ家賃ニ宛テサルヘカラサル者少カラス然ルニ地主ノ一萬八千フ  
ランクヲ有スル者ハ僅ニ千八百若クハ二千フランクヲ以テ家賃ニ供シ一家  
三萬六千フランクヲ有シテ三千若クハ四千フランクヲ以テ家賃ニ費ス者ア  
リト曰ク然リ其言ハ概シテ虚ナラス然ルニ之ヲ以テ百般ノ場合ニ言フヘカ  
ラサルモノアリ實ニ巨大ノ歳入ヲ有スル者ニ至リテハ家賃ニ費ス所ノ歳入  
ノ部分數々大ニシテハ中等ノ民時トシテハ下民カ費ス所ノ割合ニモ超ユル  
コアリ即チ十五萬若クハ二十萬フランクノ歳入ヲ有スル者ハ大都會殊ニ巴

里府ニ於テハ通例四萬若クハ五萬フランクノ家賃價格ヲ有スル所ノ巨館ニ  
住シ時トシテハ之ニ加フルニ四千若クハ五千フランクノ家賃價格ナル村莊  
ヲ有スル者アリ元來巨大ノ歳入ヲ有スル者ハ其居ノ市府ト鄉村トヲ問ハス  
家賃ノ爲メニ歳入ノ五分ノ一四分ノ一甚キハ三分ノ一ヲ費ス者少カラス  
方今ハ常居ノ家ヲ有シ別ニ村莊ヲ持スルノ風日ニ盛ニシテ八萬フランク  
以上ノ歳入ヲ有スル者皆多クハ別莊ヲ有シ其家賃ノ爲メニ費ス所ノ歳入  
ノ部分大ニシテ一萬五千フランク乃至三萬フランクノ歳入ヲ有スル者ニ

勝ル

斯ノ如キ景況アレハトテ巨額ノ歳入ヲ有スル者ニハ家賃税率ヲ輕減スヘキ  
ノ理ナシト雖亦累進ヲ急ニシテ比例ヲ失ヒ實際歳入ノ大部分ヲ徵收スルカ  
如キニ至ルヘカラス若シ能ク其實況ヲ計リ累進ニ制限ヲ置カハ敢テ大害ナ  
カルヘシ若シ之カ爲メニ大歳入ノ負擔ヲシテ割合ニ重カラシメハ是レ中等  
以下ノ歳入ハ間税ノ負擔割合ニ重ク大歳入ノ負擔輕キカ爲メノ償補ト稱セ  
ンノミ



由是觀之ハ家賃稅ニ於テハ累進稅ノ形ヲ用フルハ可ナリ然リト雖其要スル所ハ階級ヲ少フスルニアリ例ヘハ六百フランク以下ノ家賃ハ其六分ヲ課シ六百フランクヨリ千二百フランクニ至ル迄ハ八分千二百フランクヨリ二千フランクニ至ル迄ハ一割二千フランク以上ハ一割五分ヲ課スルカ如キ是ナリ二千フランク以上ニ至リテハ之ヲ累進スルニ至當ノ理ヲ見サルナリ如何トナレハ二千フランク以上ニ至リテハ家賃ニ宛ル所ノ歲入ノ部分減セスシテ却テ屢々増加スルヲ以テナリ

此ニ論スル所ヲ以テ之ヲ見レハ家賃稅即チ佛國ニ於テ動產稅ト稱スル所ノ者ハ佛國稅中ノ最良ナル一稅ト云ハサルヘカラス勿論之ヲ稱シテ完全ナリト云フヲ得スト雖該稅ハ以テ大ニ歲入ノ多少否ナ國民ノ財力ニ比例スルヲ得ヘキ者ナリ臆測專斷ノ弊ヲ避クル者ナリ又大ニ收入ヲ得ヘキ者ナリ余輩ハ前章ニ於テ已ニ佛國建物ノ家賃價格ヲ算定シテ凡ソ二十億フランクトセリ然ルニ製造所商店ノ家賃價格ヲ減除セサルヘカラサルヲ以テ之ヲ減スルモ居住家屋ノ家賃價格ハ十六億フランクヲ下ラサルヘシ國稅地方稅ヲ合セ

テ之ニ課スルニ一割ヲ以テセハ一億六千萬フランクヲ得ヘシ然ルニ方今ノ動產稅收入高ハ分頭稅ノ收入高ヲ除キ正稅副稅ヲ合セテ僅カニ凡ソ九千萬フランクニ過キサルナリ

已ニ前章ニ論セシ如ク家屋稅ハ正稅副稅ヲ合セテ一割五分ヲ課スレハ三億フランクノ收入ヲ得ヘキナリ

本文ニ正副二稅ヲ合セテ一割五分ヲ課スルト云フハ只平均稅率ヲ云フノミ如何トナレハ副稅ハ經費ノ多少ニ由テ各地方同一ナラサルハ自然ノ勢ナレハナリ

動產稅ハ平均一割ヲ課シテ一億六千萬フランクヲ得ヘシ然ラハ則チ家屋稅家賃稅ヲ合セテ四億六千萬フランクヲ得ヘシ方今ノ地租ハ家屋ヨリ徵收スル部分(正稅副稅ヲ合セテ)國稅四千九百萬フランクアリ地方副稅ノ額ハ之ニ倍ストナスモ佛國ノ地租ニシテ家屋ヨリ徵收スル所ハ九千八百萬フランクニ過キヌ又門窓稅ハ國稅地方稅ノ收入ヲ合セテ六千三百萬フランク(動產稅ハ分頭稅ノ收入高ヲ減シテ)正稅副稅ヲ合セ九千萬フランクヲ收入ス故ニ三



四百七十四

税ノ收入ヲ合セテ二億五千百萬フランクヲ得ヘシ然ルニ今余輩カ計畫スル所ニ從カヘハ四億六千萬フランクヲ得ヘク即チ二億九百萬フランクノ増加ニシテ方今市門税ノ收入高ニ超ユル者ナリ然ハ則チ若シ佛國ニ於テ分頭税ヲシテ勞銀ノ増加ニ應シテ税率ヲ増加セシメ且ツ少シク他ノ諸税ヲ改正セハ入市税及ヒ中央政府ノ葡萄酒税林檎酒税梨酒税ハ殆ト全廢スルヲ得ヘシ或ハ云ン斯ノ如クスル時ハ家賃ノ負擔重キニ過キン如何トナレハ已ニ家屋税トシテ家賃ノ價格ニ一割五分ヲ課シ家主ヲシテ之ヲ拂ハシムルモ實際之ヲ拂フハ多クハ家屋ノ借主ニアリ而シテ又家賃税トシテ平均一割ヲ以テ直接ニ借主ニ課シ遂ニ借主ノ負擔ハ二割五分トナルヘケレハナリト曰ク然リ余輩モ亦敢テ重カラスト云フニアラスト雖重キニ過クト云ヘカラス其家賃税即チ動産税ト稱シテ直ニ借主ニ課スル所ノ者ハ下民ニ輕ク家族多キ者ニ減シ富民ニ至リテハ増シテ一割五分ヲ課スルヲ以テ家屋税ノ負擔ヲ加フレハ壯麗ナル居室ニ住スル者ハ家賃價格ノ三割ヲ拂フニ至ルヘシ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ三割ノ負擔ハ敢テ堪ヘ難キノ負擔ニアラサルヘシ合衆國

ノ諸州ノ如キハ之ニ超ユル者少ナカラス試ニ全國ノ人民カ家賃ニ給スル所ノ歲入ノ部分ハ全歲入ノ八分ノ一ニ居ルトセハ三割ノ家屋税家賃税ハ歲入ノ三分七五ニ過キヌ然ルニ實際ニ於テハ家賃ニ宛ル者多クハ皆歲入ノ八分ノ一ニ達セサルヲ余輩ハ佛國居住家屋ノ家賃價格ヲ製造所商店ノ家賃價格ヲ除キ算シテ十六億フランクト稱セリ而シテ佛國人民歲入ノ全額ハ二百億フランクニ過クルヲ以テ之ヲ見レハ佛國人民カ居住ノ家賃ニ費ス所ハ平均歲入ノ百分ノ八ニ過キサルナリ故ニ家屋税家賃税トシテ家賃價格ノ三割ヲ課スルモ平均僅ニ被稅者歲入ノ二分四ニ過キヌ加フルニ家屋税ハ一割五分トナセリト雖家賃税ニ至リテハ平均僅ニ一割ニシテ一割五分ヲ課スルハ獨リ富民ニアルニ於テヲヤ

家屋家賃ノ二税ハ共ニ家賃價格ニ賦課スル者ニシテ前章ニ述ルカ如ク二税兩ツナカラ借主ノ負擔ニ歸スルヲ通規トナスト雖之ヲ徵收スルニ至リテハ明カニ之カ別ヲナシ相混セサルヲ要ス判然二税ノ別ヲナス時ハ一ハ家主ニ直課シテ間接ニ借主ニ負擔セシメ一ハ借主ニ直課スルヲ以テ收入ヲ得易ク



外形ニ於テ公平ナルカ如ク人心ヲ激動スルコト少カルヘシ一人ニシテ家主借主ヲ兼ヌル時例ヘハ都會ニ於テ貴重ナル巨館ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ノ如キハ家屋稅家賃稅共ニ一身ニ集リ家賃價格ノ三割ヲ拂フヲ以テ負擔少シク重キノ思ヒアルヘシ即チ其價格五十萬フランクノ巨館ヲ有シテ之ニ住スル者ハ家賃價格凡ソ二萬フランク(元來家賃ニ實際ノ家賃アリ金額上ノ家賃アリ實際ノ家賃ハ家屋ノ修繕保存費ヲ減スヘキカ故ニ金額上ノ家賃ニ比スレハ常ニ凡ソ五分ノ一ヲ減スル者トス故ニ五十萬フランクノ家屋ノ家賃ハ凡ソ二萬フランクトナル)ナルヘキヲ以テ毎年凡ソ六千フランクノ租稅ヲ拂フヘク八十萬フランクノ巨館ニシテ家賃價格三萬フランク若クハ三萬五千フランクナル者ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ハ毎年九千フランク若クハ一萬五千フランクノ租稅ヲ負擔スヘシ豈ニ重シト云ハサルヘケンヤ然ルニ若シ入市稅ヲ廢セハ決シテ堪ヘ難キノ稅ニアラサルヘシ

余輩ハ此ニ於テ將來ヲ計畫スルヲ止メ鋒ヲ轉シテ現今既往ノ制度ヲ講究セシ佛國ノ動產稅ハ其實家賃稅ニシテ源ヲ革命政府ノ動產稅ニ發ス當時ノ動

產稅ハ頗ル大ナル者ニテアリシ

彼ノ委員總會ハ初メテ適理公正ノ財政制度ヲ立テ後世ノ標準トナリ而シテ其制タル被稅者ヲシテ其負擔ヲ知ルニ容易ナラシムル者ト云ヘシ該總會ハ一切内地ノ消費稅ヲ廢シ記錄稅ノ外只直稅及ヒ輸入稅ヲ存セシノミ該制ヲ定ムルニ當リテヤ委員總會ハ特ニ強剝若クハ臆測ノ性質アル者ヲ廢センコトヲカメリ此事タル以テ當時ノ思想ヲ證明スル者ト云ヘシ舊政法ニ於テハ人民ノ自由内政ノ獨立ヲ願ミルコト薄キヲ以テ委員總會ハ深ク其弊制ヲ矯正シ政府カ國民ノ私事ニ干涉スルノ害ヲ除キ寧ロ直稅ノ配賦ニ於テ多少不平均アルモ一家一人ノ事ニ干涉シ若クハ牽制セサランコトヲ欲セリ之ヲ以テ國民ノ財產若クハ歲入ニ關シテ被稅者ノ申告若クハ政府ノ調査ニ由テ租稅ヲ徵課スルノ制ハ一切之ヲ廢セリ

委員總會ハ官吏人民ノ間ニ爭議ヲ生セスシテ國民ノ歲入ヲ推定センコトヲ欲シ其最モ實際ノ價格ヲ表スル者ヲ取リテ之カ標準トセリ

全國ノ不動產ハ其歲入ノ六分一ヲ徵收スヘキ者トナシ不動產ノ歲入ヲ算定



シテ十四億四千萬「フランク」トナシ二億四千萬「フランク」ヲ徵收セリ  
 千八百七十六年レオン、セー氏ノ地租原簿ニ關セル立案ニ據レハ千七百九  
 十一年ニ算定セシ不動産ノ歲入ハ十四億四千萬「フランク」ニシテ之ニ課ス  
 ルニ地租正稅一割六分六六ヲ以テセリト諸ノ財政書中ニ見ルカ如ク二割  
 ヲ以テセス其二割ニ達セシハ地方稅トシテ課シタル副稅五「ス」ヲ加フル  
 ニ由ル

動產ニ於テハ六千萬「フランク」ノ收入ヲ得ン「ヲ」欲シテ頗ル縝密ナル動產稅  
 ノ法ヲ設置セリ上ニ擧クル所ノ二數ハ獨リ正稅ニシテ地方費ノ爲メニ副稅  
 ヲ加フル時ハ之ヲ增加スル者ト知ルヘシ動產ニ課スルニ僅カニ六千萬「フラ  
 ンク」ヲ以テシ土地ニ二億四千萬「フランク」ヲ以テセシハ土地カ舊政ノ下ニア  
 リテ負擔セシ所ノ租稅ヲ免ルヘキヲ以テ斯ノ如ク兩財產價格ノ比例ヲ定メ  
 シニ外ナラス

委員總會ハ以爲ク動產ノ歲入ニ租稅ヲ課スルハ家賃ノ多少ニ由ルニ如クハ  
 ナシ其言ヤ當レリト云ヘシ衆皆常ニ以爲ク下民カ家賃ニ費ス所ノ割合ハ富

民ヨリ大ナリト委員總會モ亦之ヲ以テ家賃ノ多少ニ應シテ歲入ノ價格ヲ推  
 定シ動產歲入ノ負擔ヲシテ不平均ナカラシメン「ヲ」計レリ其法タル百「フラ  
 ンク」ノ家賃ヲ拂フ者ハ其歲入之ニ倍スル者トシ百一「フランク」ヨリ五百「フラ  
 ンク」ニ至ル迄ノ家賃ハ之ニ三倍ノ歲入ヲ有スル「ヲ」表シ五百一「フランク」ヨ  
 リ千「フランク」ニ至ル迄ハ四倍ノ歲入ヲ有スル者トシ家賃ノ多キニ從テ歲入  
 ノ割合ヲ増シ一萬二千「フランク」以上ニ至リテハ非常ニ増加シ是等ノ家賃ヲ  
 拂フ者ハ其十二倍ノ歲入ヲ有スル者トセリ

八十五年前ニアリテハ家賃ト歲入ノ比例ハ果シテ如此クナリシヤ其精確ナ  
 ルヲ知ルヲ得スト雖方今ニ於テハ斯ノ如クナラス殊ニ巨大ノ家賃ト歲入ニ  
 於テ最モ其比例ヲ得ス該稅ハ家賃ノ大小ニ從テ稅率ヲ異ニシ其大ナル者ニ  
 多ク小ナル者ニ少ナキカ故ニ外形ニ於テハ累進稅ナリ然ルニ其意タルヤ比  
 例稅ニシテ上下ノ歲入ヲシテ悉ク負擔ヲ均フセシメント欲スルニアリ只其  
 階級ヲ定ムルニ當リテ家賃ト歲入ノ比例相適セスシテ最小最大ノ點ニ於テ  
 甚タ其當ヲ失ヒ家賃ノ小ナル者ハ歲入ノ割合小ニ過キ家賃ノ大ナル者ハ歲



入ノ割合大ニ過キタリ

委員總會ニ於テ定メタル動産税ハ三種ノ税ヲ以テ成レリ第一「コートダピタシオン」ト稱シ右ニ述フル所ノ方法ニ從ヒ家賃ニ基キテ推定セル歳入ニ課スル者第二窮民ノ外一般ノ國民ニ課スル所ノ勞力三日ノ價ニ均キ者第三僕婢ノ數ニ從テ課スル者私用馬ノ數ニ從テ課スル者はナリ

右ノ動産税ハ頗ル奇巧ナル者ニシテ專ラ動産ノ歳入ニ課センカ爲メニ已ニ地租ヲ拂ヒシ者ハ家賃ニ由テ推定セシ歳入ヨリ其土地ノ歳入ヲ減除セリ例ヘハ某甲アリ其居住セル家屋ノ家賃ニ由リ歳入額二萬フランク「ト定メ之ニ税スルニ當リ若シ某ハ已ニ一萬フランク」ノ歳入ニ地租ヲ拂ヒシ「ト明瞭ナレハ其額ヲ減シテ餘ノ一萬フランク」ニ「ミ動産税ヲ拂ヒ税額ハ歳入ノ二十分ノ一トナス

斯ノ如ク動産税ノ法ハ奇巧ナリシト雖其功ヲ全フスルヲ得サリシ者ハ他ナシ階級ヲ定ムルニ歳入ト家賃ノ比例當然ナラス徴收法ハ配賦法ニシテ不便ヲ免レス又騒亂ノ時ニ際シテ政府ノ基礎數々動キ執事者事ニ習練セサルニ

當リテハ少シク該法ノ纒密ニ過キタルニ由ル

爾後動産税ノ制ハ數々變シ遂ニ其初メ制定セル家賃ノ多少及ヒ他ノ証表ニ據リテ推定セル動産ノ歳入ニ課スル所ノ租税タル性質ヲ失フニ至レリ千七百九十一年始テ動産税ノ法ヲ定メ革命ノ第三年ニ至リ少シク改革ヲナシ僕婢税馬税ニ加フルニ烟筒税馬車税ヲ以テセリ然ルニ是等ノ驕奢税ハ收入甚々少ナク最大收入額實ニ二百フランクニ過キサリシ千八百六年四月二十四日ノ條例ヲ以テ是等ノ諸税ヲ廢シ獨リ分頭税(三日ノ勞力)及ヒ動産税(家賃税)ヲ存セリ

革命ノ亂ニ當リ右ノ分頭税家賃税ハ動産税ノ一部分ニシテ國民ノ歳入ヲ強剝スル者トナリ大ニ初年設置ノ意ニ背戻セリ

革命ノ第三年十一月七日ノ條例ヲ以テ分頭税ヲ増シテ五フランク「トナシ第五年十一月十四日後ハ累進法ノ分頭税トナシ三十「ス」ヨリ百二十「フランク」ニ昇降シ各邑ノ審査員其階級ヲ定ムル者トセリ然ルニ第六年十二月二十六日ノ條例ヲ以テ再ヒ三日ノ勞力ニ復シ一日勞力ノ價五十「サンチム」ヨリ少



ナカラス一「フランク」五十「サンチー」ヨリ多カラサル者トセリ  
 第五年十一月十四日ノ條例ハ分頭税ヲ以テ累進法トナシ動産税配賦ノ權ヲ  
 以テ一ニ各邑ノ審査員ニ委シ之ヲシテ各被税者カ負擔スヘキ額ヲ定メシメ  
 マリ故ニ各邑適宜ノ處分ヲナシ一定不動ノ基礎ナカリシ第七年四月三日ノ  
 條例ヲ以テ凡ソ分頭税動産税ヲ配賦スルハ各邑ノ負擔額ヨリ分頭税ノ收入  
 高ヲ減シ餘ヲ以テ動産税ニ課シ已ニ分頭税ヲ負擔セシ所ノ居民ノ家賃ニ應  
 シテ配課スヘキ者トセリ該制タル委員總會ノ制ニ反シ家賃ノ多少ニ從テ歲  
 入ヲ定ムル所ノ累進階級ヲ廢シ又被税者ノ歲入ヨリ地租ヲ負擔セシ部分ヲ  
 減除セス故ニ當年ノ家賃税ハ委員總會ニ於テ設置セシ家賃税ノ如ク專ラ動  
 産ノ歲入ニ税スル者ニアラサルナリ爾後佛國ノ動産税ハ第七年條例ノ遺意  
 ヲ存シ或ル場合ニ於テハ今日小家賃ノ税ヲ免除シ中家賃ノ負擔ヲ輕減スル  
 等ノ「ア」リト雖其大体ニ於テハ已ニ純然タル動産税ノ性質ヲ失ヘリ  
 是故ニ動産税ハ其初メ配賦法ニシテ其法タル頗ル不完全ノ制ト云フヘキナ  
 リ加フルニ配賦法ハ家賃税ニアリテハ其失蓋シ地租ニ於ケルヨリ甚シ如何

トナレハ家賃價格ノ動搖ハ土地ノ價格ヨリ甚シケレハナリ革命ノ時ニ當リ  
 テハ財政ノ改正急遽匆卒ニ出テ其配賦ヲナスヤ調査精密ナラス頗ル不平均  
 ノ患ヲ免レス之ヲ以テ千八百二十年ニ於テ諸州ニ於ケル配賦高ノ不平均甚  
 キ者ヲ改正セン「コ」ヲカメ同年七月二十三日ノ條例ヲ以テ全佛國居住家屋ノ  
 家賃價格ヲ修正シ諸州ノ負擔ヲ平均スルノミナラス郡邑負擔ノ輕重ヲシテ  
 大異同ナカラシメン「コ」ヲ計レリ

右ノ改正ヲ以テ大ニ配賦法ノ過失ヲ示メセリ當年ノ調査ニヨレハ五十二州  
 ハ負擔重キニ過キ三十四州ハ負擔輕フシテ僥倖ヲ得タルヲ證シ往々不平均  
 ノ甚キ者アリ其營業盛ナル地方ニ於テハ人口ト富ノ發達頗ル盛ニシテ家屋  
 ノ數大ニ増加セリ只ニ其數ヲ増加セシノミナラス其價格ノ増加ハ益々大ニ  
 リトス

デ、オック氏ハ佛國財政ノ形況ヲ論シ書中千八百五十六年ノ官報ニ就テ珍奇  
 ナル統計表ヲ掲ケタリ其第五表ヲ見ルヘシ該表ニ由レハ千八百五十六年ニ  
 於テ最貧ナル某々州ニ於ケル動産税ノ負擔ハ最富ナル某々州ノ負擔ニ倍ス



ルヲ見ルカンタル州ノ如キハ算定セラレタル家賃價格百六十一萬三千「フ  
 シク」ニシテ動産正税分頭税ヲ除キ十一萬三千「フランク」即チ七分ヲ拂ヒコレ  
 一州ハ家賃價格百六十九萬三千「フランク」ニ動産正税十萬「フランク」即チ六  
 分ヲ拂ヒロゼール州ハ家賃價格八十一萬九千「フランク」ニ動産正税四萬「フ  
 シク」即チ凡ソ五分ヲ拂ヒミューン州ハ家賃價格二百四十二萬八千「フ  
 シク」ニ動産正税十五萬七千「フランク」即チ殆ト七分ヲ拂ヒタールン、エガ  
 ローン州ハ家賃價格百九十五萬「フランク」ニ動産正税十六萬「フ  
 シク」即チ八分ヲ拂ヘ  
 リ之ニ反シテローン州ハ家賃價格千六百三十一萬八千「フ  
 シク」ニシテ動産正税分頭税ハ常ニ除クモノト知ルヘシ僅ニ五十六萬三千「  
 フランク」即チ三分  
 五ヲ拂ヒアールデン州ハ家賃價格五百四十一萬七千「フ  
 シク」ニ動産正税十  
 三萬五千「フ  
 シク」即チ二分五ヲ拂ヘリ全佛國ニ於テ當年ノ動産正税分頭税  
 ヲ除キノ收入高ハ二千二百七十八萬八千「フ  
 シク」ニシテ家賃價格ノ總額五  
 億千二百四十九萬四千「フ  
 シク」即チ平均四分四ノ徵收ナリ當時家賃價格ノ  
 算定高ハ遙カニ其實ニ達セサルヤ言ヲ待タヌ殊ニ人口繁殖セル諸州ヲ甚シ

トス例ヘハノルド州ノ家賃價格ノ如キハ稱シテ僅ニ千八百萬「フ  
 シク」トセ  
 リ是レ則チアールデン州ノ家賃價格同表ニ於テ三百十一萬三千「フ  
 シク」ト  
 セリノ六倍ニ過キサル者ト云ヘシ爾後營業ノ盛ナル地方ハ益發達シ山間地  
 方ハ衰フルヲ以テ配賦ノ不平均益甚キハ敢テ疑ヲ容レサルナリ  
 千八百二十年ノ調査ニ於テハ毫モ改正ヲ行フテ該税ノ不平均ヲ修正スルニ  
 至ラスシテ止メリ當時該税ヲ以テ取分法トナサンコトヲ論セシ者アリト雖之  
 ヲ行フノ難ニアラス之ヲ施コサント欲セハ人心ヲ動搖センコトヲ憚リ遂ニ行  
 ハスシテ止メリ千八百三十年ノ亂後專ラ該税ノ改正ヲ計リ分頭税動産税ヲ  
 分離シテ二ツトナシ分頭税ヲ以テ取分法トシ動産税ハ舊ニ依リテ配賦法ト  
 セリ蓋シ動産税モ亦遂ニ取分法トナサント欲セシヤ疑ヲ容レサル所ナリト  
 雖分頭税ヲ以テ取分法トナシ之カ爲メニ政府ノ收入ヲ増加シ怨言四方ニ起  
 リ議院ハ勇氣甚タ乏シク改革ヲ斷行シテ動産税ヲ以テ取分法トナス能ハサ  
 リシノミナラス改革ヲ中止シ千八百三十二年再ヒ分頭税ヲ配賦法ニ復シ分  
 頭動産ノ二税ヲ合セテ一トセリ同時ニ又負擔最モ重キ五十二州ノ徵收額三



百萬「フランク」ヲ減セリ

同年即チ千八百三十二年ニ於テ佛國ノ議院ハ二税ノ配賦ヲシテ輕重ナカラシメンコトヲ欲シ只ニ三百萬「フランク」ノ減税ヲナセシノミナラス尙左ノ法ヲ以テ諸州ノ配賦高ヲ増減セリ

千八百三十二年ノ條例ニ據レハ分頭動産二税ノ總配賦高ヲ三分シ一分ハ千八百三十一年分頭税ノ取分法タリシニ當リ收入セシ所ノ分頭税ノ收入高ニ應シテ各州ニ配賦シ一分ハ千八百三十年ノ動産税配賦高ニ從テ各州ニ配賦シ一分ハ政府ニ於テ調査セル居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ配賦スヘシトナセリ

斯ノ如ク稍々配賦高ノ不平均ヲ修正セリト雖政府ノ爲メニハ毫モ收入ヲ増加スルニ足ラス却テ三百萬「フランク」ヲ減セリ勿論議院ハ斯ノ如ク有名無實ニシテ且ツ國庫ニ利ナキ改革ヲ行フコトハ其意ニアラサルナリ千八百三十二年四月二十一日ノ條例第三十一條ヲ以テ千八百三十四年ノ國會開議ニ於テ之ヲ議シ爾後五ヶ年毎ニ分頭動産税配賦ノ新案ヲ議スヘシ直税局ノ吏員ハ

被稅者ノ數居住家屋家賃ノ額ニ關シテ調査報告ヲナスヘキ者トセリ

然ルニ千八百三十八年ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ配賦ノ新案ヲ討議シ爾後十年毎ニ之ヲ議スヘシトナシ本條ハ遂ニ之ヲ實行セサリキ千八百三十八年ノ條例ヲ見ルニ定期ノ改正ヲ廢セサリシト雖其期年ヲ伸張セシヲ見ルヘシ凡ソ政府タル者財政ノ改革ヲナスニ當リスノ如ク斷行ノ氣ニ乏シケレハ跌倒事ヲ破ルハ敢テ怪シムニ足ラス千八百四十一年配賦ノ改正ヲ行ハント欲シ調査ニ着手セルヤ人心頗ル動搖シ爲メニ政府ハ條例ヲ履行セスシテ空ク手ヲ束子タリ

千八百四十六年一月一日以後ハ家屋ヲ取毀ツ時ハ分頭動産ノ正税配賦高ヨリ其家屋カ負擔セシ額ヲ除キ新タニ家屋ヲ建ル時ハ其家賃價格ニ應シテ州ノ配賦高ヲ増加スヘシトナシ其増加額ハ居住ニ宛タル部分ノ家賃價格二十分ノ一トセリ佛國政府ハ此方法ニ由リテ間接ニ該税ノ負擔ヲ平均シ又多少屈伸力ヲ副ヘテ年毎ニ收入ヲ増加センコトヲ計レリ千八百四十四年八月九日ノ布達ヲ見ルニ云ヘルアリ曰ク方今某々州ノ負擔ハ該税率(五分)ニ超エ某々



州ハ該稅率ニ及ハヌ宜ク其割合ニ輕キ者ハ之ヲ増シ重キ者ハ之ヲ減シ全國  
 諸州ノ負擔ヲシテ遂ニ平均セシムヘシ云々  
 此言ヤ實ニ然リ然リト雖右ノ方法ニ由テ負擔ノ平均ヲ得セシメント欲セハ  
 五十年若クハ百年ヲ要セン實ニ該法ハ家屋ノ新築ニ由テ各州ノ配賦高ヲ加  
 減スルニ過キスシテ在來家屋ノ家賃價格ヲ變動スルモ毫モ其配賦高ヲ動搖  
 セサルヘシ然ハ則チ諸州ノ最モ繁榮ナル者ハ在來ノ家賃價格ヲ倍スヘキモ  
 其配賦高ヲ増加セス衰微セル諸州ノ家賃價格ハ減少スルモ其配賦高ヲ減セ  
 サルヘシ斯ノ如キ方法ニ由ル時ハ佛國ノ動產稅ヲシテ輕重偏依ナカラシム  
 ルニ至ルハ實ニ測ルヘカラサル歲月ヲ要スヘシ十年若クハ五年毎ニ定期ノ  
 改正ヲ廢シ或ハ取分法直稅ハ取分法ヲ措テ又他ニ良法アラシヤラ廢スルハ  
 是レ佛國ノ議院ハ不正ニ安ンシテ改ムルヲカメヌ又收入ノ増加ヲ計ラサル  
 者ト云フヘシ  
 右ニ述ル所ノ者ハ則チ動產稅條例輓近ノ景況ニシテ分頭動產稅配賦ノ諸州  
 ニ於ケル不平均甚シク尙地租配賦ノ輕重偏依アルカ如シ次テ諸郡邑各人一

個ノ間ニ於ケル配賦ハ如何ン講フ之ヲ講究セン

先ツ諸郡ノ間ニ於ケル配賦諸邑ノ間ニ於ケル配賦ノ方法ヲ見ルニ又大不平  
 均ヲ起スヤ實ニ故アリ諸郡邑ニ配賦ヲナスヤ各州ノ直稅局長ハ毎年各郡各  
 邑ノ分頭稅被稅者ノ數及ヒ居住家屋ノ家賃價格ノ額ヲ調査シ表ヲ製スヘキ  
 者トス州會郡會ハ其表ニ據リテ該稅ヲ配賦ス其次第左ノ如シ  
 州會ハ先ツ各被稅者カ負擔スヘキ分頭稅ニ於テ勞力一日ノ價ヲ定ム其勞力  
 一日ノ價ハ五十「サンチム」ヨリ少ナカラス一「フランク」五十「サンチム」ヨリ  
 多カラサル者ニシテ州會ハ之ヲ定ムル時ハ其三日分ヲ乘シテ惣收入高ヲ算  
 シ然ル後分頭動產稅ノ配賦惣高ヨリ之ヲ減シテ殘餘ヲ以テ家賃價格ニ比例  
 シテ動產ニ課ス  
 右ノ法タル不便モ亦甚シト云ヘシ實ニ州會ハ一「フランク」五十「サンチム」ト  
 五十「サンチム」ノ間ヲ出サレハ動產稅ヲ増加スルハ只其欲スル所ニアリ故  
 ニ州會ハ下民ノ負擔ヲ輕フセント欲スルカ若クハ中民以上ノ負擔ヲ輕フセ  
 ント欲スレハ分頭動產稅ノ割合ヲ以テ或ハ甲ニ重フシ或ハ乙ニ重フスルヲ



得ヘシ

千八百五十六年諸州ニ於ケル直税ノ配賦ヲ示セルデオツク氏ノ表ヲ熟閱セ  
 ハ右ノ割合ニ於テ諸州ノ間大不同アルヲ見ルヘシ佛國ニ於テ最貧ナル一州  
 オートアルプ州ニ於テ分頭税ヲ課スルニ一日勞力ノ價ハ最富ナル一州ユ  
 ル州ニ於ケルヨリ大ナリオートアルプ州ニ於テハ被税者ノ數二萬八千六百  
 人ニシテ分頭税六萬四千四百フランクヲ拂ヘリ即チ一人ニ付二フランク十五  
 「サンチーム」ニ當ルユール州ニ於テハ被税者ノ數十萬二千五百人ニシテ分頭  
 税十七萬五千百フランクヲ拂ヘリ即チ一人ニ付一フランク七十「サンチーム」  
 ニ當ル然リト雖ユール州ノ勞銀ハオートアルプ州ノ勞銀ニ倍シタルヤ敢テ  
 疑ヲ容レサルナリオートアルプ州ニ於テハ勞力三日ノ價ヲ以テ二フランク  
 十五「サンチーム」トナシタルヲ以テ殆ト動産税ヲ廢止スルニ至レリ實ニ該州  
 ノ正税配賦高ヨリ分頭税ヲ以テ收入スル所ノ高ヲ減スル時ハ動産税ニ配賦  
 スヘキハ被税者二萬三千三百人家賃價格八十二萬三千フランクニ對シテ二  
 萬三千八百フランクニ過キス即チ動産正税ノ徵收平均一人ニ付僅ニ一フラ

ンクニ過キス家賃價格ノ三分ニ及ハサル者ニシテ全國ノ平均率ニ及ハサル  
 一遠シ尙オートマールン州ノ形況ハ一層著シキ者ニシテ州會カ一日勞力ノ  
 價ヲ定ムル多少ニ由リテ能ク州ノ配賦高ヲシテ悉ク分頭税ニ負擔セシメ殆  
 ト動産税ヲ廢スルニ至ル者アルヲ見ンデ、オツク氏ノ表ニ據レハ千八百五十  
 六年オートマールン州ニ於テ分頭税ヲ拂ヒシ者七萬三千五百人ニシテ其惣  
 收入高二十二萬五百フランクニ達セリ即チ三日勞力ノ價ヲ以テ三フランク  
 トナセシ者ニシテ其富ハユール州ニ及ハサル一遠シト雖其徵課ハ遙カニユ  
 ールニ於ルヨリ大ナリ當年オートマールン州ノ分頭動産税配賦ノ全額ハ二  
 十七萬二千四百フランクナリシヲ以テ分頭税ノ徵收高二十二萬五百フラン  
 クヲ減スレハ動産税ニ於テ徵收スヘキハ僅カニ五萬千九百フランクニシテ  
 家賃ノ算定價格四百十四萬四千二百フランクニ對シテ一分二五ニ過キサル  
 者ナリ豈當然ト稱スルヲ得ンヤオートマールン州會ハ負擔ヲ分頭税ノ一  
 方ニ歸シ被税者ヲシテ殆ト動産正税ヲ免レシメタル者ト云ヘシ  
 斯ノ如ク甚シキ實例ハ又他ニ見サル所ナリ然ルニ諸州會ニ於テ分頭動産税



ノ配賦高三分ノ二ヲ以テ分頭税ニ負擔セシメシ者少ナカラスヨ一州ノ如キ正税ノ配賦高三十八萬五千七百「フランク」ニシテ其二十二萬六千五百「フランク」ヲ以テ分頭税ニ配賦セリ即チ一人ニ付二「フランク」二十五「サンチム」ニ當ル其動産税ニ配賦セシハ僅ニ十五萬九千二百「フランク」ニシテ家賃ノ算定價格五百三十七萬四千「フランク」ニ對シテハ三分ニ達セサル者トス當時ノ平均税率四分四ナリシヲ以テ之ヲ見レハ遙カニ之ニ及ハサリシヲ見ルヘシ又「ワーズ州」ノ如キハ分頭動産正税ノ配賦高四十八萬百「フランク」ニシテ其殆ト半額即チ二十三萬七千三百「フランク」ヲ以テ分頭税ニ配賦セリ被税者ノ數ハ十萬五千六百人ナリシヲ以テ一人ニ付凡ソ二「フランク」二十五「サンチム」ニ當ル故ニ動産税ノ負擔トナセシハ二十四萬二千八百「フランク」ニシテ家賃ノ算定價格八百五十八萬千「フランク」ニ對シテハ僅カニ二分八四ニ過キス由是觀之ハ一日勞力ノ價ヲ定ムルノ權ヲ以テ州會ニ委任セシカ爲メニ益不平均ヲ生スルヲ知ルヘシ最後ノ配賦即チ諸邑ニ於テ各人一個ニ配賦スルハ窮民ヲ除キ其邑民ノ姓名并ニ居住家屋ノ家賃價格ヲ記載セル租税徵收原簿

ニ據リテ之ヲナス右ノ原簿ハ租税配賦吏員ト直税局ノ「コントローラ」ノ手ニ成リテ府會ニ出タシ府會ハ其税ヲ除スヘキ者又特ニ分頭税ノミヲ課スヘキ者ヲ指示決定ス邑ハ其原簿ニ從ヒ先ツ配賦高ヲ以テ分頭税ノ被税者ニ配賦シ然ル後其餘額ヲ以テ居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ之ヲ課ス居民ノ死去移居家賃ノ増減ニ從ヒ毎年原簿ノ修正ヲ行フ者トス市府ノ入市税ヲ課スル者ハ分頭動産税ノ關スル所殊ニ大ナリ分頭動産税ノ配賦高ハ府會ヨリ府知事ニ請求スル時ハ府庫ヨリ其全額若クハ一部ヲ拂フ者トス府會ハ其配賦高ノ幾分ヲ以テ入市税ノ收入ニ取ルヤヲ決シ其餘ハ專ラ動産税ニ課スヘクシテ入市税ヲ行フ所ノ市府ノ居民ハ悉ク分頭税ヲ免ル其動産税ニ課スル者ハ居住家屋ノ家賃ニ比例ス近年ニ至ルマテ動産税ハ府會ノ意見ニ由リ小家賃ノ負擔ヲ輕減シ或ハ免除シタル後又等級ヲ定メ外形ノ累進法ヲ以テ大家賃ノ税率ヲシテ小家賃中家賃ヨリ重カラシムルモ可ナリトセリ凡ソ該税ニ關シ府會ニ於テ討議セシ事件ハ悉ク政府ノ認可ヲ得テ舉行スル者トス



此法ヤ利害得失相半ハスル者ト云ヘシ或ハ以爲ク入市税ヲ課スル所ノ市府ニ於テハ下民等ハ消費税ヲ負擔スルヲ割合ニ重シ故ニ分頭税動産税ヲ除シテ償補セシムルノ外他ナシ是レ一理アル者ナリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該税ノ免除法ヲ止メ葡萄酒税ノ如キ下民ノ爲メニ最モ有害ナル入市税ヲ廢棄スルカ若クハ大ニ之ヲ減スルノ良キニ如カサルヘシ

税率ニ於テ累進ノ形ヲ用フルニ至リテハ余輩モ或ル場合ニ於テハ家賃税ニ行フノ可ナルヲ説ケリ然ルニ之ヲ行フハ階級ノ數ヲ少フシ三四級ヨリ多カルヘカラス又税率ヲシテ相當ノ比例例ヘハ家賃價格ノ一割五分ヲ超エシムヘカラス然ラサレハ富民ヲシテ其重キニ堪エサラシムルニ至ラン如何トナレハ富民カ家賃ニ費ス所ノ歳入ノ部分ハ往々中等ノ民ヨリ割合ニ大ナルヲ以テナリ

千八百七十六年七月參事院ノ判決ヲ以テ巴里府ニ於テ動産税ニ累進ノ形ヲ用ヒシハ非法ナル者トセリ其故ハ巴里府ニ一人アリ其居室ノ家賃價格ノ一割〇分七五ヲ課セラル某ハ之ヲ憤リ其不正ヲ訴タヘタリ此ニ於テ參事院ハ

之ヲ判決シ千八百三十二年ノ條例ニ於テ府會ニ許スニ小家賃ニ該税ヲ免除シ中家賃ニ輕減ヲ行フヲ以テセリト雖之ヲ以テ大家賃ノ負擔額ヲ増加スルヲ許セシニアラストセリ其言ニ曰ク家賃ノ種類如何ヲ問ハス純然タル分頭税ヲ減シタル殘餘ノ配賦高ヲ以テ一切ノ被稅者即チ府會カ該税ヲ免除シ若クハ輕減セント欲セシ者ヲ合セテ居室ノ家賃價格ニ比例シテ配賦シ來リシ者ハ從來ノ負擔ヲ増加スヘカラスト

是故ニ府會ハ動産税ヲ以テ小家賃ニ課セス中家賃ニ輕フセント欲セハ入市税ヲ増加スルヲ得ヘシト雖到底大家賃ノ負擔ヲシテ比例外ニ増加スルヲ得サル者ナリ

家賃税ニ累進ノ形ヲ設ルハ却テ平均ヲ得セシムル者タルハ已ニ論スル所ノ如シ

之ヲ約言スレハ家賃税ハ佛國現税ノ最良ナル者ニ位スヘシ惜イカナ其徵收法ニ於テ甚々宜キヲ得ヌ又之ヲ稱シテ動産税ト云フハ當然ヲ得サル者トス如何トナレハ方今ハ昔日ノ如ク專ラ動産若クハ勞銀ニ課スルニ止マラス家



賃ニ基キテ一切ノ歳入ニ課スルヲ以テナリ  
 分頭稅家賃稅ノ如ク其性質相異ナル者ヲ合シテ一トナスハ不便最モ甚シ殊  
 ニ取分法ニアラスシテ配賦法ナル時ハ益宜キヲ得ス而ルヲ况ヤ州會ニ委ス  
 ルニ臆測ヲ以テ分頭稅トシテ三日勞力ノ價ヲ專決スルノ權ヲ以テスルヲヤ  
 又動產稅ノ大過タル配賦法ニアリ元來該稅ヲ配賦スル所ノ原額ハ古來ノ算  
 定ニ據ル者ニシテ一定ノ法ニ從ハス故ニ大不公平ヲ免レス其收入モ亦民富  
 ノ發達ニ伴ナハス假令ヒ少ク之アルモ僅々タルモノニ過キス諸州ノ配賦ヲ  
 定ムルニ當リテハ新築家屋ヲ加ヘ破壊家屋ヲ減スト雖到底不完全ノ算ト云  
 ヘシ如何トナレハ舊家屋ト雖大ニ價格ヲ變スヘケレハナリ故ニ該稅ヲ改正  
 シテ收入ヲ増加スルハ取分法トナスニ如クハナシ然ラハ則チ大ニ政府ノ歳  
 入ヲ増加シ入市稅ヲ廢スルヲ得ヘキナリ

租稅論

第八篇

工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得稅 佛國營業稅 取引高稅 動產稅

租稅ノ良制ヲ設クルニ當リテ至難ナル者ハ工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所  
 得ニ課スルニ正平ナル租稅ヲ以テスルニ是ナリ此ニ於テ至正至平ノ法ヲ求  
 ムルハ尙殆ト能クスヘキニアラサルカ如シ夫レ土地ハ其純歲入若クハ賣買  
 價格ヲ精算シテ租稅ヲ課スヘク又動產即チ大會社ノ株式負債証書手形類ニ  
 稅スヘク最後ニ論述セシカ如ク動產稅モ亦大不便ヲ免レスト雖之ヲ課セン  
 ト欲スル所ノ立法官之ヲ施行スル所ノ行政官ハ之ヲ賦課シ之ヲ徵收スルニ  
 當リテ未タ甚シキ障礙ニ會セス然ルニ製造家商賈及ヒ高尙ナル職業者ノ所  
 得ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ其所得ハ常ニ變動甚シク之ヲ調査セント欲セ  
 ハ人心大ニ之ヲ厭フ之ヲ以テ通例推定若クハ外標ニ據リテ之ニ課スト雖只  
 ニ實際ニ近キ所得ヲ見ルニ過キスシテ或ル場合ニ於テハ往々實ニ反スルノ  
 患ヲ免レサルナリ



故ニ今之ヲ論スルニ當リテ先ツ工業商業高尙ナル職業ノ營業稅若クハ所得稅ヲ課スルハ果シテ當然ナルヤ將タ要用ナルヤヲ決セサルヘカラス國ニ歲入稅ノ法アリテ一切ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ是等ノ營業者ニ稅スルハ當然ナルヘシ夫レ國ニ歲入稅ノ法アレハ工業商業ノ歲入獨リ租稅ヲ免ルノ理ナシ只是等ノ如キハ一生ノ歲入ニシテ且ツ變動アル者タルヲ以テ資本ノ利子トシテ得ル所ノ永世一定ノ歲入ニ比スレハ寬恕ノ處分ヲ受クヘキ者トス然ルニ佛國ノ如キ一般ノ歲入稅トシテ課スル所ノ租稅ナケレハ特ニ工業商業及ヒ高尙ナル職業ノ所得ニノミ租稅ヲ課スルノ理ナシ之ヲ課スル者ハ一ニ政府ノ歲入ヲ得ント欲スルニ過キサル者ナリ元來佛國ニ於テハ農業ノ所得ニ稅セズ地租アリト雖地租ハ只ニ地代ニ課スルニ過キス又不動産書入若クハ無抵當ニテ貸附タル資本ニ至リテハ租稅ヲ課スル限リニアラス尤モ數十年來動產稅ノ法アリト雖一切ノ動產若クハ動產ノ歲入ニ稅スル所ノ者ニアラス現ニ中央政府ノ公債証書ハ被稅ノ限リニアラス又不動産書入質貸附証書并ニ無抵當貸附証書等概シテ之ヲ言ヘハ賣買スル能ハサル一切ノ証書

若クハ差金會社株式ノ一部モ均シク該稅ノ及ブ所ニアラス此狀情ヨリシテ之ヲ見レハ工業商業職業ニ稅スルハ勞働進取ノ資本家ヲ苦シメ逸居シテ動產稅ノ及ハサル証書ヲ有スル資本家ヲ惠ムノ效驗アリ然ラハ則チ懶民ハ却テ特利ヲ有スル者ト云ハサルヲ得ス是等ノ遊食ノ資本家カ家賃稅ヲ拂フニ至リテハ又言フヘキ者ナシ如何トナレハ製造家商賈高尙ナル職業者モ亦均ク之ヲ拂フヲ以テナリ只是等ノ營業者ハ懶民カ往々拂ハサル所ノ租稅ヲ拂フノミ佛國ニ於テ動產條例發行以來ハ懶民ノ拂フ所ノ者ヲ增セリ豈ニ大不公平ト云ハサルヘケンヤ然ルニ凡ソ各國皆殆ト之ヲ行ハサルナク何レノ國ニ於テモ工業商業職業ノ所得ハ政府ノ注目スル所トナルト他ノ歲入ニ於ケルヨリ甚シ諸國ニ於テ是等ノ稅ヲ以テ一般ノ歲入稅ト相混シ歲入稅ノ一部類トナス者少ナカラス英國ノ如キハ該分類ヲ稱シテシエヂユールト云フ然ルニ歲入稅ヲ以テ已ニ商工ノ利益ニ課シ又別ニ租稅ヲ置キ數種ノ名稱ヲ以テ職業營業ニ複課スル者少ナカラス



其一般ノ歳入税ニ關スル者ハ今茲ニ論セス只此篇ニ於テハ專ラ營業免許税營業税取引高ノ税及ヒ動産税ヲ論究セントス  
 營業税ノ最モ發達セシ者ヲ佛國トナス古來佛國ニ於テ賣買取引ノ冥加トシテ各商賈ヲシテ一定ノ租額ヲ納メシムルノ習アリ中世ニ於テ頗ル盛ニ行ハレタリ之ヲ以テ世自カラ政府ノ歳入ヲ得ル一良法ナリト信スルニ至レリ然ルニ此事タル只佛國ニ於テセシ者ニシテ近來該税ノ法ヲ整理シ一切ノ營業ニ及ホセリ其及ハサル者ハ只ニ不精巧勞力者ニ過キス  
 佛國ノ營業税ハ隣國ニ於テ諸營業ニ課スル所ノ「ライセンスト」稱スル者ト相比スルヲ得ヘシ佛國ニ於テ其生産品ニ消費税ヲ負ヒ政府官吏ノ檢査ヲ受クル所ノ營業ハ一般ノ商賈ト均ク營業税ヲ負ヒ又營業免許税ヲ拂フ營業免許税ハ僅々タル一定ノ額ニシテ取引ノ高ニ比例スルヲカメヌ同業ヲ營ム者ハ同額ノ税ヲ課ス故ニ該税ハ税吏ノ檢査ヲ要スル所ノ製造家ヲ確知スルカ爲メニシテ巨額ノ收入ヲ得ヘキ者ニアラス  
 佛國ノ營業免許税ノ法ハ營業者自ラ其實買スル所ノ酒ノ種類ヲ申告シ成規

ノ代價ヲ納レテ免許ヲ得ヘキ者トス卸賣營業蒸酒製造業ハ皆同額ヲ納メ麥酒釀造ノ免許料ハ州ニ據リテ之ヲ異ニシ小賣營業ハ邑ニ據リテ之ヲ異ニス然ルニ利益ノ大小ニ比例スルヲカメヌ何レモ皆輕小ニシテ附屬税タルニ過キス骨牌製造砂糖及ヒ「グルコース」製造「シコリ」製造紙製造モ亦該税ヲ課ス左ニ舉クル所ノ税率ハ佛普戰爭後ニ増加セシ所ノ正税々率ナリ  
 人口四千以上ノ邑ニ於ケル酒類小賣營業 一「二」フランク  
 全至四千 邑ニ於ケル全 一六「一」フランク  
 全至六千 邑ニ於ケル全 二〇「一」フランク  
 全至一萬 邑ニ於ケル全 二四「一」フランク  
 全至一萬五千 邑ニ於ケル全 二八「一」フランク  
 全至二萬 邑ニ於ケル全 三二「一」フランク  
 全至三萬 邑ニ於ケル全 三六「一」フランク  
 全至五萬 邑ニ於ケル全 四〇「一」フランク  
 全五萬以上ノ邑ニ於ケル全「巴里府ヲ除キ」 一〇〇「一」フランク  
 某州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業 一〇〇「一」フランク



他州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業

各地ノ蒸酒蒸餾營業

酒類卸賣商

骨牌製造家

砂糖及ヒ「グルー」コース製造家

「シコリ」製造家

紙製造家

六〇「フランク」

二〇「フランク」

一〇〇「フランク」

一〇〇「フランク」

一〇〇「フランク」

二〇「フランク」

五〇「フランク」

右ノ稅率ハ皆輕シ酒類小賣營業ニ至リテハ佛國ニ於テハ元來其小賣店ノ數ヲ限ルヲ以テ其營業免許稅ハ政府ノ特許ニ對シテ拂フ所ノ代價ト見做スヘク不當ノ稅ト云ヘカラス都テ右ノ租稅ハ甚々輕フシテ之ヲ拂フ所ノ工業商業ヲ害スルニ足ラサルヘシ是等ノ稅ヲ以テ政府ニ收入スル所ハ每年僅カニ九百萬乃至一千萬「フランク」ニ過キサル者ナリ

英國ノ營業免許稅ハ大ニ之ニ反シテ其區域甚々廣ク殆ト佛國ノ營業稅ト相去ルヲ遠カラス收入モ亦頗ル大ニシテ殆ト佛國中央政府ノ營業稅收入高ニ

均シ又該稅ハ常ニ一定ノ額ヲ課スルニアラス數々生産ノ多少ニ應シテ階ヲ立ル者トス千八百七十三年ノ收入高ハ殆ト一億「フランク」ニ達セリ(三百九十一萬二千四百八「ポンド」)千八百五十七年ヨリ千八百七十三年ニ至ル英國ノ統計年表第九葉ヲ見ルヘシ)千八百五十八年ノ收入高凡ツ三千六百萬「フランク」(百四十二萬四千六百六十三「ポンド」)ナリシヲ以テ之ヲ見レハ該稅收入ノ増加ハ甚々速カナリト云ヘシ元來英國ニ於テ内地ノ間稅ヲ課セシ所ノ物品製造家ニ課スルニ營業免許稅ヲ以テスルコトハ女王アンノ時ニ始マリ爾後漸次ニ擴張セシ者ナリ已ニ紙製造石鹼製造ノ如キ營業ハ舊時ノ内地間稅ヲ廢セリト雖某營業ハ尙該稅ヲ拂フ者アリ又公益ノ爲メニ政府ノ統轄ヲ要スヘシト見做ス所ノ職業ヲ營ナム者ハ營業免許ヲ受クヘキ者トセリ故ニ方今英國ニ於テ營業免許稅ヲ拂フ者ハ只ニ酒類製造者若クハ賣買商ニ止マラス紙製造家石鹼製造家烟草製造家調藥師競賣商家屋仲買骨牌製造家金銀器賣商等頗ル多シ佛國ニ於テ印稅ヲ課スル者ニ英國ニテハ營業免許稅ヲ以テ之ニ代フル者アリ例ヘハ銀行家代言人獵夫ノ如キ是ナリ小禽獸肉商畜犬主モ亦該稅ヲ



拂フ者トス右ノ諸目ヲ合セテ千八百七十三年ニハ凡ソ一億「フランク」ノ收入ヲ得タリ又該稅ヲ負擔セシ人員ハ千八百六十九年ニ於テ二百五萬六千七百三十四人アリ然ルニ其百六萬八千二百二十一人ハ只ニ犬ヲ所有セシ者ニシテ五萬七千人ハ獵ノ爲メニ之ヲ拂ヒシ者ナリ(千八百七十年内地租稅取調委員ノ報告第一卷百五十葉ヲ見ルヘシ)然ラハ則チ佛國ノ免許稅ト相對スヘキ所ノ免許稅ヲ負擔セシ者ハ九十萬人餘ニ過キサルヘシ

英國ノ免許稅ハ左ノ三法ニ據ル者トス一ハ多少商業若クハ工業ノ大小ニ比例スル一ハ其場處ノ美惡ニ比例スル一ハ確定同一ノ稅率ヲ課スル一是ナリ由是觀之ハ英國ノ免許稅ハ大ニ佛國ノ免許稅ト異ニシテ寧ロ佛國ノ營業稅ニ相類スト云フヘシ

佛國ノ營業稅ハ一切ノ工業商業ニ課シ高尙ナル職業モ殆ト皆之ヲ課スル者ニシテ實ニ革命ノ時ニ始ル千七百九十一年三月ノ條例ヲ以テ都テ職業ノ特權ヲ廢シ從テ從前組合仲間ニ入社スル時ニ拂シ所ノ冥加金モ亦廢セラル此ニ於テ政府ハ令ヲ下タシ誰何ヲ問ハス其好ム所ニ從テ職業ヲ營ムヲ得ヘシ

然レトモ各々營業ノ免許ヲ得成規ノ稅額ヲ納メ警察規則ヲ遵守スヘシトセリ故ニ該稅ハ政府カ人民ニ營業ノ自由ヲ附與セシ爲メノ報酬トモ稱スヘキモノナリ右ノ營業稅ハ其初メ徵課法頗ル簡易ニシテ被稅者ノ居住家屋商店荷物藏製造處ノ家賃價格ニ比例セシ者ナリ故ニ動產稅ト重複ノ租稅ニシテ千七百九十三年三月二十七日ノ條例ニ由テ營業稅ヲ廢セシハ固ヨリ當然ノ事ナリ革命政府ノ第三年ニ至リ再ヒ某營業ニ租稅ヲ課セシハ財政ノ困難ニ際シ止ヲ得サルニ出シ者ニシテ理ノ當否ヲ問フニ暇マナカリシモノトス然ルニ一度ヒ之ヲ復スルニ及テハ忽チ延テ諸營業ニ及ヒ數次ノ變遷ヲ經テ稅法益纒密トナレリ方今ノ諸稅ニ於テ斯ノ如ク少時間ニ巨數ノ改變ヲ經過セシト恐クハ該稅ノ如キ者ナカルヘシ今日營業稅ノ賦課未タ完全ナラス諸營業ノ負擔不平均ヲ免レス或ハ不滿ヲ唱フル者ナキニアラスト雖被稅者ハ之カ爲メニ憤懣ヲ發スルカ如キニ至ラス千八百七十五年ノ豫算表ニ據レハ佛國ノ營業稅ハ中央政府ノ收入高一億一千四百萬「フランク」地方政府ノ收入高五千四百五十萬「フランク」ニシテ通計一億六千八百萬「フランク」トス此額タル



地租ノ全收入高ノ半ニ超エ分頭動産税ノ全收入高ニ超ユルヲ五割ナルヲ以テ之ヲ見レハ巨額ノ收入ト云ハサルヘカラス元來佛國ノ直税ニ於テ取分法ヲ行フハ特ニ營業税ノ外他ナシ該稅收入高ノ増加大ヒナル所以ノ者ハ稅率ノ改正稅目ノ増加ニ由ルト雖又其取分法タルニ由ル

千七百九十一年佛國ニ於テ免許營業者ノ數ハ六十五萬九千七百十二人ニシテ營業税ノ收入高ハ二千萬「フランク」ニ及ハサリシ千八百二十二年ニハ免許營業者九十五萬五千人トナリ營業正税ノ收入高ハ千九百七十八萬二千五百二十四「フランク」ニ止ル千八百二十九年ニハ免許營業者ノ數増加シテ百十萬千百九十八トナリ該正税ノ收入二千萬「フランク」ニ及ヘリ右ノ數ヲ以テ之ヲ見レハ千七百九十一年以後該稅ノ收入高ハ殆ト高低ナシト雖被稅者ノ數ハ八割ノ増加アリ余輩ハ今「ヴィギユ」氏ノ表ヲ假リ合セテ政府ノ文書ニ據リ近年ノ數ヲ加ヘテ被稅物ノ數及ヒ營業正税ノ收入高ヲ示メサン表中被稅物ノ數ハ免許營業者ニ比スレハ多キ者ハ一人ニシテ數邑ニ營業處ヲ有スル者アルヲ以テナリ

年代

被稅物ノ數

千八百三十年	一、一六三、二五五
千八百四十年	一、三七五、九一九
千八百四十四年	一、五一一、一〇四
千八百四十五年	一、三五二、九三〇
千八百五十年	一、四三七、四三七
千八百六十年	一、六七八、三七七
千八百六十八年	一、七六四、八三五
千八百七十二年	一、五九一、〇六二

マチユー、ポター、氏ノ營業稅改正報告ニ據ル

千八百七十二年ニ至リテ數ヲ減セシハ重ニアルサラスロレーン二州ヲ失ヒシニ由ル

年代

營業正稅收入高

千八百三十三年

二一、三一四、七七〇「フランク」



千八百三十七年  
 千八百四十二年  
 千八百五十年  
 千八百六十年  
 千八百六十九年  
 千八百七十五年

二八、九九二、六五八「フランク」  
 三四、一二八、六四八「フランク」  
 三五、六一二、八七一「フランク」  
 五二、七二〇、〇〇〇「フランク」  
 六一、五七二、八九四「フランク」  
 七〇、五六四、〇〇〇「フランク」

同年正税及ヒ中央政府ノ副税ヲ合セテ(地方政府ノ副税收入高ヲ除ク)

一一四、七四三、〇〇〇「フランク」

斯ノ如ク僅カニ數年ノ間ニ營業正税ノ増加著シク千八百三十三年以來四十二年ニシテ其收入高殆ト三倍シ千八百五十年以後即チ二十五年ニシテ殆ト之ヲ倍セリ若シ正税并ニ通常副税臨時副税ノ中央政府ニ收入セシ分ヲ合算セハ千八百六十年以來即チ十五年ニシテ一倍ニ達セシヲ見ルヘシ然ルニ臨時ノ副税ハ以テ該税自然ノ發達ヲ示メヌニ足ラサルカ故ニ之ヲ間ハスト雖該税ハ大ニ税率ヲ變動セスシテ毎年收入ヲ増加スルノ傾向頗ル著明ナリ如

何トナレハ該税ハ取分法ニシテ工商ノ發達ニ伴フテ増加シ且ツ被税者ヲシテ租税ヲ免レ或ハ奸策ヲ以テ負擔ノ一部ヲ避ルヲ得セシメサレハナリ佛國營業税ノ改正論ハ常ニ輿論ノ問題ニシテ未タ人心ヲ満足セシムルノ舉ナシト雖其日ヲ見ルハ遠キニアラサルヘシ今該税組織ノ要領ヲ知ント欲セハ千八百七十三年ニ當リテマチユー、ポテー、氏ノ有名ナル奏議現今ニ至ルマテ未タ舉行セラレスニ付テ余輩カ佛國經濟雜誌ニ掲載セシ所ノ論文ヲ舉ルニ如ク者ナカルヘシ請フ其文ヲ假リテ茲ニ之ヲ再述セン

工業商業ノ利益ニ課スルニ平等ナル租税ヲ以テセントスルハ頗ル困難ナル論題トナス此ニ只三條ノ方法ヲ以テ撰フヘキアルノミ第一政府カ營業者ノ書類帳簿ヲ點檢シテ營業ニ干涉スルヲ第二信ヲ被税者ノ誓詞ニ置キ其申告ニ據ルヲ第三多少緩漫ナル外標ニ據リ各人一個ノ利益ヲ問ハスシテ營業ノ種類ニ由リ各其利益ヲ概算シテ租税ヲ課スルヲ是ナリ右三條ノ法タル各々短處アリ以テ完全ト稱スルヲ得ス元來佛國ノ如キ民治ノ社會ニシテ禍亂數々起リ各世間ノ羨望ヲ招クヲ恐ル、時ハ政府若ク



ハ官吏カ少シナリトモ一個ノ私事ニ立入ルヲ欲セス若シ政府ヲシテ人民ノ私室ニ一步ヲ入ルヲ許サハ政府カ十歩ヲ進マンヲ恐ル之ヲ以テ國民ハ力ヲ盡シテ常ニ政府カ干涉統轄ノ區域ヲ限リ後害ヲ未萌ニ防ンヲ欲シ其初ニ於テ抗スト云フ格言ハ深ク佛國人民ノ意ヲ得タリ故ニ取引高ノ税ノ議起ル毎ニ其主トスル處ハ只ニ營業者ノ賣上帳ヲ以テ政府ニ示メスニ過キスシテ其一事ハ非常ノ弊事ニアラサリシト雖佛國人民ハ是ヨリシテ他ノ干涉從テ生センヲ恐レタリ

第二法ナル被稅者ノ申告ニ據ルハ頗ル抗議ヲ免レス凡ソ人間社會トシテ悉ク正人君子ヲ以テ成ル者ナシ故ニ申告ノ制タル大ニ奸詐ヲ獎誘スルニ至ン或ハ云ン稅吏ノ注意ノ至レル檢閲ノ巧ミナル以テ此不便ヲ避クルヲ得ヘシト然ルニ此ニ至レハ又第一條ノ弊ニ歸セン斯ノ如ク國人ノ不信ヲ疑フヲ止メテ不忠ナル者ハ度外ナリト見做スモ申告ノ制ニ據ル時ハ或ハ不忠蔽匿ヲ以テ正人君子ヲ疑フノ不便ヲ免レス

然リト雖余輩ハ前二條ノ制度ニ於テハ他ニ便益ノ以テ是等ノ不便ヲ償補

スルモノナシト云フニアラス不幸ニシテ佛國ニ於テハ方今ニ至ル迄便益少ナク不便多キヲ如何セン由是觀之ハ今日ノ勢ニアリテハ推定法即チ外標ニ據リテ營業者ノ所得ヲ推定シ被稅者實際ノ所得ヲ問ハスシテ租稅ヲ課スルニ如ク者ナカルヘシ該法タル其性質ニ於テ完美ナラス故ニ之ヲ修正シテ良善ナラシムヘキモ到底至良至善ナラシムルヲ得ス該法ノ一大短處タル營業者每個ノ利益ヲ知ル能ハサルニアリ如何トナレハ該法ノ主トスル處ハ營業ノ景況ニ由リ各種ノ營業カ得ヘキ所ノ利益ヲ想像シテ平均高ヲ定ムルニアレハナリ是故ニ該法ニ據レハ如何ニ改良ヲ計ルモ只甲業ヲ惠ミテ乙業ヲ苦メサルニ止マリ各人一個ノ間ニ於テハ到底無數ノ不平均ヲ免レサルヘシ

マチユー、ボデー氏ハ其報告書ニ於テ營業稅制度ノ改進ヲ述ルハ頗ル明瞭ナリ千七百九十一年ヨリ千八百七十二年ニ至ル迄佛國政府ハ該稅ヲシテ益被稅者ノ所得ニ比例セシメンヲ力メ種々ノ改正ヲ行ヘリ然ルニ此事タル改正ヲナス毎ニ改良シテ不平均ヲ減スルヲ得ヘキモ徹頭徹尾至正至



平ナルヲ得ヘキモノニアラス尙雜卵ノ方形ナランヲ望ムカ如シ政府カ改良ヲ企ル毎ニ法制益縝密トナリ區別益細密ニ涉リ只ニ該稅不平均ノ甚キヲ除クニ過キス

佛國ノ營業稅ハ實ニ千七百九十一年三月二日ノ條例ニ始マル當時營業ノ組合仲間ノ制ヲ廢シテ之ニ代フルニ商業工業ニ租稅ヲ課スルノ法ヲ以テセリ凡ソ世ノ租稅ハ其初メ簡單ニシテ且ツ不正ナルハ常ナリ佛國ノ營業稅モ亦其初メハ被稅者ノ職業如何ヲ問ハス皆商店居住家屋ノ家賃價格ニ從テ之ヲ課シ非常ニ簡單ナリシモ不平均モ亦甚シカリシ故ニ久シカラスシテ或ル營業ハ利益巨大ナルモ必スシモ上等ノ場處ヲ要セスシテ如此キ營業ハ該法ニ於テ特別ノ惠ヲ被ムリシ者タルヲ發覺セリ

此ニ於テ該稅ノ組織ヲ改正センコトヲ計リ革命ノ第三年十一月四日ノ條例ヲ以テ大ニ之ヲ改良シ營業ノ性質ニ從ヒ諸營業ヲ分テ數級トナシ各營業ノ大小ト其營業ヲナス土地ノ人口ニ從テ租稅ヲ課セリスノ如ク營業稅ノ配賦ヲナスニ專ラ二箇ノ情況ニ依リシヲ以テ一市府中ニ於テ同業ヲ營ム

者ハ皆同額ノ稅ヲ負擔シ營業處居住家屋ノ家賃價格ノ大小ハ毫モ之ヲ問ハサリシ者ナリ

右ノ法ハ久シカラスシテ大ニ不完全ナルヲ見テ第四年十二月六日ノ條例次テ第五年三月九日第六年一月七日第七年一月一日ノ數條例ヲ以テ配賦ノ基礎ヲ擴張シ一ニハ第三年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ營業ノ大小人口ノ多寡ニ據リ定額稅ヲ課シ一ニハ千七百九十一年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ被稅者カ使用スル所ノ家屋ノ家賃價格ヲ斟酌シテ比例稅ヲ課スヘシトセリ爾後營業稅ハ右ノ二部ヲ并行シ今日ニ至ルマテ變動アルナシ此制ヲ用ヒテヨリ營業稅ハ兩足備ハル者ト云ヘク又跋ニアラス定額稅ヲ以テ同處ニ同業ヲ營ナム者ノ負擔ヲ同フシ而シテ比例稅ヲ以テ被稅者ノ營業處居家ノ家賃價格ノ變動ニ從ハシムル者ナリ然ルニ種々ノ營業ノ間ニ於テ營業稅負擔ノ不平均ハ尙頗ル甚シ其定額稅ヲ定ルヤ右ノ法律ニ於テハ生産ノ平均高并ニ各職業カ得ラルヘキ利益ノ多少ヲ斟酌スルニ足ラヌ又一方ニハ比例稅ハ一般ニ被稅者ノ居家及ヒ營



業處ノ家賃價格ノ十分一ヲ徵收シ某營業ハ隘屋陋巷ニ於テ巨利ヲ射ル者アルヲ問ハサルナリ

右ノ如キ不平均ヲ生スル原因ヲ療センカ爲メニ千八百十七年千八百十八年千八百十九年ニ於テ種々ノ條例ヲ以テ漸次ニ改正ヲ行ヒ某營業ニ於テハ大ニ定額稅ノ性質ヲ變セシモノアリ製造家ノ如キハ其地ノ人口ノ多寡ヲ問ハスシテ器械ノ多少ニ從テ稅額ヲ異ニスル者トナシ定額稅ノ性質ヲ變シテ定額稅ノ實ナシト雖尙其名ヲ存セリ其他數種ノ生産家ニ於ケルモ類似ノ改正ヲ行ヘリ然レトモ比例稅ノ部分ニ至リテハ依然トシテ動カス所ナク常ニ職業ノ種類ヲ問ハス一般ニ營業者カ用フル所ノ家屋ノ家賃價格ノ十分一ヲ徵課セリ

千八百四十四年ノ條例ヲ以テ大ニ營業稅ヲ改正シ百般ノ職業ヲ分テ甲乙丙ノ三種トセリ甲種ハ重ニ商店ニ於ケル營業ニシテ營業ノ盛衰ハ買手ノ多少ニ由ル故ヲ以テ營業ノ大小多クハ其地ノ人口ノ多寡ニ由ル者トス乙種ハ其地ノ人口ニ基キテ租稅ヲ課スル者ニシテ其職業ノ大小ト性質ニ據

リテ一般ノ稅率ヲ課スヘカラサル者トス丙種ハ邑ノ人口ヲ問ハスシテ租稅ヲ課スル所ノ職業トス之ヲ約言スレハ甲種ハ一般ノ小賣商乙種ハ御賣商仲買商銀行家等丙種ハ製造家トナス斯ノ如クシテ定額稅ノ主義ヲ修正シ器械又ハ勞力者ノ數ニ應シテ之ヲ増加シ居家商店ノ家賃價格ニ應シテ賦課スル所ノ比例稅ニ於テハ百業同率ノ制ヲ廢シ重ニ家賃價格ノ二十分一トナシ或ル場合ニ於テハ十五分ノ一トシ工業ニハ二十五分ノ一四十分ノ一若クハ五十分ノ一トナセリ被稅ノ限リニアラサル者ハ第四種即チ丁種ニ列セリ

千八百五十年五月十八日千八百五十八年六月四日ノ二條例ヲ以テ從來設置セシ部類ノ發達改正ヲナセリ斯ノ如ク政府カ年ヲ逐テ次第ニ租稅法ヲ繞密ニセシハ之ヲ以テ該稅ノ負擔ヲ平均セシメンコトヲ欲セシニアリ右ニ述ル所ヲ以テ讀者ヲシテ營業稅法發達ノ思想ヲ得セシムルニ足ルヤ未タ知ルヘカラス該稅法ハ年ヲ逐フテ益繞密トナリ殆ト明示スル能ハサルニ至レリ然ルニ若シ該稅ヲシテ被稅者ノ財力即チ被稅者カ得ル所ノ利



益否ナ營業ノ景況ニ由テ得能フ所ノ平均利益ニ比例セシメント欲セハ該  
 税ノ性質トシテ此纒密ニ至ラサルヘカラス  
 佛普ノ戰爭以後數回ノ條例ヲ以テ營業税法ヲ改修補正セリト雖尙未タ不  
 平均ヲ免レサルヲ見ルヘシ是故ニ若シ該税ヲ課スルヲ重キニ過キサレハ  
 蓋シ人心ノ憤怨ヲ來タスニ至ラサルヘシト雖大ニ配賦額ヲ増加セハ被税  
 者ハ不平均ノ苦ヲ覺エ或ハ堪エ難キニ至ルヲアラシク八百七十二年三月  
 二十九日六月十六日二十三日ノ三條例ニ由テ近年營業税ノ負擔ヲ増加セ  
 シハ衆人ノ知ル所ナリ當年ノ議員ハ右ノ三條例ヲ議スルニ當リ各々別ニ  
 之ヲ議シ其集合シテ生スル所ノ効驗如何ヲ豫知セサリシ者ナリ  
 三月二十九日ノ條例ニ由リテ數箇ノ營業處若クハ商店ヲ有シ從前本店ニ  
 ハ租税ノ全額ヲ拂ヒ支店ニハ半額ヲ拂ヒシ者ハ本支ノ別ナク皆全額ヲ拂  
 ハサルヘガラサルニ至レリ又同條例ヲ以テ生産ニ使用セル勞力者若クハ  
 器械ノ數ニ應シテ課セシ所ノ工商ノ定額税ノ最高點ヲ廢セリ右二條ノ改  
 正ヲ致セシハ不公平ヲ修正スルノ精神ニ出テタルヤ疑ヲ容レサルナリ加

フルニ千八百七十二年三月二十九日ノ條例ヲ以テ丙種ノ被税者或ル者ヲ  
 除キノ定額税ニ五分ノ一ヲ増加シ又數種ノ被税者ノ比例税ヲ増加シ家賃  
 價格ニ應シテ十分ノ一ヨリ十五分ノ一若クハ十五分ノ一ヨリ二十分ノ一  
 トセリ是故ニ右ノ改正ハ頗ル切要ナル者ニシテ輕視スヘキニアラス千八  
 百七十二年六月十六日ノ條例ヲ以テ特ニ保護スヘシト見認メタル營業ヲ  
 除キ一切ノ營業ニ中央政府ノ副税六十サンチムヲ加ヘリ

本文國庫ニ收入スヘキ六十サンチムノ副税ハ後チ減シテ四十二サン  
 チムトセリ

第三ノ條例即チ千八百七十二年六月二十三日ノ條例ニ於テ印紙税ヲ廢シ代  
 フルニ營業副税ヲ以テシ再ヒニサンチム十分ノ八ヲ以テ副税ニ加ヘリ  
 右三條ノ集合效驗ハ頗ル急激ナリマチユー、ボデー氏ハ例ヲ擧ケテ其景況  
 ヲ示セリ

最モ要用ニシテ租税増加ノ最モ甚キ丙種ノ一營業ヲ擧テ紡績器械等ノ巨  
 大ナル蒸氣器械ヲ製造シ四人ノ助手ヲ有シ千人ノ勞力者ヲ役シ十萬五千



「フランク」ノ家賃價格内五千「フランク」ヲ居住家屋ノ家賃價格トシニ比例稅ヲ拂フ者アリトセン然ル時ハ千八百七十二年ニ當リテ拂ヒシ所ノ稅額ハ左ノ如シ

定額稅(最高點)

五〇〇「フランク」

比例稅 五千「フランク」ノ二十分一  
十萬「フランク」ノ五分一

二二五〇「フランク」

小計

二七五〇「フランク」

副稅(十「サンチーム」)

二九七「フランク」

小計

三〇四七「フランク」

助手四人

四〇〇「フランク」

副稅(十「サンチーム」)

四三「フランク」(二〇「サンチーム」)

小計

四四三「フランク」(二〇「サンチーム」)

國稅總計(地方費ニ給スル正稅)

八「サンチーム」ノ收入ヲ除キ

三四九〇「フランク」(二〇「サンチーム」)

千八百七十三年ニ拂ヒシ稅額ハ左ノ如シ

定額稅

一般ニ課スル者

三〇「フランク」

勞力者千人 一人ニ付三「フランク」  
六十「サンチーム」

三六〇〇「フランク」

小計

三六三〇「フランク」

比例稅(従前ノ如ク)

二二五〇「フランク」

小計

五八八〇「フランク」

十「サンチーム」

七十四「サンチーム」

副稅(三「サンチーム」)

七十四「サンチーム」

六十「サンチーム」

四三八六「フランク」(四八「サンチーム」)

小計

一〇二六六「フランク」(四八「サンチーム」)

助手四人

二九〇四「フランク」

副稅(七十四「サンチーム」)

二一六六「フランク」(三三「サンチーム」)

小計

五〇七〇「フランク」(三三「サンチーム」)



國稅總計(地方費ニ給スル正稅八「サンチーム」ノ收入ヲ除キ)

一五三三六「フランク」八六「サンチーム」

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ千八百七十二年以前ハ三千四百九十「フランク」ヲ拂ヒシ所ノ營業者ハ急ニ一萬五千三百三十六「フランク」ヲ拂フ者ニシテ國稅ノ負擔四倍餘ノ増加ニ至リシ者ナリ斯ノ如クナルヲ以テ營業上ニ影響ヲ來タス「ト」少ナラス營業者カ負擔ノ輕重ヲ平均シ其效驗ノ甚キヲ減セント欲シテ該稅ノ改正ヲ請求セシヤ敢テ怪ムニ足ラサルナリ  
斯ノ如ク陸續數回ノ條例ヲ以テ營業稅法ヲ縝密ニシ殆ト明示スルヲ得サルニ至ラシメタリト雖之カ負擔ヲシテ遂ニ平均ナラシムル「ト」能ハス余輩ハ今ヨリ方今其不平均ノ甚キ者ヲ修正除去セント欲スル所ノ議案ノ如何ヲ研究セン

マチユー、ポデー氏ハ營業稅部類ノ稅名ヲ改メ之カ義解ヲ以テ新法草案ノ初メニ置ケリ其第二條ニ曰ク

營業稅ハ營業免許條例ノ卷末ニ附スル所ノ表ニ則トリ各職業ニ課スル

所ノ職業稅及ヒ免許營業者カ使用スル家屋ノ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ以テ成ル者トス

右ノ言タル至適至當ト云ヒ難シ如何トナレハ第四種ニ屬スル所ノ職業ハ職業稅ヲ負擔セスシテ特ニ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ拂フニ止レハナリ然ルニ此特例ハ其關スル處小ニシテ立案者モ亦之ヲ顧ミサル者ナリ本條ニ於テ舊法ニ異ナル所ノ者ハ革命政府ノ第七年以後用ヒ來リシ所ノ定額稅ノ名ニ更フルニ職業稅ノ名ヲ以テスル「ト」是ナリ方今ニ於テハ定額稅ニシテ往々製造器械勞力者被役者等ノ數ニ應シテ増減ヲナシ實際定額稅ニアラス殊ニ該稅ノ最高點ヲ廢シテヨリ定額稅ノ名益々其實ニ適セス之ヲ以テ新法案ニ於テハ更フルニ職業稅ノ名ヲ以テセリ  
マチユー、ポデー氏ハ右ノ職業稅ハ數種ノ性質ヲ含有スルヲ說ケリ之ニ據ル時ハ甲種即チ一般ノ小賣營業ニ於ケル職業稅ハ職業ノ階級并ニ營業地ノ邑ノ人口ニ應シテ稅率ニ輕重アリ乙種即チ手代銀行家株式仲買等大商賈ノ職業稅ハ或ハ人口ノ多寡及ヒ營業ノ大小ヲ表スル所ノ外標ニ據リテ累



進率ヲ定メ或ハ特ニ邑ノ人口ニ基キテ稅率ノ輕重ヲ定ムル者トス丙種即チ製造家及ヒ他ノ小數ノ營業ニ於ケル職業稅ハ或ハ生産ニ用フル器械勞力者等ノ數ニ應シテ輕重スル所ノ稅アリ或ハ同時ニ動搖スヘキ性質ト一定動カサル性質ヲ有スル所ノ稅アル者トス

斯ノ如ク職業稅ノ種類數多ニシテ簡明ニ之カ解ヲ下タスヲ甚々難シ之ヲ以テマチユー、ボデー氏ハ左ノ語ヲ以テ其解ヲ結ヘリ

之ヲ約言スレハ職業稅ハ免許營業者ニ課スル所ノ者ニシテ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ノ外一切ノ定額若クハ不定ノ租稅ヲ以テ成ル者トス

氏ノ言ヲ以テ之ヲ見レハ營業稅ノ纒密ニシテ殆ト明示スル能ハサル者ナルヲ知ルヘシ

凡ソ義解ハ摘要ニシテ事ヲ論スルニ義解ニ基キ之カ得失ヲ決スルニ足ラス宜ク之ヲ玩味研究シテ其淵源ヲ探求スヘシ余輩ハ今ヨリ一步ヲ進ンテ之カ討究ヲナサント欲ス

右ノ營業稅改正案ニ據レハ正稅ノ全額ハ舊ニ依リテ増減セズ特ニ方今ノ

負擔重キニ過クト思フ所ノ職業ハ之ヲ輕減シ輕賦ノ惠ヲ受クト考フル者ハ之ヲ増課スルニ止マル故ニ概シテ之ヲ見レハ被稅者ニ於テ負擔ヲ輕減スルニアラス政府ニ於テモ歲入ヲ減縮スルニアラスシテ改正委員ハ租稅賦課ノ平均ヲ計リシニ過キサル者ナリ改正案ニ於テ某營業ノ負擔ヲ減セシハ實ニ六百四十七萬三千「フランク」其増加セシハ六百五十六萬九千「フランク」ナルヲ以テ増減殆ト相償ヒ僅カニ九萬六千「フランク」ノ増加ヲ見ル者ニシテ該稅ノ全收入高ニ比スレハ千ニ付一餘ノ割合ニ過キサル者ナリ

斯ノ如ク其全体ニ於テハ増減相償フト雖種別ノ間ニ於テハ然ラス稍々著シキ負擔ノ輕減ヲ覺ユル者アリ或ハ却テ其増加ヲ苦ム者アリ

方今佛國營業稅ノ被稅者ヲ分テ甲乙丙丁ノ四種トナスハ已ニ前章ニ云フ所ノ如シ甲種ハ則チ一切ノ小賣營業ニシテ最モ大部分ニ居ル其被稅者ノ數ハ百三十萬二千百三十九人ニシテ全數ノ五分ノ四餘ニ達シ其正稅收入高ハ五千八十一萬六千「フランク」ニシテ營業稅總收入高ノ三分ノ二ニ過キタリ而シテ又甲種ヲ細別シ營業ノ大小營業地人口ノ多寡ニ從ヒ分テ八級



トセリ第二種即チ乙種ハ巨商大賈銀行家等ニシテ被稅者ノ數ハ僅カニ一  
 萬六千七百十八正稅ノ收入高五百七十八萬二千三百五十二フランクニ過  
 キスシテ被稅者ハ全數ノ百分一ニ達セス收入ハ凡ソ總額ノ十二分ノ一ニ  
 過キサル者トス丙種ハ製造家等ニシテ被稅者二十二萬二千五十六人收入  
 高千五百七萬九千二百二十二フランクナリ丁種ハ前三種ノ如ク明示スル  
 能ハサル所ノ者ニシテ特ニ前三種ト均シク稅スヘカラスト見做ス所ノ某  
 營業ヲ以テ該種ヲ成ヌ之ニ屬スル者ハ五萬百五十七人ニシテ正稅二百五  
 萬二千七百五十五フランクヲ入ル  
 由是觀之ハ中小ノ商業ハ殆ト都テ甲種ニ屬シ巨大ノ商業工業ハ殆ト皆他  
 ノ種類ニ屬スルヲ知ルヘシ改正委員ノ意ハ甲種營業者ノ負擔ヲ減シ之ヲ  
 以テ他種ノ營業者ニ増課スルニアリ之ヲ以テ甲種ニ於テ増加セシ高ハ僅  
 ニ百十七萬千フランクニシテ減少高ハ四百六十一萬八千フランクニ達セ  
 リ尤モ現今甲種ニ屬スル所ノ職業ヲ以テ乙丙ノ二種ニ移セシ者アルカ故  
 ニ其減少高ハ大ナルヘシト雖尙該種ノ營業ハ全体ニ於テ凡ソ二百萬フラ

ンク即チ平均四分ノ減少ニ至ルヤ疑ヲ容レサルナリ此減少タル大ナリト  
 云ヘカラスト雖小商業ニ於テハ頗ル負擔ヲ減スルノ思アルヘシ如何トナ  
 レハ右ノ減少ハ甲種ノ末級即チ小商ニ於テ最モ大ナレハナリ  
 甲種八級營業者ノ數及ヒ各級ノ正稅收入高ハ左ノ如シ

第一級	四三、〇八一	七、六〇一、一一四「フランク」
第二級	一四、六四〇	二、四三六、九八〇「フランク」
第三級	五五、六一八	五、七八三、四五七「フランク」
第四級	二〇三、二七三	一一、三一五、八一「フランク」
第五級	二四二、一二三	八、八〇一、七四〇「フランク」
第六級	四六九、〇〇七	一一、二五七、四一四「フランク」
第七級	二〇二、八三五	二、九七八、三六四「フランク」
第八級	七一、五六二	六四一、一三七「フランク」
合計	一、三〇二、一三九	五〇、八一六、〇一六「フランク」

右ノ表ニ據レハ甲種第一級ニ於テハ正稅ノ負擔平均一人ニ付凡ソ百八十



「フランク」ナリト雖第八級ニ至リテハ平均一人ニ付九「フランク」ニ過キサルヲ見ルヘシ

改正委員ハ甲種第一級ニ屬スル所ノ某卸賣營業ニシテ特別ニ大ナル者即チ金剛石賣買商手形割引商等ヲ移シテ乙種ニ置ントス故ニ新法案ニ據レハ甲種ノ第一級ハ特別ニ大ナル所ノ某職業ヲ除キ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ該級ニ於テハ租稅ノ基礎ヲ變更スル所ナシ第二級ハ半ハ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ改正案ニ於テ稅率ヲ變革スル所ナシ只少シク該級ニ屬スル職業ヲ進退シ或ハ之ヲ上級ニ編シ或ハ之ヲ下級ニ加フ其他ノ六級ニ於テモ皆多少從來所屬ノ職業ヲ出入シ其位地ヲ改ム其大ニ稅率ヲ改ムル者ハ第四第六ノ二級トス第四級ニ屬スル營業者ニシテ二千一人ヨリ五千人ニ至ル迄ノ人口ヲ有スル邑ニアル者ハ其職業稅減シテ十八「フランク」ヨリ十五「フランク」ニ至ル第六級ノ營業者ハ其減少尙此ヨリ大ナリ比例稅ニ至リテハ方今ハ家賃ノ二十分一ナリト雖改正案ニ據ル時ハ三十分一ヲ過キサル者トス最下ノ二級第七級第八級ハ其外形ニ於テ變更スル所アリト

雖實際ニ於テハ毫モ異ナル所ナシ如何トナレハ現今右二級ノ被稅者カ負擔スル所ノ職業稅ヲ輕減スト雖新々ニ方今負擔セサル所ノ比例稅ヲ課スルヲ以テ増減相償ヘハナリ

之ヲ約言スレハ新法案ニ於テ利スル所ノ者ハ獨リ甲種ノ營業者即チ中小ノ商賈ニアリ又其甲種中ニ於テ凡ソ二百萬「フランク」ノ輕減ヲ利スル者ハ獨リ第四第六ノ二級ニアリ方今右二級ノ營業者ハ實ニ六十七萬二千二百八十四人ニシテ二千二百五十萬「フランク」ヲ拂フヲ以テ改正案ノ減少高ハ一人ニ付凡ソ三「フランク」徵收高ニ對シテハ其十分一ニ當ル者ナリ之ニ副稅ヲ加フル時ハ稅額ヲ倍スルヲ以テ第四第六二級ノ被稅者ハ改正案ニ於テ各々平均六「フランク」ノ負擔ヲ減スヘキ者ナリ

乙種ハ手代仲買運輸營業者銀行家株式仲買等一切ノ巨商大賈ニシテ職業ノ種類都テ二十二營業者一萬六千七百十人租稅ノ收入高殆ト六百萬「フランク」トス改正委員ハ多少該種ニ於テ租稅ノ額ヲ増加シ甲種ニ於テ減少セラル者ヲ償ハンコトヲ計レリ故ニ該種ニ於テ減少スヘキ高ハ僅カニ三十萬七



千「フランク」ニシテ増加スヘキ高ハ百二十四萬「フランク」ニ達シ差引純増加  
高九十三萬三千「フランク」トナルヘシ然ルニ甲種ヨリ乙種ニ轉スル所ノ職  
業アルカ故ニ之ヲ減スレハ實際負擔ヲ増加スヘキハ僅ニ五六萬「フラン  
ク」即チ現今收入高ノ九分乃至一割ニ過キサル者ナリ豈ニ苛刻ナリト云フ  
ヘキモノナランヤ

製造家ヲ以テ成ル所ノ丙種ニ於テモ均シク負擔ヲ増加シ増加高ノ減少高  
ニ超ユル者凡ソ百八十萬「フランク」即チ現今正稅收入高ノ殆ト一割二分ニ  
當ル

改正案ニ於テ最モ負擔ヲ増加スル者ヲ丁種トナス方今該種ノ正稅收入高  
ハ二百五萬二千「フランク」ニシテ其増加スヘキ高ハ八十萬「フランク」ナルヲ  
以テ實ニ四割ニ達ス已ニ陳セシ如ク該種ハ種々ノ事情ヨリ甲乙丙三種ノ  
職業ト均シク稅スヘカラスト見做シタル所ノ某職業ヲ以テ成ル者ニシテ  
敢テ判然ト何職業ハ此種類ニ屬スト云フヲ得サル者ナリ該種ニ屬スル所  
ノ某職業ハ一切職業稅ヲ負擔セス只負フ所ノ者ハ比例稅ニ過キス之ヲ以

テ改正案ニ於テ大ニ其比例稅ヲ増加センコトヲ計ル

千八百七十三年ノ改正委員ノ議案ニ據ル時ハ甲種即チ中小ノ營業ニ於テ  
負擔ヲ減シ他ノ三種即チ巨商大製造家ノ負擔ヲ増加スルカ故ニ多少營業  
稅ノ不平均ヲ減却スルヤ明カナリ然ルニ輕減ノ利ヲ受ル者ハ甲種ノ全級  
ニ及フニアラス僅ニ其一二級ニ過キサル者ニシテ其利タル甚々小ナリ是  
故ニ右ノ改正案ハ未タ以テ衆望ヲ満足セシムルニ足ラスト雖亦一步ノ改  
長ト云ハサルヲ得ス

マチューポター氏ハ一例ヲ丙種ノ蒸汽器械製造家ニ取り千八百七十二  
年ニ於テハ正稅副稅トシテ中央政府ニ三千四百九十「フランク」二十「サンチー  
ム」ヲ拂ヒシ者ハ定額稅即チ職業稅最高點ノ廢止六十「サンチーム」ノ副稅設  
置及ヒ他ノ改革ノ爲メニ千八百七十三年ニ於テ中央政府ニ拂フ所ノ者一  
萬五千三百三十六「フランク」八十六「サンチーム」即チ前年ニ比シテ四倍ノ多  
キヲ拂フニ至ルコトヲ說ケリ爾後六十「サンチーム」ノ副稅ハ減シテ四十三「サ  
ンチーム」トナリシカ故ニ改正案ニ由リテ新法ヲ行フ時ハ右ノ製造家ハ一



萬千四百五十九「フランク」二十五「サンチー」ムヲ拂フヘシ千八百七十三年ノ景況ニ比スレハ負擔ヲ輕減スル者ナリト雖佛普ノ戰爭以前ニ比スレハ尙三倍ノ多キヲ加フト云ヘシ

斯ノ如ク或ル營業者ハ商業ノ困難市場ノ不景氣ナルニ當リ物品ノ買手ヲシテ負擔ヲ分タシムルヲ能ハサル時ハ三倍餘ノ直稅ヲ拂フヘシ加之ス數種ノ間稅新タニ加ハリ四方ニ營業者ヲ攻ムル者アルニ於テヲヤ

本文ハレルワ、ホリユ一氏カ千八百七十三年十二月二十日二十三日ノ刊行佛國經濟雜誌ニ掲載セシ論文ナリ

右ニ論述スル所ヲ以テ之ヲ見レハ佛國ノ營業稅ハ左ノ四條ノ意ヲ以テ賦課スル者ナルヲ知ルヘシ

第一 營業ノ利益ハ衆業皆必スシモ一樣ナラス一見シテ利益ノ多少著明ナル所ノ職業多シ即チ銀行家ノ利益ハ小木匠ノ利益ヨリ多ク乾物商ノ利益ハ靴直シ職ノ利益ヨリ多キハ衆人皆敢テ疑ハサル所ナリ然ラハ則チ利益ノ多少ヲ推定シテ營業ノ階級ヲ定ムルハ決シテ理ナシト云ヘカラス

第二 同シ營業ニ於テハ通例營業地ノ人口ノ多寡ニ由リ利益ニ大小アリ例ヘハルアン府ノ乾物商ハイヴェト一邑ノ同業者ニ比スレハ利益多カルヘク又イヴェト一ノ乾物商ハ一小村ノ同業者ヨリ利益多カルヘシ故ニ小賣營業中ニ於テハ人口ノ多寡ヲ計リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ可ナリ然ルニ工業ニ至リテハ大ニ之ニ反ス是故ニ佛國ノ法律ニ於テモ之ヲ以テ工業ニ及ホサス

第三 工業若クハ商業ノ利益ハ營業場處ノ良否器械ノ多少使役者ノ衆寡ニ由リテ大小アルヲ常トス即チ紡錘十萬箇ノ製造處ヲ有セル紡績家ハ紡錘一萬箇ノ製造處ヲ有セル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多カルヘク巨大ノ商店ヲ有スル乾物商ハ小店ヲ持スル同業者ニ比スレハ博利機會多カルヘク百人ノ被役者ヲ使役スル所ノ呉服商ハ十人ヲ使役スル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多カルヘシ故ニ營業ノ大小ニ由リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ最モ當然ノ理ナリ且ツ製造業ノ如キハ利益ノ大小アル殆ト特ニ業ノ大小ニ由ル

第四 營業利益ノ大小ハ數々營業者ノ住家ノ家賃ト關係ヲ有スル者トス如



何トナレハ營業者ハ通例利益ノ大ナルニ從テ益良好ナル家屋ニ住スル者ナレハナリ此事タル概シテ虛妄ナルニアラサレトモ四者ノ中最モ精密ナラサル者トス何ヲ以テカ之ヲ云フ曰ク營業者カ壯館美室ニ住スルハ前日貯積セシ財産ヲ有スルニ由ルコアルヘク本人ノ嗜好家屬ノ多少等ニ由ルコアルヘケレハナリ加フルニ已ニ一般ノ家屋稅ヲ課シ而シテ又別ニ住家ノ家賃ニ比例シテ營業稅ヲ課スルハ豈ニ當然ナル者ナランヤ

是等ノ情狀ヲ量リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ頗ル繞密ニシテ或ル格段ナル場合ニ於テハ數々適實ナラサルヘシト雖營業稅ヲ課スルニ被稅者ノ申告ニ由ラス又人民ノ私事ニ關涉セサランコヲ欲セハ右ノ推定法ニ由ルノ良キニ如カサルヘシ已ニ論及セシカ如ク營業稅ハ營業者ノ實益ニ課スルコアルヨリ寧ロ營業ノ景況方法ヲ見テ理ニ於テ得ヘキ所ノ利益ニ課スル者タルヲ忘ルヘカラス故ニ假令ヒ被稅者ノ實益ハ其平均利益即チ推測利益ニ及ハサルモ政府ハ敢テ之ヲ輕減セス之ニ反シテ其實益ハ推測利益ニ過クルモ敢テ之ヲ増加セサルナリ

斯ノ如クニシテ佛國ノ營業稅ハ非常ニ重ク正稅副稅トシテ一ケ年七萬五千フランク若クハ十萬フランクヲ拂フ者アリ然リト雖佛國ノ營業者ハ能ク之ヲ忍ヒ未タ嘗テ該稅ヲ廢棄シテ之カ負擔ヲ免ンコヲカメシヲ見ス此點ニ於テハ佛國ノ營業者ハ大ニ英國ノ同業者ニ異ナル者アリ英國ノ歲入稅ハ割合ニ輕ク其營業者カ拂フ所ハ佛國營業者カ負擔スル所ノ營業稅ノ(正稅副稅ヲ合セテ)半額若クハ三分ノ一二過キスト雖尙カヲ盡シテ之ヲ廢棄センコヲ欲ス英佛兩國ノ民ニ斯ノ如キ差違アル所以ノ者ハ蓋シ英國ハ久ク太平ノ澤ニ浴シ租稅ノ改正輕減殆ト意ノ如ク常ニ或ハ輕減シ或ハ全廢スルヲ得タルヲ以テ人民之ニ慣レ隨フ得テ又蜀ヲ望ムノ心ヲ生セシニアリ佛國ハ之ニ反シテ負擔常ニ増加シ人民之レニ慣レ敢テ怪マサルニ至レリ又利益ヲ申告スルヲ忍フコハ租稅ノ増加ヲ負擔スルヨリ難キニアルカ

然ルニ佛國營業稅ノ法ニ於テハ負擔ノ不平均甚シク人民カ能ク之ニ堪ユルハ眞ニ愕クニ堪エタリ某職業ニ於テハ其憑據スル所ノ利益ノ外標甚々完全ナラス例ヘハ銀行營業ノ如キハ其場處ノ大小美惡被役者ノ衆寡ハ營業者ノ



實益ノ多少ヲ表スルニ足ラス仲買商ノ如キモ殆ト相同ク其場處ト被役者ヲ見テ遽カニ之カ實益ヲ量ルヲ能ハス故ニ是等ノ營業者ノ不平均ヲ免レサル者ト云ヘシ茲ニ尙此ヨリ甚シキ不平均アリ組合營業ニシテ數人相集リテ一業ヲ營ム時ハ一人ニシテ業ヲ營ムト營業ノ大小相同シト雖其負擔却テ重キト是ナリ請フ之カ例ヲ示サン

茲ニ一個ノ船主アリトセン方今佛國營業稅ノ制度ニ據レハ船主ノ負擔ニハ先ツ比例稅アリ該稅ハ營業場處ノ家賃價格十五分ノ一トス而シテ若シ其住居同地内ニアル時ハ住家ノ家賃ニ及フ者トス又所有ノ帆前船航洋船ハ一噸ニ付四十八「サンチーム」ヲ拂フ然ルニ右ノ船主若シ一人ノ助手ヲ有スル時ハ每噸二十四「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合セテ一噸ニ付七十二「サンチーム」ヲ拂フ者トナリ二人ノ助手ヲ有スル時ハ一人毎ニ各々十六「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合計一噸ニ付八十「サンチーム」ヲ拂フ即チ船主カ獨力ヲ以テ營業スル時ニ比スレハ殆ト七割ノ增稅ヲ拂フ者ナリ然ラハ則チ佛國ノ營業稅ハ組合營業ニ重ク單力營業ニ輕キモノナリ即チ財力薄ク獨力ニシテ業ヲ營ム能ハサ

ル者ニ重課シテ財力足り獨力ニシテ業ヲ營ムヲ得ル者ニ輕課スルナリ斯ノ如キ不正ナル租稅法ハ習慣ニアラサルヨリ何ソ能ク之ヲ行フヲ得ンヤ此制度タル蠻野ノ遺風ニシテ自由競争ヲ妨碍スル者ナリ前章ニ於テマチニ「ボデー」氏ノ報告中ニ此類ノ例証ヲ舉ケ千人ノ勞力者ヲ使役シ十萬「フラン」ノ家賃ナル製造所ヲ有シ居家ノ家賃五千「フラン」ナル者ニ住スル所ノ器械製造家ハ獨力營業ナレハ千八百七十三年ニ於テ國稅トシテ營業稅一萬二百六十六「フラン」ヲ拂ヒ若シ二人ノ助手ヲ有スレハ一萬五千三百三十六「フラン」八十六「サンチーム」ヲ拂ヘリ即チ營業ノ大小利益ノ多少ニ異ナル所ナクシテ組合ヲ以テスレハ五割ノ增稅ヲ拂ヒシ者ナリト云ヒシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ故ニ此制タルヤ逆累進稅トモ稱スヘシ今試ニ家屋稅ニ於テ數家族ノ一家屋ニ住スル時ハ其稅五割ヲ增課スル者トセハ富民カ特惠ヲ被ルトヲ慍リ政府ノ措置不正無法ナルヲ責ルモ敢テ非理ノ不平ヲ唱フル者ト云フヲ得サルヘシ然ラハ則チ地租ニ於テハ不正トスル所ノ者ヲ以テ數年以來營業稅ニ行フ者ニアラスヤ此法タル只ニ道理ニ背戾スルノミナラス營業上



長組織ノ發達ヲ妨クルモノナリ航海營業者ノ言ヲ聞クニ右ノ法律ノ爲メニ  
 船主ハ船長ト組合トナル能ハスシテ其不便少ナカラスト云フ  
 佛國ノ營業稅ニ於テハ尙他ノ不平均少ナカラス諸職業ノ階級分定ノ宜キヲ  
 得サルカ爲メニ利益ノ機會大小相同キ者ニシテ甲業ハ乙業ノ三倍若クハ四  
 倍ヲ拂フ者アリヂュパイデローム氏ノ航海營業調査報告ヲ見ルニ四萬噸ノ  
 船隊ヲ造ルニ一千萬フランクノ資本ヲ要スル者トス若シ其所有主一人ナレ  
 ハ正稅一萬九千二百フランクヲ拂フ之ニ反シテ銀行營業ニ於テハ均シク一  
 千萬フランクノ資本ニテ正稅僅カニ三千二百フランクヲ拂フト云フ然ラハ  
 則チ航海營業ハ銀行ニ六倍ノ租稅ヲ負擔スル者ト云フヘシ  
 若シ營業稅ノ不平均ヲ減セント欲セハ階級ノ分定ヲ改正シ助手ノ爲メニ課  
 スル所ノ增稅ヲ廢セサルヘカラス而シテ營業者ノ居室ニハ已ニ動產稅ノア  
 ルアリ故ニ其居室ノ家賃價格ニ租稅ヲ課セサルヲ良トス概シテ財產家及ヒ  
 他ノ資本家(抵當)ヲ以テ資金ヲ貸附ル類ニハ租稅ヲ課セサルニ獨リ工商ノ職  
 業若クハ高尚ナル職業ニノ租稅ヲ課スル時ハ豈ニ論議ヲ免ルヲ得ンヤ

不完全ナル近年ノ改正定額稅否チ職業稅最高點ノ廢止ニ至ル迄佛國ノ營業  
 稅法ハ不正甚シク大ニ貧民ヲ苦メ富民ヲ惠メリ方今ト雖其弊尙未タ止マス  
 シテ富民ニ輕ク貧民ニ重シ斯ノ如キ形況ニ於ケル自然ノ勢トシテ今日ハ漸  
 ク輿論ノ激動ヲ起シ其弊ヤ却テ反對ノ極點ニ偏セントスルカ如シ  
 二十年以來巴里府ニ於テ數箇ノ巨大ナル商店ノ設立行ハレ數種ノ物品ヲ販  
 賣スルハ衆ノ皆知ル所ナリ是等ノ商店ノ發達ハ佛國經濟上ノ組織ニ於テ一  
 種著明ナル現象トス小商業者ハ之ヲ見テ甚々快シトセス蓋シ彼輩カ不平ヲ  
 訴フルハ理ナキニアラスト雖政府ノ力ヲ借り法律ヲ以テ是等ノ大商店ヲ破  
 滅セントスルハ甚キニ過クト云ヘシ其目的タル小賣店ニシテ四種若クハ五  
 種以上ノ物品ヲ販賣スル者ハ特ニ營業稅ヲ重課シ以テ内地ノ商業ヲシテ一  
 定ノ方法ニ歸セシメントスルニアリ是レ稅關ニ於ケル保護ノ制ニ倣ヒ内地  
 ニ保護ノ制度ヲ設クル者ト云ヘシ交換ノ自由國富ノ發達ヲ妨クルヲ恐クハ  
 該制度ノ如ク甚キ者アラサルヘシ只彼輩カ請求スルヲ得ルハ大商店ヲシテ  
 利益ノ割合(假令)ヒ其實益ニ比例スル能ハサルモ當然ノ利益ニ比例シテ(ニ營



業税ヲ負擔セシムルニアリ方今ニ於テハ小賣商ハ家賃ノ大小ト被役者ノ多少ニ比例シテ該税ヲ課スル者トス若シ之ニ加フルニ取引高ノ税ヲ以テスルカ止ヲ得サレハ被税者ノ申告ニ由リテ歳入税ヲ課セハ多少營業税ノ不均ヲ修正スルヲ得ン尤モ取引ノ高ヲ酌量シテ營業税ヲ課スル時ハ大商店ノ負擔ハ小商店ニ比シテ割合ニ重カルヘシ如何トナレハ取引高ト利益ノ比例ハ大商店ニ小ニシテ小商店ニ大ナルヘケレハナリ然ルニ他ニ大商店ニ輕ク小商店ニ重キヲ致ス所ノ者アリテ之ト相償補スヘシ即チ家賃ノ如キ是ナリ利益ト家賃ノ比例ハ大商店ニ大ニシテ小商店ニ小ナルハ敢テ疑ヲ容レサルヘシ

前日ハ營業税ヲ以テ獨リ製造家商賈ノミニ課セシ者ナレトモ後チ延テ代言人醫師建築家等ノ高尙ナル職業ニ及ホセシハ宜キヲ得タル者ト云ヘシ然ルト雖悉ク高尙ナル職業ニ課セントスルハ難シ之ヲ以テ只代言人醫師建築家ニ課スルニ營業税ヲ以テセリ

凡ソ營業税ヲ課スル時ハ營業者ノ利益ヲ減シテ實際ニ之ヲ負擔スル者ハ商

賈若クハ製造家ニアリヤ將タ物品ノ價ヲ騰貴シテ實際ニ於テハ消費者ヲシテ之ヲ負擔セシムルヤヲ探究スルハ頗ル有益ナルヘシフランクリン氏嘗テ云ヘルアリ商賈ハ皆其拂フ所ノ租税ヲ以テ物價ニ加フト果シテ然ルヤ否ヤ請フ之ヲ論究セン

營業税ノ實際負擔ノ歸スル所ハフランクリン氏ノ言ヘルカ如ク簡單ナル者ニアラス場合ニ由リテ大ニ之ヲ異ニスヘシ萬一各國皆營業税ヲ行ヒ税率悉ク同一ナラシメハ營業税ハ一般ニ工商ノ營業費ヲ増加シ物價ヲ騰貴シ消費者ヲシテ之ヲ負擔セシムルニ至ルヘシト云フモ可ナリ然ルニ斯ノ如キ想像ノ場合ニ於テモ必ス常ニ消費者ヲシテ負擔セシムヘシト云ヒ難カルヘシ例ヘハ若シ國家ノ艱難商業ノ不景氣ナルニ當リテ營業税ヲ増加スルコトアレハ假令遂ニハ消費者ニ負擔ヲ讓ルコトヲ得ルモ暫時ノ間ハ營業者自ラ之ヲ負擔セサルヘカラサルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ

然ルニ營業税ハ萬國ノ皆必スシモ行フ所ニアラス之ニ類似ノ租税ヲ以テ商賈製造家ニ課スル者アリト雖皆其税率ヲ同フセス故ニ營業税ヲ以テ常ニ消



費者ノ負擔スル所トナルヘシト云フハ當レリト云フヘカラス凡ソ外國品ノ輸入ヲ許シ保護稅ヲ行ハサル國ニ於テハ營業稅ヲ負擔スル者ハ製造家ニシテ買手ニアラサルヤ明カナリ若シ之ニ反シテ輸入品ニ課スルニ保護稅ヲ以テスル時ハ內國ノ製造家ヲシテ營業稅ノ負擔ヲ脱スルヲ得セシムヘシ甲乙ノ國ヲ問ハス商賈製造家ノ物品ヲ輸出スル者ハ實際營業稅ヲ負擔シ之カ爲メニ利益ヲ減スヘシ只消費者ニ營業稅ヲ負擔セシメ數歲月ノ中ニハ自ラ其負擔ヲ免ルヲ得ヘキ者ハ獨リ小賣營業者ノミ然ルニ此輩トテモ決シテ全負擔ヲ以テ消費者ニ讓ルコトヲ得サルヘシ例ヘハ巴里府ノ如ク外國旅客ノ群集スル所ニ於テハ物品ノ價ヲシテ外國ノ市府ニ於ケル同物品ノ價ト大異同ナカラシムルニアラサレハ販賣高ヲ減スヘキカ故ニ小賣營業者ハ多少外國ノ價ヲ顧ミテ斟酌セサルヘカラス然ルヲ今一朝新稅ヲ課スルコトアレハ是等ノ營業者ハ販賣高ヲ減スルニアラサレハ物價ヲ騰貴スルコトヲ得サルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ小賣營業者ハ假令ヒ租稅ノ全額ヲ負擔セサルモ實際其一部分ヲ負擔スヘシ實ニ營業稅ハ營業ノ難ヲ増シ利益ヲ減シ多少營業ノ新

開ヲ妨ケ內國ニ於テ商賈ノ競爭ヲ減縮スルノ傾向アル者ナリ  
 斯ノ如ク小賣營業ハ通例數歲月ノ中ニハ營業稅ノ大部分ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ他ノ營業者ニ及ホシ營業稅ノ爲メニ利益ヲ減スル者ニアラスト云フ能ハサルヘシ殊ニ製造家ノ如キハ内外市場ニ於テ外國ノ製造家ト競爭セサルヘカラス者ナリ故ニ營業稅實際ノ負擔ノ歸スル處ヲ論セント欲セハ宜ク其場合ニ由テ之ヲ問フヘシ  
 外國營業稅ノ賦課法ハ既ニ論セシ如ク取分法ニシテ被稅者ノ調査租稅原簿ノ調製ヲナス者ハ中央政府ノ吏員ニアリテ地方ノ配賦吏員ハ之ニ關セス然レトモ市長ハ之ニ參與シ討論スルヲ得ル者トス其配賦法ニ勝ルヤ論ヲ待タサルナリ  
 佛國營業稅ノ收入ハ其方法ノ不完全ニシテ不平均ノ甚シキモ尙頗ル大ニシテ英國歲入稅ノ丁種即チ職業商業ノ利益ニ課スル所ノ租稅ノ收入ニ勝ル而シテ被稅者モ亦能ク忍テ之ヲ負擔ス如何トナレハ租稅ノ負擔ハ不平均ナリト雖甚キニ過キサカ故ニ方今ノ人情トシテ私事ヲ探求セラルカ如ク之ヲ



嫌厭スルヲ甚シカラス且ツ佛國人民ハ政治上ニ於テハ温順ナラサルモ財政上ニ於テハ頗ル堪忍ノ氣アルヲ以テナリ  
 營業稅ヲ課スルニ取引高ヲ斟酌スル者トセハ可ナラン取引高ノ稅ノ事ハ嘗テ佛國ニ於テ之ヲ以テ粗生品ノ稅ニ代ヘンヲ論セシ者アリシニ議院ニ於テ僅々タル多數ノ爲メニ遂ニ廢案トナリシ者ナリ當時チエール氏プーエケルチエ氏ハ非常ノ奮發ヲ以テ粗生品稅ノ廢スヘカラサルヲ論セシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ  
 抑取引ノ高ハ營業者ノ實益ヲ表スルニ足ラサルモ相當ノ利益ヲ表スル者ニシテ紡績業ニ於ケル紡錘ノ數織物業ニ於ケル器械ノ數船舶ノ噸數商店ノ家賃ト共ニ商賈製造家ノ利益ヲ推定スル一助トナスヲ得ヘシ或ハ以爲ラク商家ノ取引高ヲ知ルハ敢テ難事ニアラス商賈製造家等ニ取引高ノ申告ヲ請求スルモ大害アルモノニアラス彼輩ハ別ニ帳簿ヲ製シテ之ヲ記載セハ可ナルヘシ其取引高ヲ示メストテ敢テ其信用ヲ傷ケラル者ニアラス又一個人ノ自由ヲ妨ケラル者ニアラサルヘシト或ハ又曰ク賣買取引ノ高ニ租稅ヲ課セハ僅

々タル稅率千分ノ一若クハ千分ノ二ヲ以テ一億フランクノ收入ハ得難キノ額ニアラスト右ノ諸說ハ取引高ノ稅カ議院ノ論題タリシニ當リテ論者ノ主張セシ所ノ者ナリ  
 實ニ取引ノ高ハ商賈製造家ノ利益ヲ表スルヲ方今營業稅ニ用フル所ノ他ノ外標ノ如ク著シキ者ニアラス故ニ取引ノ高ニ基キ新タニ一稅ヲ課セント欲スルハ大ニ誤レリト云ヘシ若シ別ニ取引高ノ稅ヲ置ント欲セハ先ツ營業ノ種類ニ由リ利益ノ割合ヲ量リテ商賈製造家ノ階級ヲ分タサルヘカラス例ヘハ驕奢物ノ生産者ハ通例得ル所ノ利益ノ割合大ニシテ其物價ノ二割若クハ三割ヲ得ルヲ少ナカラス然ルニ消費ノ廣大ナル普通物品ノ生産者ニ至リテハ之ニ異ナリ是等ノ物品ハ原價ト賣價ノ差甚々小ナル者ニシテ其大利ヲ得ル所以ノ者ハ賣買取引ノ多量ナルニアリ卸賣商ノ小賣商ニ於ケルモ亦然リ其利益ハ遙カニ小賣商ヨリ薄シ又殊ニ銀行家仲買等ノ利益ハ取引ノ高ニ比例スレハ非常ニ菲薄ナリトス是ヲ以テ取引高ノ稅ヲ置カント欲スルニ當リテハ固ヨリ毫モ不平均ナキヲ期スヘカラスト雖甚シキ不公平ナク營業職業



ノ級ヲ分チ各々稅率ヲ異ニセサルヘカラスト雖殆ト能クナシ得ヘキノ業ニ  
 アラサルカ如シ或ハ銀行家其營業資本ノ高ニ應シテ稅ヲ課セリ仲買等ハ該  
 稅ヲ課セサルヘシトセリト雖階級ノ數非常ニ多カラサルヘカラストシテ稅率  
 ヲ定ムルニ至リテ其重キニ堪ヘサル者ナカラシメント欲スルモ殆ト得ヘカ  
 ラサラン  
 其收入高ニ至リテモ亦論者カ期望セシ如ク大ナラサルヘキヤ疑ヲ容レサル  
 ナリ佛國ニ於テ賣買取引ノ高ハ論者ノ言ノ如ク巨額ニ達セサルヘシ況ヤ農  
 產品ノ小賣高ヲ除算スルニ於テヲヤ取引高千分ノ一若クハ千分ノ二ノ稅ハ  
 通例一割乃至二割ノ利益ヲ得ル所ノ製造家ニアリテハ輕シト雖僅カニ五分  
 乃至一割ノ利益ヲ得ル所ノ卸賣商ニアリテハ已ニ漸ク重シ仲買等ノ如キニ  
 分三分ノ利益ヲ得ルヲ常トスル者ニ至リテハ其重キニ堪ヘサルヘシ例ヘハ  
 是等ノ營業者ニ取引高ノ千分ノ二ヲ稅ストスレハ輕キハ所得ノ一分重キハ  
 一割トナルヘシ故ニ斯ノ如キ重課ナカラシメント欲セハ其稅率平均一萬分  
 ノ五ニ過クヘカラスト然ラハ則チ其收入ハ三千萬乃至四千萬フランクニ過キ

サルヘシ之ニ反シテ營業稅ヲ增課セハ斯ノ如キ大不便ナクシテ三四千萬フ  
 ランク若クハ其餘ニモ收入ヲ得ヘキナリ  
 又取引高ニ稅稅ヲ課スルキハ同品同位ノ生産物ニシテ稅稅ノ負擔ニ輕重ヲ  
 異ニスルノ患アリ即チ一物品ノ製造ヲナスニ終始一製造處ニ於テスルト數  
 個ノ製造家ヲ經ルトニ於テ負擔スル所ヲ異ニスヘシ例ヘハ茲ニ一ノ巨大ナ  
 ル織物製造處アリ直チニ自ラ外國ヨリ綿ヲ輸入シ之ヲ紡キ之ヲ織リ之ヲ染  
 メテ販賣セハ稅稅ヲ負擔スルコト一回ニ止マル然ルニ一物品ノ大成ニ至ルマ  
 テ數回小製造家ノ手ヲ經ル時ハ大ニ負擔ヲ異ニスヘシ我佛國ノ如キハ中小  
 ノ製造家甚タ多ク紡績家ハ專ラ紡績ヲ業トシ自ラ合衆國ニ通シテ綿ヲ輸入  
 セス其用フル所ノ綿ハハーブルノ仲買商ニ依リテ之ヲ買フ故ニ右ノ綿ハ其  
 賣買ノ時ニ於テ一回稅稅ヲ負擔ス又右ノ紡績家ハ自ラ木綿ヲ織ラスシテ絲  
 ヲ織物家ニ賣ル此ニ於テ第二回ノ稅稅ヲ負擔ス織物家ハ木綿ヲ染メスシテ  
 之ヲ染師ニ賣ル此ニ於テ第三回ノ稅稅ヲ負擔ス染師ハ後之ヲ卸賣商ニ賣ル  
 此ニ於テ第四回ノ稅稅ヲ負擔ス斯ノ如ク同一ノ物品ニシテ事業ノ取扱ヲ分



ツ時ハ政府ニ四回ノ收入アリ之ヲ一處ニスレハ收入一回ニ止マル然ラハ則チ巨大ノ營業者ニ特惠ヲ與ヘテ小營業者ヲ苦シムル者トナルヘシ斯ノ如キ效驗ハ間税ノ通病ニシテ殆ト避クヘカラサル者メルハ既ニ論スル所ノ如シ決シテ取引高ノ税ノミニ止ラサルナリ殊ニ此事タル製造品ニ課スル所ノ税ニ於テ尤モ甚シトス元來自然ノ性質トシテ巨大ノ營業ハ小營業ニ望ムヘカラサル所ノ便益ヲ有スル者ナリ

斯ノ如ク取引高ノ税ハ不便多シト雖營業税ヲ課スルニ當リテ某營業例ヘハ小賣營業殊ニ吳服商ノ如キニ於テハ取引高ヲ以テ營業利益ヲ量ルノ一具トナスヲ得ヘシ

又營業利益ニ課スル所ノ租税ニ加フルニ諸國ニ於ケルカ如キ動産税即チ株式負債証書手形類若クハ普通會社ノ利益ノ配當高ニ課スル租税ヲ以テスルモ可ナリ是等ノ動産ニ税スルハ頗ル便利ニシテ收入必ス多ク又開明國ニ於テハ年ニ收入ヲ増加スヘシ然リト雖之ヲ輕課スルニアラサレハ不便モ亦多シ

政府カ他ノ財産例ヘハ内國政府ノ公債証書及ヒ外國ノ公債証書若クハ一個ノ商會或ハ合名會社ノ利益若クハ不動産書入質貸附証書若クハ無抵當貸附証書ニ歳入税ヲ課セサルニ當リテ獨リ前ニ所謂ル動産税ヲ課スルハ當ヲ得タル者ナルヤト云フ者アラン公平ノ理ヲ以テ之ヲ見ル時ハ特ニ動産税ヲ課スヘカラサルヤ明カナリ元來世人ハ通例動産ハ現ニ毎年ノ配當金利益ノ高ヲ減スル所ノ租税ノ外他ニ租税ヲ負擔セサル者ト信スレトモ大ニ誤レリト云ヘシ如何トナレハ動産ハ只ニ某會社ノ一部分ヲ所有スルヲ表スル者ニ過キスシテ其會社ハ己ニ無數ノ租税例ヘハ地租若シ其會社ニシテ不動産ヲ有スレハ營業税(若シ商工ノ業ヲ營ム時ハ)及ヒ記録印紙ノ諸税ヲ負擔スル者ナレハナリ

然ラハ則チ動産ノ歳入ニ課スル所ノ租税ハ一會社カ己ニ他ノ被税者ト均ク負擔セシ租税ノ外ニ課スル所ノ租税ナリ試ニ苧麻紡績ヲ業トスル無名會社アリトセン該會社ハ一人ニシテ同額ノ資本ヲ以テ同業ヲ營ム者ト均ク諸税ヲ負擔シ加フルニ歳入税トシテ其純利益ニ課セラル、所ノ負擔アリ然ルニ



此租税ニ至リテハ諸國殊ニ佛國ニ於テ獨力ノ紡績家ハ負擔セサル所ノ者ナリ今茲ニ製造家ヲ引証シテ論スル所ノ者ハ銀行營業ニ於ケルモ異ナル所ナシ例ヘハ巴里府ノ「コントワル」デスコントノ如キ無名會社カ拂フ所ノ諸税ハロツシルド銀行ノ如キ獨力ノ大銀行ト毫モ異ナル所ナシ然ルニ「コントワル」デスコントハ又其他純利益ニ租税ヲ拂ハサルヘカラスト雖是レ強敵手ナルロツシルド銀行ノ負擔セサル所ナリ由是觀之ハ別ニ動産税ヲ行フ時ハ組合營業ヲナス者即チ中小ノ營業者ニ課スト雖巨大ノ資本家ニシテ會社條例ノ及ハサル者ニ課セサルノ大不便アリ然レトモ一般ノ歲入税ヲ行フ所ノ國ニ於テハ敢テ此不便ナカルヘシ

動産ノ歲入ニ課スルニ特別ノ税ヲ以テスルヲ當然ナリトスル者ノ説ニ曰ク動産ノ所有者ハ遊食ノ資本家ニシテ自ラ營業ヲ事トセス手ヲ拱シテ會社ノ主事頭取等カ得ル所ノ利益ノ配當ヲ以テ満足スル者ナリ加フルニ動産ノ所有者ハ損失ヲ受クルヲアリト雖限度アリ所有産ノ全力ヲ擧テ一會社ノ爲メニ責任ヲ負ハサルモ可ナリ假令ヒ其會社ノ破産スルヲアリト雖己レノ面目

ニ關スルコトナク又該會社ニ投セサル所ノ資本ヲ失フノ患ナシト此言タル多少理ナキニアラス故ニ會社ノ利益ニ租税ヲ課スルコト獨力營業ノ所得ヨリ少シク重キモ敢テ恕スヘカラスト云フニアラス或ハ又曰ク獨力ノ營業者ハ營業税トシテ其營業處若クハ器械ニ租税ヲ拂フノミナラス其居家ノ家賃ニ營業税ヲ拂フト雖無名會社ニ至リテハ其器械若クハ營業處ニ營業税ヲ拂ヒ株主ノ家賃ニ租税ヲ負ハサルナリト此言モ亦理アリ然レトモ一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ之ニ對フル辭ナキニアラス即チ會社ハ資本ニ於テ株式或ハ負債証書ノ印紙税ヲ拂フコト多シト雖獨力營業者ニ至リテハ毫モ之ヲ負ハサルコト是ナリ右ノ印紙税ハ証書額面ノ一分ニシテ一時ニ全額ヲ拂ハシムルアリ或ハ毎年一度之ヲ拂ハシムルアリ

動産ノ所有者ヲ稱シテ遊食ノ資本家ナリト云フト雖豈ニ獨リ動産ノ所有者ノミナランヤ政府ノ公債証書ノ所有者不動産書入質貸附証書ノ所有者差金會社ノ有限株主無抵當ノ貸附証書ノ所有者モ亦毫モ動産ノ所有者ト異ナル所ナシ然ラハ則チ道理ニ於テモ推理ニ於テモ是等ノ財產家ハ動産ノ所有者



ト均シク歳入税ヲ課スヘキナリ佛國ニ於テ動産ノ所有者ト均シク處スル者ハ獨リ差金會社ノ有限株主ノミ  
 元來佛國ニ於テハ政府ノ公債証書抵當貸金不動産書入質貸附証書無抵當貸附証書ノ所有者ニ歳入税ヲ課セス就中無抵當貸附証書ニ税セサルハ見易キノ理アリ如何トナレハ此類ノ証書所有者ニ税スルコトハ容易ナラサレハナリ只此輩ハ一般ノ歳入税ニ於テ税スルヲ得ヘキノミ政府ノ公債証書ニ歳入税ヲ課セサル者ハ一ハ偏見一ハ計算上ニ由ル世ノ偏見論者以爲ク政府ノ公債証書ニ至リテハ政府自ラ負債主ニアラスヤ然ルニ租税ノ名ヲ以テ其拂フヘシト約束セシ利子ノ高ヲ減スルハ政府ノ權ヲ濫用シ不信ヲ天下ニ示メス者ナリト論者ノ言迷ヘルモ亦甚タシ矣余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ之ヲ論究シ其迷妄ヲ挫折セントス然リト雖利益上ヨリ少シク考フル時ハ政府ハ必スシモ其公債証書ニ動産ノ歳入税ヲ課セサルモ可ナリ政府ノ公債証書ハ租税ナキヲ以テ他ノ有税証書ニ比較シテ税額ノ割合ニ賣買價格貴シ故ニ政府ハ負債ノ交替ヲナサハ利子ノ百分ノ一若クハ千分ノ五ヲ減スルヲ得ヘシ此方法

ニ就テハ詳ニ國債ノ部ニ論スヘキヲ以テ今茲ニ辨論セスト雖政府ノ爲メニハ遙カニ租税ヲ課スルヨリ利アリ佛國ノ三分利付公債証書ノ如キ遙ニ平價以下ニテ發行セシ者ニシテ容易ニ平價ニ達スヘキ見込ナキ公債証書ト雖租税ヲ課セサルニ利アリ如何トナレハ政府ノ公債証書所有者ヲシテ佛國政府ハ決シテ其公債証書ニ租税ヲ課セサル者ナリト信セシムルヲ得レハナリ佛國ニ於テハ習慣ノ久シキ政府ト公債証書ノ所有者ノ間ニ默約ヲ生シ政府ニ於テハ自ラ發行セシ公債証書ニ租税ヲ課スヘカラサルカ如キ形狀トナリ若シ之ヲ破ル時ハ信義ヲ失フカ如キ姿トナレリ故ニ之ニ租税ヲ課セント欲セハ一般ノ歳入税ヲ以テ申告法ニ據リ間接ニ之ヲ施コスニアラサレハ紛議ヲ免レサルヘシ

佛國ニ於テ不動産書入質貸附証書ニ租税ヲ課セサルハ毫モ條理アルニアラス或ハ云フ是レ農業ヲ保護スルノ意ナリト然ルニ無名會社カ發行スル所ノ負債証書ハ工業ニ用フルアリ時トシテ農業ニ用ユルアリ法律上ニ於テハ工業ヲ措テ寧ロ農業ノ爲メニスヘシト云フヲ得ヌ加之ナラス不動産書入ノ貸



附ハ農業改進ノ目的ヲ以テスル者殆ント稀ナリ不動産書入ヲ以テ負債ヲ起  
 ス者ハ我所有産ノ改進ヲナサント欲スルニアラスシテ己レノ不注意ヨリ信  
 用買ヲナシタル物品代價ノ仕拂或ハ舊債ノ仕拂或ハ他ノ費用ニ供スルカ爲  
 メニスル者ナリ斯ノ如ク通例不動産ノ書入ヲ以テ負債ヲナスハ其所有産ヲ  
 會社ニ賣渡シテ之ヲ利用スルニアリ然ラハ則チ不動産書入質貸附証書ハ毫  
 モ特權ヲ有スルノ理ナカルヘシ然ルヲ之カ租稅ヲ除スル時ハ甚キ不公平ヲ  
 生スヘシ佛國ニ於テハ一個人ノ不動産書入質貸附証書ハ租稅ヲ課セスト雖  
 「クレヂフオンシエ」ノ發行セル負債証書ニシテ只不動産抵當ノ貸附ヲ表スル  
 ニ過キサル者ハ歲入稅ヲ課ス是レ一個人ノ債主ヲ惠ミ貸附會社ヲ苦シムル  
 者ト云ヘシ

加フルニ佛國ニ於テ不動産書入質貸附証書ノ歲入稅ヲ免除スルハ一時ノ情  
 狀ヨリシテ此ニ至リシ者ナリ嘗テ千八百七十一年ノ國會ハ鄉村ノ議員多數  
 ニシテ農民ニ私シテ製造地方ノ民ヲ苦ムルヲ厭ハス多數ノ力ヲ以テ農民  
 ニ特權ヲ許スニ至レリ又一ニハ佛國ノ大福難ニ際シテ政府ハ大ニ國債ヲ募

リ六分若クハ多キハ六分二五ノ利子ヲ拂ヒシカ故ニ不動産抵當ヲ以テ資本  
 ヲ貸與スルコトハ概シテ好マサルコトナレリ其此ニ至リシ所以ノ者ハ他ナシ  
 不動産ノ抵當ニ資本ヲ貸與スルモ得ル所ハ五分ニ過キスト雖政府ノ公債ヲ  
 買フ時ハ至安ニシテ六分乃至六分二五ヲ得タルニ由ル然ルヲ當時ハ人之ヲ  
 以テ罪ヲ租稅ニ歸セリ佛國ノ法政府ノ公債ハ六分二五若クハ多キハ七分五  
 (「モルガン」公債ノ如キ)ノ利子ヲ附スルヲ許スト雖一個人ノ負債ハ常事ニ於テ  
 五分以上ノ利ヲ附スルヲ許サス故ニ斯ノ如キ大變況ナカラシメハ不動産書  
 入質貸附証書ニ歲入稅ヲ課スルモ決シテ該負債ノ維持若クハ發達ヲ妨クル  
 コトナカルヘシ

抑動産ノ歲入稅ヲ論スルニ當リテ研究セサルヘカラサル者ハ該稅實際ノ負  
 擔是ナリ實際該稅ヲ負擔スル者ハ果シテ誰ソヤ該稅ノ爲メニ証書所有者ノ  
 配當金若クハ年々ノ利子ヲ減シテ之ヲ負擔スル者ハ其所有者ニアルカ將  
 該稅設置ノ際ニ於テ一時ニ証書ノ價格ニ於テ租額ノ倍乘高ヲ減シ之ヲ負擔  
 スル者ハ當時ノ所有者ニアルカ又將來ニ負債証書ヲ發行セント欲スル者ハ



証書ノ價格租稅ノ爲メニ割合ニ著ルシキ減少ヲ致シテ自ラ歲入稅ノ全額ヲ負擔スヘキカスノ如クシテ動產ノ歲入稅ハ内國ノ資本外移ヲ促カシ外國ノ資本來集ヲ妨クルノ患ナキヤ

該稅ノ負擔ハ場合ニ由リテ其歸着ヲ異ニスヘシ一國若シ一般ノ歲入稅ヲ行ヒ之ヲ輕課シ且ツ下等ノ歲入ハ若干額以下ニ稅セサル時ハ歲入稅ヲ負擔スル者ハ實地ニ利子及ヒ配當金ヲ受クル者ニアリト云フヲ得ヘシ斯ノ如クナレハ歲入稅ノ名ニ反カサル者ト云ヘシ方今英國ニ於ケルカ如キ是ナリ然ルニ歲入稅ノ及フ所ハ特ニ動產ニシテ他ノ財產不動產書入質貸附証書無抵當貸附証書一個人ノ營業利益内外政府ノ公債証書ニ及ハス殊ニ稅率重キ時ハ該稅ノ爲メニ現今將來ノ動產兩ツナカラ其價格ヲ減スヘシ而シテ其減少ハ殆ト租額ノ倍乘高ニ均シカルヘシ是故ニ共資營業ヲナス者ハ其發行スル所ノ負債証書ノ價格減少ノ爲メニ更ニ負擔ノ重キヲ苦マサルヘカラス

右ニ言フ所ノ結果ハ寧ロ條理論ニシテ純ラ事實ニ徵スル者ニアラス之ヲ實際ニ見ル時ハ往々其結果ヲ折衷スルヲ少ナカラス例ヘハ佛普戰爭以後佛國

鐵道會社ノ負債証書ハ其歲入ノ三分ヲ稅シ三分利ノ公債証書ニハ租稅ヲ及ボサスト雖試ニ現今千八百七十六年ノ初メ鐵道會社負債証書ノ市價ヲ以テ三分利公債証書ノ市價ニ比スレハ其最良ナル兩証書市價ノ比例ハ戰爭以前ニ異ナルナキヲ見ルヘシ世或ハ其事實ヲ見テ歲入稅ハ以テ負債証書ノ價格ヲ減スルニ足ラストセン然ルニ是レ當然ノ見ニアラスト云ヘシ實ニ佛國人民ハ初メ鐵道會社負債証書ノ安全ナルヲ知ラサリシト雖困難ノ時ニ當リテ敢テ大ニ價格ヲ失ナハス又公債証書ハ政府ノ保護ニ止マレトモ鐵道會社ノ負債証書ハ政府保護ノ外尙舊建築鐵道ノ純歲入ニハ特別ノ利ヲ有シ且ツ年ニ其收入ノ増加スルヲ見テ却テ安全ナル思ヒヲナシ所謂實驗ニ據リ此五年間ニ於テ鐵道會社ノ負債証書ハ政府ノ公債証書ト均シク安全ナリト思フニ至レリ從前ハ政府ノ公債証書ト鐵道會社ノ負債証書ノ間ニハ凡ソ五分五ノ利子ノ差ヲ存スルハ當然ナリト思ヒシモ此ニ於テカスノ如キ差違ヲ存スルニ足ラストナスニ至レリ故ニ此效驗ヲ見テ假令ヒ政府ハ鐵道會社負債証書ノ歲入ニ租稅ヲ課セサルモ該証書ノ價格ハ十五フランク若クハ二十フラン



ンクヲ騰貴セサルヘシト云フヘカラス  
 特ニ動産ニ租税ヲ課シ他ノ証書類ニ均シク租税ヲ課セサル時ハ動産ノ價格  
 ハ常ニ租額ノ倍乘高即チ其國ノ習慣ニ從ヒ動産ノ種類ニ應シテ租額ノ十五  
 倍二十倍若クハ二十五倍ニ均シキ高ヲ減スヘク又租税設置ノ後ニ出ツル所  
 ノ動産ハ其初メニ於テ該額ニ均シク價格ヲ減スヘシ例ヘハ甲乙ノ二國アリ  
 (佛國白耳義トシ)疆域相接シ開明ノ度富ノ大小信用ノ厚薄共ニ相同フシテ一  
 ノ營業會社(假リニ鐵道會社トナシ)アリトセン是等ノ會社ハ均ク繁榮ニシテ  
 同時ニ負債証書ヲ發行セン然ル時ハ白耳義鐵道會社負債証書ノ價格ハ必ス  
 貴ク佛國鐵道會社負債証書ノ價格ハ必ス低カルヘシ如何トナレハ白耳義會  
 社負債証書ノ歲入ハ租税ナリ佛國會社負債証書ノ歲入ハ租税ヲ負擔スヘケ  
 レハナリ故ニ佛國ノ鐵道會社ハ其証書ノ價格ヲ減スルヲ以テ敵手ニ對シテ  
 不利ノ位地ニアリト云ヘシ余輩カ此ニ言フ所ノ者ハ只ニ鐵道會社ニ止マラ  
 ス紡績業炭坑業製鐵業等如何ナル營業會社ニ於ルモ皆同理ニシテ佛國ニ於  
 ケル會社ノ株主ハ直接ニ株主配當金ニ課シ租税ヲ負擔スルノミナラス間接

ニ又租税設置後ニ發行スル所ノ負債証書ノ利子ニ課スル租税ヲ負擔セサル  
 ヘカラス  
 佛國ニ於テ動産ノ歲入税ハ僅ニ三分ニシテ敢テ重シト云フニアラスト雖証  
 書ノ讓與税アルカ爲メニ之ヲ増加ス右ノ讓與税ハ証書ノ所有主ヲ轉スル毎  
 ニ課スル所ノ者ニシテ年賦ニ之ヲ徵收ス故ニ實際ニ於テハ年々其利子若ク  
 ハ配當金ノ高ヲ減スルト大ニシテ動産所有者ノ負擔スル所ノ税額ハ配當金  
 利子ノ六分若クハ七分ニ達ス或ル鐵道會社ノ負債証書ハ利子ノ高十五フラ  
 ンクニ付一フランク五サンチム若クハ一フランク十サンチムヲ負フ此  
 ノ如キハ七分乃至八分ノ負擔トナル無名會社株式ノ價格ハ殆ト其割合ニ減  
 スヘキヤ疑ヲ容レサル所ナリ若シ既設ノ會社ニシテ負債証書ヲ發行スルニ  
 當リ其價ヲ減シテ自ラ証書ノ利子ニ課スル租税ヲ負擔スルニアラサレハ内  
 地ノ資本ハ大ニ外國ニ轉移スヘシ

特ニ動産ノ歲入税ヲ課スルニ當リ尙一點ノ論究スヘキアリ則チ内國ノ動産  
 ニシテ外國人ノ所有タル部分并ニ外國發行ノ証書ニシテ動産税ヲ課スル所



ノ國ニアル部分ニ該稅ヲ課スヘキヤ否ヤ是ナリ佛國ニ於テハ兩ナカラ之ヲ課スヘキ者トナシ無名會社ノ證書ハ其白耳義ニアル者日耳曼ニアル者以太利ニアル者ヲ問ハス悉ク動產ノ歲入稅ヲ課セリ佛國ノ證書ニシテ外國ニアル者ハ該稅ヲ課セサルヘシトナスハ宜キヲ得ル者ニアラス若シ之ヲ免除セハ内國ノ動產所有者ニシテ租稅ヲ免カル者多カルヘシ如何トナレハ外國市府ニ於テ證書ヲ出シ利子ノ仕拂ヲ請求セハ該稅ヲ避クルト容易ナルヘケレハナリ余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ政府ノ公債證書ニ於テハ時トシテ外國ノ所有者ニ特惠ヲ與フト雖其弊ヲ避ケンカ爲メニ外國ニ於テ全額ノ仕拂若クハ金貨ニテ仕拂ヲ請フ者アレハ誓書ヲ要シ利札ノミナラス本證書ヲ示メサシムルコアルヲ論スヘシ實際ノ經驗ニ由テ之ヲ見ルニ是等ノ方法ハ無益ニアラスト雖亦全ク奸曲ヲ禁スルニ足ラス

政府ノ公債證書ニ課スル租稅ノ事ハ國債ノ論題ニ屬スル者タルヲ以テ後篇ニ遺シ敢テ本篇ニ論究セサルヘシト雖尋常ノ動產ニ關スル者ハ此ニ之ヲ論セン凡ソ動產ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ外國ニアル所ノ證書ト雖租稅ヲ除

クヘカラス又内國ニ流通スル所ノ外國證書モ均ク之ヲ稅スヘシ然レトモ其之ヲ發行セル國ニ於テ已ニ我カ課スル者ト均シク歲入稅ヲ課スル時ハ之ヲ稅セサルヲ要ス如何トナレハ若シ兩國政府ニ於テ交モ一ノ動產ニ租稅ヲ課セハ證書ノ所有者ハ毫モ得ル所ナカルヘケレハナリ例ヘハ以太利ニ於テハ動產稅トシテ一割三分二ヲ課ス故ニ三分利ノ負債證書五百フランクノ歲入ハ十五フランクノ名アリト雖實際ハ十三フランクニサンチムニ過キス若シ佛國政府ニ於テ又別ニ六分若クハ七分(歲入稅讓與稅ヲ合セタル稅率)ヲ課セハ益之ヲ減シ只ニ純歲入ハ十二フランク十サンチムトナルヘシ是レ兩國政府相合シテ凡ソ歲入ノ二割ヲ徵收スル者ナリ豈ニ過重ト云ハサルヘケンヤ

佛國ノ如ク特ニ動產ノ歲入ニ稅シ之ニ加フルニ讓與稅ヲ以テシ負擔ヲ重フスル時ハ一國ヲシテ國際ノ財產即チ萬國市場ニ賣買セラル所ノ財產ヲ所有セシムルコトヲ妨クルノ不便アリ目下スエズ堀割大業ノ株式ノ如キ是ナリ世人ハ此事業ヲ以テ全ク佛國人ノ手ニ成ルト稱スト雖是自ラ其實況ヲ知ラサ



ル者ト云フヘシ近年英國ハ埃及王カ千八百九十四年迄所有權ヲ抛チシ所ノ株式十七萬六千六百二箇ヲ購ヘリ二十二萬三千三百九十八株并ニ該會社ノ手形負債証書及ヒ他ノ財產ハ可成丈ケ佛國ノ所有ニ存セシムルハ邦家ノ利ナリ然ルニ是等ノ証書ノ大數ヲシテ漸次英國若クハ荷蘭ニ歸セシムルニ二大原因アリ第一英蘭二國ニ於テハ資本ノ利子佛國ニ於ケルヨリ低シ故ニ動產ノ市價佛國ニ於ケルヨリ大ナリ此形情タル故意ヲ以テ左右スルヲ得ヘキ者ニアラス又如何トモスル能ハス然ルト雖尙茲ニ佛國法律ノ爲メニ同一ノ效驗ヲ生スル者アリスエズ堀割會社ノ証券ハ佛國ニ於テ歲入稅ヲ課シ又讓與稅トシテ年賦ニ其配當金若クハ利子ニ課スルヲ以テ負擔頗ル重シ元來スエズ堀割會社ハ法律上ニ於テ埃及ノ會社ニシテ佛國ノ會社ニアラサルカ故ニ諸外國ニ流通スル所ノ該會社ノ証券ハ是等ノ二稅ヲ負擔セスト雖佛國ニ於テハ二稅ヲ合セテ實際歲入ノ八分ヲ負擔ス然ラハ則チ英國人民荷蘭人民カ來リテ之ヲ買去ルモ亦宜ヘナラスヤ

英國ニ於テハ動產ノ歲入ニ稅アリト雖甚々輕ク方今ハ百分ノ一ニ達セス

加フルニ一般ノ歲入稅ノ一部ニシテ歲入二千五百「フランク」ニ達セサル者ハ之ヲ除ク

佛國動產ノ歲入ニ課スル所ノ稅率ハ三分ニシテ千八百七十五年ノ收入高ハ實ニ三千四百五十萬「フランク」トス凡ソ毎年百五十萬「フランク」ノ増加アリ實ニ動產ノ歲入稅ハ良稅ニアラス特ニ之ヲ課スヘカラス假令ヒ之ヲ課スルモ一般ノ歲入稅ニ於テスヘシ然ルニ國庫ノ空乏ナル者ハ其不便ヲ厭ハスシテ動產ノ歲入ニ特別ノ稅ヲ課スル者アリ假令ヒ之ヲ行フモ能ク其短處ヲ解シ誤テ動產ノ所有主ヲ以テ地主ト同一視スル勿レ動產ハ則チ所有產若クハ資本ノ証表ニシテ已ニ國內ノ諸稅ヲ負擔スル者ナリ豈ニ不動產ト同視スヘキモノナランヤ